

だ平定せざるを憂ふればなり。今や武帝の宿將多くは老死せるも、世尚ほ賢將に乏しからず。然れども宿將舊卒尙ほ戰を習ひ、報效の事に勤む。臣が志亦君の爲に一身を投ずるに在り。今若し陛下の詔により臣をして軍伍に加はらしめば、たとひ吳主蜀相を擒殺する能はざるも、必ず其首長を虜にし、賊黨を殄すを得べし。若し少時の勝を得て、素餐の愧を雪ぎ、名を史乘に掲ぐるを得ば、死するも猶ほ生くるが如し。若し然らずして、徒に厚祿を食みて世に益なくんば、檻中に飼養せらるる禽鳥に異ならず。此れ臣の志にあらざるなり。

流聞するに、東軍備を失ひ、師徒小衄すと。食を輟め餐を棄て、袂を奮ひ衽を攘げ、劔を撫して東顧し、而して心已に。吳會に馳す。臣昔先武皇帝に従ひ、南のかた赤岸を極め、東のかた滄海に臨み、西のかた玉門を望み、北のかた玄塞を出づ。伏して軍を行り兵を用ふる所以の勢を見るに、神妙と謂ふべし。故に兵は豫言すべからず、難に臨みて變を制する者なり。志自ら明時に效し、功を聖世に立てんと欲す。史籍を覽て古の忠臣義士、一朝の命を出し、以て國家の難に殉し、身屠裂せらるると雖も、功銘景鍾に著しく、名稱竹帛に垂るるを觀る毎に、

- 【四四】 流聞。傳聞なり。
- 【四五】 東軍。曹休吳を伐ちて皖に至り、吳將陸遜と石亭に戦ひて敗る。
- 【四六】 師徒。兵衆なり。小衄は
- 【四七】 吳會。吳郡會稽郡。
- 【四八】 先武皇帝。曹操をいふ。
- 【四九】 明時。昭代なり。
- 【五〇】 一朝の命。久しからざる

敗績。

未だ嘗て心を拊ちて歎息せずんばあらざるなり。臣聞く明主の臣を使ふや、有罪を廢てず。故に奔北敗軍の將、秦魯に用ひられて以て其功を成し、纓を絶ち、馬を盗むの臣、楚趙に赦されて以て其難を濟へり。臣竊に先帝早く崩じ、威王世を棄てしに感ず。臣獨り何人ぞ以て長久なるに堪へん。常に恐くは朝露に先だちて、溝壑に填し、墳土未だ乾かずして身名竝に滅びんことを。臣聞く、騏驥長鳴して伯樂其能を昭にし、盧狗悲號して韓國其才を知る。是を以て之を齊楚の路に效し、以て千里の任を逞うし、之を狡兔の捷に試みて、以て搏噬の用に驗せりと。今臣狗馬の微功に志す。竊に自ら惟度するに、終に伯樂韓國の擧な

生命。  
【五一】 景鍾。大鐘なり。  
【五二】 名稱。一本に名績に作る。  
【五三】 秦。秦の繆公の時、孟明視、西乞術、白乙丙の三將晉と戦つて敗る。後復た之を將として勝てり。魯の莊公曹沫を將とし齊と戦つて敗る。後復た之を將として勝てり。  
【五四】 纓を絶つ。纓は冠の紐。説苑に「楚の莊王羣臣に酒を賜ふ、日暮れ燭滅す、王の美人の衣を引く者あり、美人乃ち挽きて冠纓を絶ち以て告ぐ、王曰く人に飲ましむるに酒を以てす、如何ぞ人を責むるに禮を以てせんと、乃ち左右に命じて火を上るなからしめて曰く、寡人と飲み纓を絶たざる者は懼せざるなりと、羣臣皆纓を絶つ、然る後火を擧ぐ、後晉と戦ふ、美人の衣

を引きし者五合五獲し以て莊王に報ゆしとあり。  
【五五】 馬を盗む。秦の穆公馬を失ふ、野人之を取りて食ふ、公曰く駿馬の肉を食ひて酒を飲まずんば恐くは汝を傷はんと、乃ち酒を賜ふ、後穆公晉と戦ひ其の圍む所となる、野人三百餘人を率ゐて力戦し、公の圍を解き其恩に報ゆ。此れ秦の事なるに今趙となすは趙と秦とは、其祖を同うすればなり。  
【五六】 先帝。文帝を指す。曹植の兄なり。  
【五七】 威王。任城王彰。諡して威といふ。曹植の兄なり。  
【五八】 溝壑に填す。己の死することを謙していふ。  
【五九】 騏驥。駿馬なり。伯樂は馬を知る人の名。  
【六〇】 盧狗。名犬の名。韓國は



し、是を以て 於邑して竊に自ら痛む者なり。

【大意】 傳聞する所に據れば、東伐の軍少し

犬を知る人の名。  
狡鬼の捷、捷は敏速。

【六三】 於邑、嘆息なり。

く利あらずといふ。臣乃ち憤慨して心を呉に馳す。臣は嘗て武帝に従つて東西に轉戦し、頗る軍を行の術に通じ、又よく機に臨み變に應ずるの策を知れり。因つて功を聖世に立てんことを願へり。史籍を觀て古の忠臣義士、國家の難に殉し、功名を竹帛に垂るるを見る毎に、未だ嘗て胸を打つて嘆息せずんばあらざるなり。且つ明主の臣を用ふるや、有罪の人を廢てず、故に能く大功を成す。(武帝嘗て植を立てて世子となさんとす。賈詡の諫に因りて止む。文帝乃ち植と隙あり。因つて植を貶せり。故に此言あるなり) 臣竊に思ふに、二兄皆早世せり。臣亦當に長壽を保つ能はざるべし。若し一朝忽然として死せば身命ともに滅びん。是れ事功を立つるに急なる所以なり。然も知己の舉用に遇はず。是を以て嘆息して自ら傷む。

夫れ 博に臨んで企竦し、樂を聞いて竊に拊つ者は、或は音を賞して 道を識るあればなり。昔毛遂は趙の 陪隸なり。猶ほ錐囊の喩を假りて以て主を寤し功を立つ。何ぞ況んや 巍巍たる大魏、多士の朝にして、慷慨難に死するの臣

【六三】 博。局戲なり。雙陸の類。企竦は足を爪だてて見ること。  
【六四】 道。棊道なり。  
【六五】 陪隸。陪臣なり。  
【六六】 巍巍。盛なる貌。

なからんや。夫れ自ら街ひ自ら媒するは、士女の醜行なり。時を干し進を求むるは、道家の明忌なり。而かも臣敢て陛下に陳聞する者は、誠に 國と形を分ち氣を同し、憂患之を共にする者なればなり。冀くは塵露の微を以て山海を補益し、螢燭の末光輝を日月に増さんことを。是を以て敢て其醜を冒して其忠を獻す。必ず朝士の爲に笑はるるを知るも、聖主は人を以て言を廢てず。伏して惟るに陛下少しく神聽を垂れば、臣則ち 幸なり。

【六七】 國。天子をいふ。形を分ち氣を同うすとば文帝と兄弟なるをいふ。

【大意】 人の博するを見、立つて之を覗ひ、樂を奏するを聞き、竊に節を撃つ者は、博と樂とに心得ある者なり。己の試みられんことを求むるも、身に兵術の素養あればなり。自ら街ひ自ら薦むるは醜行なり。然も臣が自ら求めて試用を請ふは陛下と骨肉の親あり、憂患を共にするが爲なり。固より微力にして國家の 補をなすに足らず。敢て醜行を冒して自ら薦むるは、朝士の笑を買ふべしと雖も、陛下は必ず臣の言を棄てざらん。若し聽許を賜はば臣の大幸なり。

親親を通ぜんことを求むる表

曹 子 建

臣植言す。臣聞く、天その高きを稱する者は、

【一】 親親云云。文帝の諸王の 入朝を聽さざるを以て表を上



覆はざるなきを以てなり。地その廣きを稱する者は、載せざるなきを以てなり。日月その明を稱する者は照さざるなきを以てなり。江海その大を稱する者は、容れざるなきを以てなりと。故に孔子曰く、大なる哉堯の君たるや、惟れ天を大なりとなす。惟れ堯之に則ると。夫れ天徳の萬物に於ける、弘廣と謂ふべし。蓋し堯の教たる、親を先にして疏を後にし、近きより遠きに及ぼす。其傳に曰く、克く俊徳を明にして以て九族を親み、九族既に睦しくして百姓を平章すと。周の文王に及び、亦その化を崇ぶ。其詩に曰く、寡妻に刑り、兄弟に至り、以て家邦を御むと。是を以て雍雍穆穆として風人之を詠す。昔周公、管蔡の威ならざるを弔み、廣く懿親を封じて以て王室に蕃屏とす。傳に曰く、周の宗盟、異姓を後となすと。誠に骨肉の恩爽へども離れず、親を親むの義寔に敦固に在り。未だ義にして其君を後にし、仁にして其親を遺るる者あらざるなり。

【大意】 天地日月は覆載照臨せざる所なし。故に其徳弘廣なり。堯之に則り以て天下を治む。周の文王亦同じ。周公亦この道を以て親戚を親めり。兄弟の親は一時差舛することなきにあらざれども、竟に離隔に至らざればなり。固より當に敦厚なるべし。蓋し仁者は其親を棄てず。親を棄てて能く仁義を行ふ者は未だこれあらざるなり。

- 【一】 覆はざるなきを以てなり。
- 【二】 大なる哉。論語の文なり。
- 【三】 克く云云。書經堯典の文なり。
- 【四】 百姓。百官なり。平章は平和章明なり。
- 【五】 寡妻。嫡妻なり。文王の妃大姒を指す。
- 【六】 雍雍穆穆。和睦なり。
- 【七】 風人。詩經の詩を作れる人。
- 【八】 管蔡。周公の弟管叔蔡叔なり。
- 【九】 懿親。親族なり。
- 【一〇】 蕃屏。藩屏なり。
- 【一一】 宗盟。盟會なり。
- 【一二】 敦固。厚固なり。

文王亦同じ。周公亦この道を以て親戚を親めり。兄弟の親は一時差舛することなきにあらざれども、竟に離隔に至らざればなり。固より當に敦厚なるべし。蓋し仁者は其親を棄てず。親を棄てて能く仁義を行ふ者は未だこれあらざるなり。

- 【一】 覆はざるなきを以てなり。
- 【二】 大なる哉。論語の文なり。
- 【三】 克く云云。書經堯典の文なり。
- 【四】 百姓。百官なり。平章は平和章明なり。
- 【五】 寡妻。嫡妻なり。文王の妃大姒を指す。
- 【六】 雍雍穆穆。和睦なり。
- 【七】 風人。詩經の詩を作れる人。
- 【八】 管蔡。周公の弟管叔蔡叔なり。
- 【九】 懿親。親族なり。
- 【一〇】 蕃屏。藩屏なり。
- 【一一】 宗盟。盟會なり。
- 【一二】 敦固。厚固なり。







る所なく、發義も與に展ぶる所なし。未だ嘗て樂を聞いて心を拊ち、觴に臨んで歎息せずんばあらざるなり。臣伏して以爲らく犬馬の誠は人を動かす能はず。譬へば人の誠の天を動かす能はざるがごとし。城を崩し、霜を隕す。臣初め之を信ず。臣が心を以て況ふれば徒虚語のみ。葵藿の葉を傾くるが若きは、太陽之が爲に光を廻らさずと雖も、終に之に向ふ者は誠なり。臣竊に自ら葵藿に比す。若し天地の施を降し。三光の明を垂るる者は、寔に陛下に在り。

【大意】臣は固より無能なれども、臣をして異姓の臣たらしめば、敢て朝士に劣らず。若し封侯たるを免じて武將に任せられ、或は駙馬、奉車の職を命ぜられ、或は京師に在りて陛下に侍するを得しめば、臣の至願にして、夢寐に忘れざる所なり。今常に骨肉相親むを得ざるを嘆き、塊然として獨居す。ああ臣の至誠も陛下の心を動かす能はず。然も尙ほ此表を上りて以て歎願するは、即ち葵藿の誠あればなり。陛下願くは天地日月の恩を垂れ給へ。

臣聞く、(五) 文子曰く、福の始とならず、禍の先とならずと。今の(五) 否隔、(五) 友于愛を同うす。而るに臣獨り唱言するは何ぞや。竊に聖代に於

【五】 城を崩す。列女傳に「齊の莊公莒を襲ひ、杞梁殖戰死す、其妻其夫の屍に就き城下に哭す、十日にして城之が爲に崩る」とあり。  
【五】 霜を隕す。淮南子に「鄒衍忠を燕の惠王に盡す、王讒を信じて之を繋ぐ、衍天を仰いで哭す、正夏にして天之が爲に霜を降す」とあり。  
【五】 葵藿。草の名、ひまわり。  
【五】 三光。日月星なり。  
【五】 文子。姓は辛、葵丘濮上人なり、稱して計然といふ。

て施を蒙らざる物あり、必ず(五) 慘毒の懷あらしむるを願はざればなり。故に(五) 栢舟に天只の怨あり、(五) 谷風に弃予の歎あり。(五) 伊尹は其君の堯舜たらざるを恥づ。孟子曰く、舜の堯に事ふる所以を以て其君に事へざる者は、其君を敬せざる者なりと。臣の愚蔽固より(五) 虞伊にあらず。陛下をして(五) 光被時雍の美を崇び、(五) 緝熙章明の徳を宣べしめんと欲するに至りては、是れ臣が(五) 悽悽の誠、竊に獨り守る所なり。寔に(五) 鶴立企佇の心を懷き、敢て復た陳聞する者は、陛下の儻くは天聰を發して、神聽を垂れんことを冀へばなり。

【大意】文子曰く、福の始とならず、又禍の先となざれと。今諸王隔絶の憂を抱けども、未だ陛下に上表せる者あらず。臣獨り率先して此表を上つるは何ぞや。聖代に於て恩澤を蒙る能はず、爲に憂怨を抱く者あるを好まざればなり。夫れ臣たる者は、舜の堯に事へし所以の心を以て其君に事ふべきなり。臣の固陋なる、固より舜に及ばず。然れども陛下をして堯の盛徳あらしめんことは

范蠡之に師事す。  
【五】 否隔。兄弟の隔絶せること。  
【五】 友于。兄弟なり。  
【五】 慘毒。憂怨なり。  
【五】 栢舟。詩經の篇の名。「母也天只、不諒人只」の句あり。  
【五】 谷風。詩經の篇の名。「將安將樂、汝轉弃予」の句あり。  
【五】 伊尹。殷の賢臣なり。  
【五】 虞伊。舜と伊尹となり。  
【五】 悽悽。謹慎なり。  
【五】 鶴立。轉せざること。  
【五】 企佇。踵を擧げて待つこと。  
【五】 光被時雍。書經堯典に「允に恭しく克く讓り、四表に光被す」、「萬邦を協和し、黎民於變り時れ雍ぐ」とあり。  
【五】 緝熙章明。詩經に「維れ清く緝熙たり、文王之典、書經堯典に「百姓章明」とあり。  
【五】 鶴立。轉せざること。  
【五】 企佇。踵を擧げて待つこと。



臣の願なり。故に儻くは陛下の神聽を垂れ給はんことを冀ひ、此表を上る所以なり。

開府を讓る表

羊叔子

臣謁言す。臣昨出づ。伏して恩詔を聞くに、臣を抜いて台司に同じからしむと。臣出身より以來、

適に十數年の任を外内に受け、毎に顯重の地を極む。常に以らく智力は彊めて進むべからず、

恩寵は久しく謬るべからずと。夙夜戰慄し榮を以て憂となす。臣古人の言を聞くに、徳未だ衆の服する所とならずして高爵を受ければ、則ち才臣をして進まざらしめ、功未だ衆の歸する所とならずして厚祿を荷へば、則ち勞臣をして

勸まざらしむと。今臣身外戚に託し、事運會に遭ふ。誠過寵に在りて遺てらるるを患へず。而るに猥に超然として發中の詔を降し、非次の榮を加ふ。臣何の功ありてか以て之に堪ふべき。何の心か以て之に安んずべき。身を以て陛下を誤り、高位を辱うせば、傾覆も亦尋で至らん。復た

- 【一】羊叔子。羊祜、字は叔子。晉の泰山の人、晉の武帝祜を以て荊州諸軍事を都督せしめ、又車騎將軍開府儀同三司となす、祜表を上りて讓る。
- 【二】台司。三公なり。開府儀同三司とは威儀百物三公に同じからしむるなり。
- 【三】古人。管子なり。
- 【四】外戚。祜の姊司馬師に配す。
- 【五】運會。よき時運。晉の初めて興るをいふ。
- 【六】發中。中心より發すること。
- 【七】非次。班次に依らざること。

先人の弊廬を守らんとを願ふも、豈得べけんや。命に違へば誠に天威に忤ふ。曲從すれば即ち復た此の若し。蓋し聞く、古人は知らるるに申び、大臣の節不可なれば則ち止むと。臣は小人なりと雖も、敢て蒙る所に縁りて、斯義を存せんことを念ふ。

【大意】

臣昨日休沐を賜りて歸る。詔あり臣を拔擢して開府儀同三司となす。臣は出身より以來、

常に顯要の位にあり。然れども臣が智は自ら勉めて進む能はず。恩寵は虚して之を受くべからず。是を以て日夜憂慮しつあり。今又詔ありて非次の榮に浴す。何ぞ自ら堪ふるを得んや。然れども

詔に違へば天威に背き、曲げて從へば禍敗の本となる。是れ臣の大に惑ふ所なり。古人曰く、士は己を知らざる者に屈して己を知る者に伸び、大臣は道を以て君に事へ不可なれば則ち止むと。臣は固より小人なれども、今開府の職を蒙るに際し、不可なれば則ち止むの義に従はんことを欲す。

今天下化に服してより已來、方に八年に漸とす。側席して賢を求め、幽賤を遺さずと雖も、然れども臣等有徳を推し有功を進め、聖聽をして臣に勝る者多くして、未だ達せざる者少からざるを知らしむる能はず。假令徳を版築の下に遺つるあり、才を屠釣の間に隠すあらば、令朝議臣を用ひ、以て非となさ

ず、臣之に處て以て

用ひ、以て非となさず、臣之に處て以て

- 【八】先人。父祖なり。
- 【九】側席。席を空うして賢者を待つこと。
- 【一〇】版築。版は牆の上下の板、築は杵。孟子に「傳説は板築の間より擧げらる」とあり。



愧となさざるも、失ふ所豈大ならずや。

【大意】 今天下晉

室の政化に服してより已に八年なり。其間常に賢者を幽隱の間に求めたりと雖も、猶ほ野に遺賢なきにあらず。若し才徳を微賤の間に隠す者あらば、たとひ朝議臣を重用し、臣之に處りて愧ぢずとするも、國家の損失豈大ならずや。

且つ臣 忝竊すること久しと雖も、未だ今日文武の極

龍を兼ね、宰輔の高位に等うするが若くならざるなり。臣の見る所狭しと雖も、光祿大夫

李喜、節を秉ると 高亮にして、身を正うして朝に在り、光祿大夫 魯芝、身を潔くし

【三】 忝竊。高位を辱うすること。

【一八】 服事。君に事ふること。華髮は白髮なり。

【四】 李喜。字は季和。

【一九】 寒賤。貧賤なり。

【五】 高亮。高明なり。

【二〇】 此選。開府儀同三司。

【六】 魯芝。字は世英。

【二一】 日月。天子に喩ふ。

【七】 李胤。字は宣伯。

政に莅みて弘簡に、公に在りて色を正うし、皆 服事華髮、禮を以て始終し、内外の寵を歴と雖も、寒賤の家に異らざるに據るに、猶ほ未だ此選を蒙らず。臣更に之に越ゆ、何を以てか天下の望を塞ぎ、少しく日月を益せん。是を以て

傳説は股の賢臣。

【二】 屠釣。尉繚子に「太公牛

望漁釣を以て周の西伯を干す」とあり。

を朝歌に屠る、史記に「太公

【三】 令。一本此字なし。或は

今の誤か。

心に誓ひ節を守り、苟進の志なし。今道路未だ通せず、方隅事多し。乞ふ前恩を留め臣をして速に屯に還るを得しめよ。爾らずして 留連せば、必ず 外虞に於て闕くるあらん。臣憂懼に勝へず。謹んで 觸冒拜表す。惟陛下、匹夫の志、以て奪ふべからざるを察せよ。【大意】 且つ臣重位に在ること久しと雖も、未だ今日文武の職を兼ね、儀三公に同うするが如きに至らず。臣の見る所狭しと雖も、光祿大夫李喜、魯芝、李胤は、皆忠良の君子にして、老年に至るまで陛下に服事し、禮を以て終始し、將相の重職に在るも、其の奢らざること貧賤の人に異らず。此三人の如きは、宜しく開府となすべきなり。然も未だ此選に入らず。臣却つて之に越ゆ。何ぞ能く天下の望に副ひ、陛下の明を益すを得んや。今盜賊横行して邊境未だ靜ならず。願くは臣をして従來の職に留り荊州に還らしめよ。若し滯留して還らずんば、警備に於て缺くる所あらん。願くは臣が微衷を察せられんことを。

【三】 屯。荊州の鎮臺。  
【四】 留連。速に還らざること。  
【五】 外虞。外敵の防備。  
【六】 觸冒。天子の威を冒すこと。

陳情表

李令伯

臣密言す。臣 險釁 【一】 李令伯。李密、字は令伯、晉の武帝徵して太子洗馬となさんとす、密上書して之を辭



を以て夙に 閔凶に 遭ひ、生孩六月に して、慈父に背かる。 行年四歳にして舅母 の志を奪ふ。祖母

- 【一】 險。難難禍罪なり。
- 【二】 閔凶。父を喪へること。
- 【三】 生孩。赤子なり。
- 【四】 孤弱。孤兒にして幼弱なること。
- 【五】 零丁。危弱の貌。
- 【六】 成立。二十成人なり。
- 【七】 叔伯。兄弟なり。
- 【八】 兄弟。詩經に「終に兄弟 鮮し。維れ子と汝」とあり。
- 【九】 兒息。子息なり。
- 【一〇】 朞功。孤立の貌。
- 【一一】 朞功。大功小功の喪に服すべき家運の榮えつつある親戚。
- 【一二】 應門。門に於て客の取次をすること。
- 【一三】 榮榮。孤立の貌。

劉臣の 孤弱を 慰み、躬親ら 撫養す。臣 疾病 多く 九歳にして 行かず。零丁 孤苦して 成立に至る。 既に 叔伯なく、終に 兄弟 鮮し。門 衰へ 祚 薄く、晩に 兒息あり。外には 朞功 疆近の 親なく、内には 應門 五尺の 僮なく、榮榮として 獨立し、形影 相弔ふ。而して 劉夙に 疾病に 嬰り、常に 牀蓐に 在り。臣 湯藥に 侍し、未だ 嘗て 廢離せず。

【大意】 臣は不幸にして、生れて六月の時父を喪ひ、四歳の時、舅(母の兄弟)母の志を奪ひて、節を守るを得ざらしめ、他家に再嫁せしむ。ただ祖母劉氏あり、臣の幼にして孤なるを憫み、臣を養育せるも、性來病弱にして九歳に至るまで歩行するを得ず。祖母の養育により纒に成人するを得たり。既に兄弟なく、ただ臣の晩年兒息を挙げたるのみ。他に依頼すべき親類縁者なし。祖母近來病床に在り。臣之を看護して未だ嘗て其側を離れず。

(一四) 聖朝に奉じ、清化に沐浴するに逮び、前に 太守臣達、臣を 孝廉に察し、後に 刺史臣榮、臣を 秀才に擧ぐ。臣 供養主なきを以て 辭して 赴かず。會々 詔書特に 下り、臣を 郎中に 拜し、尋で 國恩を 蒙り、臣を 洗馬に 除す。猥に 微賤を 以て 東宮に 侍するに 當る。臣首を 隕すも 能く 上報する所にあらず。臣具に 表を 以て 聞し、辭して 職に 就かず。詔書 切峻にして、臣が 通慢を 責め、郡縣 逼迫して 臣に 上道を 催し、州司門に 臨むこと 星火より 急なり。臣 詔を 奉じて 奔馳せんと 欲すれば、則ち 劉が 病日に 篤く、苟も 私情に 順はんと 欲すれば、則ち 告訴すれども 許されず。臣の 進退實に 狼狽を 爲す。

- 【一四】 聖朝。晉をいふ。
- 【一五】 太守。郡の長官。達は其名。晉の臣なる故臣の字を冠す。
- 【一六】 郎中。官名。
- 【一七】 洗馬。皇太子に侍する官なり。除は任なり。
- 【一八】 刺史。郡の長官。榮は其名。
- 【一九】 東宮。太子なり。
- 【二〇】 切峻。きびしきこと。
- 【二一】 通慢。緩怠なり。
- 【二二】 州司。郡吏なり。
- 【二三】 星火。流星なり。
- 【二四】 詔書。詔書の特に下り、臣を郎中に拜し、尋で國恩を蒙り、臣を洗馬に除す。猥に微賤を以て東宮に侍するに當る。臣首を隕すも能く上報する所にあらず。臣具に表を以て聞し、辭して職に就かず。詔書切峻にして、臣が通慢を責め、郡縣逼迫して臣に上道を催し、州司門に臨むこと星火より急なり。臣詔を奉じて奔馳せんと欲すれば、則ち劉が病日に篤く、苟も私情に順はんと欲すれば、則ち告訴すれども許されず。臣の進退實に狼狽を爲す。

【大意】 聖朝(晉は魏の禪を受けて天子となる)の政化に浴するに及び、陛下の臣達、榮等臣を擧げて孝廉、秀才となさんとす。然れども一たび官に就けば祖母を養ふ者なきを以て、辭して就かず。たまたま詔書特に下り、臣を郎中、洗馬に任せられんとす。臣が微賤の身を以て、太子に侍するは、



たとひ粉骨碎身するも其厚恩に報ゆるに足らざるなり。故に表を上り辭して就かず。詔書再び下りて、臣の怠慢を責め、郡縣の吏臣を促して京に上らしむ。臣詔に従ひて入京せんとすれば、祖母の病日に篤く、私情に順つて侍養せんとすれば、辭するも許されず。進退これ谷まれりと謂ふべし。

伏して 惟るに聖朝孝を以て天下を治む。凡そ故老に在りて猶ほ 矜育を蒙る。況んや臣が孤苦、特に尤も甚しとなすをや。且つ臣少くして 僞朝に仕へ、職を 郎署に歴たり。本より 宦達を圖り、名節に矜らず。今臣は 亡國の賤俘にして、至微至陋なり。過りて拔擢を蒙り、寵命優渥なり。豈敢て 盤桓して希冀する所あらんや。但以ふに劉日奄たり。人命は危淺にして朝に夕を慮らず。臣祖母なくんば以て今日に至るなく、祖母臣なくんば以て餘年を終るなし。母孫二人更々命を相爲す。是を以て區區として廢て遠ざかる能はざるなり。臣密今年四十有四、祖母劉今年九十有六。是れ臣の節を陛下に盡すの日は長く、劉に報ゆるの日は短し、

【二六】 矜育。憐み養ふこと。  
【二七】 僞朝。蜀をいふ。  
【二八】 郎署。尙書郎。  
【二九】 宦達。官吏として立身すること。  
【三〇】 亡國。蜀をいふ。賤俘は卑賤なる俘虜。

【三一】 盤桓。進まざる貌。  
【三二】 西山に薄る。年老いたるをいふ。  
【三三】 氣息奄奄。息の將に絶えんとすること。  
【三四】 餘年。殘年なり。  
【三五】 烏鳥。烏は孝鳥なり。

烏鳥の私情願くは 養を終へんことを乞ふ。  
【大意】 伏して 惟るに聖朝に於ては孝道を主として天下を治め(晉の喪を長くせる事などを指す) 養老を重んじ給ふ。臣の如き孤苦尤も甚しき者は、當に哀憐を加へらるべきなり。臣は嘗て蜀に仕へ、尙書郎に任せられ、本より官職の榮達を願ふ者にして、隱逸して名節に矜らんとする者にあらず。今非常の拔擢に遇ふ。敢て更に一層の高官を希ひて躊躇せるにはあらず。ただ祖母年老いて死に瀕し、臣なくんば餘年を終り天壽を全うする能はざるなり。祖母の死後は必ず陛下に仕へて節を盡すべし。陛下願くは臣の私情を許し、祖母の 養を終へしめ給はんことを。 臣の辛苦は、獨り蜀の人士及び 二州の牧伯の 明に知らるる所なるのみにあらず、 皇天后土も實に共に 鑒る所なり。願くは陛下愚誠を矜愍し、臣が微志を聽されんことを。 庶くは劉儻倅して餘年を保ち卒へん。臣生きては當に首を隕すべく、死しては當に 草を結ぶべし。 臣犬馬怖懼の情に勝へず。謹んで拜表して以聞す。

【大意】 臣の辛苦は、人の皆知る所なるのみならず、天地も亦之を知れり。願くは陛下臣

【三六】 二州。梁州、益州なり。  
【三七】 牧伯は地方長官、即ち榮、達なり。  
【三八】 皇天后土。天の神、地の神。  
【三九】 草を結ぶ。晉の魏武子嬖妾あり、武子疾みし時、子顛

に命じて曰く、吾死せば之を嫁せよと、困するに及び又曰く、殺して以て殉せよと、武子死す、顛乃ち初の言に従ひ之を嫁せしむ。顛後秦將杜回と戦ふ、顛老人の草を結んで以て杜回に亢するを見る、回



の微志を聽し、養を終へしめんことを。然らば生時は言ふに及ばず、死後にも猶ほ其恩に報いんとす。茲に謹んで此表を上りて奏聞す。

躡き頼の獲る所となる、中夜夢に草を結びし老人を見る、曰く予は妾の父なり、君が殺

さざるの心に報ゆと、事左傳に見ゆ。

平原内史を謝する表

陸士衡

陪臣陸機言す。今月九日、魏郡太守、兼丞張含を遣し、板詔書印授を賈し、臣に假して平原内史とならしむ。拜受して祇み竦れ、裁する所を知らず。臣もと敵國より出で、世先臣力を宣ぶるの效なく、才丘園耿介の秀にあらず。皇澤廣く被り惠濟遠きなし。羣萃より擢んでられ、累に榮進を蒙る。入朝九載、歴官有六、身三閣に登り、官兩宮に成る。冕を服し軒に乗り、仰いで貴游

- 【一】平原内史。晉の成都王頌、士衡を表して平原内史となす、士衡惠帝に上表して恩を謝す。
【二】陪臣。諸侯の臣、天子に對して陪臣と稱す。士衡は前に吳王の郎中令たり、故に陪臣と稱す。
【三】板詔書。時に成都王政を攝す。故に其命を板詔といふ。
【四】敵國。吳をいふ。士衡は吳滅びて晉に仕ふ。
【五】先臣。父祖をいふ。
【六】丘園耿介。隱居して俗に隨はざること。
【七】九載。九年なり。
【八】三閣。秘書郎たりしこと。中外三閣の經書を掌る。

に齒し、景を振ひ迹を抜き、顧るに同列に邈なり。施山岳より重く、義灰没するに足る。國の顛沛するに遭ひ、節の紀すべきなし。曠盪を蒙れりと雖も、臣獨り何の顔ぞ。首を俛し、膝を頓し、憂愧すること厲きが若し。
【大意】今月九日、魏郡太守、是時士衡鄴下に在り、魏郡太守は鄴を治む、故に詔書魏郡太守に下り、太守また丞を遣して士衡に授けしなり。下丞張含を遣し、成都王の冊文印綬を賈し、臣を平原内史たらしむ。臣之を拜受し敬懼して自ら制する能はず。臣はもと敵國人にして、父祖の功德あるにあらず、又身に隱逸の高徳あるにあらず。然も皇澤臣が身に及び、累に拔擢を蒙り、聖朝に仕ふること九年にして、六たび官を遷され、高冠を戴き軒車に乗り、常に貴游子弟と相伍す。皇恩山よく、身を碎くも以て報ゆるに足らず。嘗て國の顛覆に遇ふも、危きを見て命を授け、以て臣節を盡す能はず。幸に寛宥を賜れりと雖も、自ら恥ぢて心に安んぜず。而かも横に故の齊王問の爲に枉陷せられ、臣を衆人と共に禪文を作ると誣ひ、囹圄に

- 【九】兩宮。東宮及び上臺。
【一〇】冕。冠なり。軒は車。
【一一】灰没。身灰の滅ゆるが如く報ゆるに足らざるをいふ。
【一二】顛沛。顛覆なり。趙王倫位を篡し帝を金墉に遷ししことなをいふ。
【一三】曠盪。寛宥なり。
【一四】膝を頓す。拜跪すること。
【一五】齊王問。字は景治、趙王倫の位を篡するや、問兵を擧げて倫を討ち、陳に臨んで之を斬る。
【一六】禪文。趙王倫に帝位を禪る文。



幽執せられ、誅始たるに當す。臣の微誠天地に負かざれども、倉卒の際逼迫あらんことを慮り、乃ち弟雲及び散騎侍郎袁瑜、中書侍郎馮熊、尙書右丞崔基、廷尉正顧榮、汝陰太守曹武と免るるを獲る所以を思ひ、陰蒙邂逅し、崎嶇として自ら列す。片言隻字も其間に關らず、事蹤筆跡皆推校すべしと。而も一朝翻然として更に以て罪となす。叢爾の生は尙ほ忝むに足らざるも、區區の本懷實に悲むべきあり。天威に畏逼し、罪に即いて惟れ謹み、口を鉗み舌を結んで、敢て所天に上訴せず。莫大の釁日に聖聽を経たれば、肝血の誠終に一聞せず。難に臨んで慷慨し、恨恨せざる能はざる所以の者ただ此れのみ。重ねて陛下愷悌の宥を蒙り、霜を廻し電を收めて、隕越せざらしむ。復た老を扶け幼を攜へ、生きて獄戸を出で、金を懷き紫を拖き、退いて散輩に就くを得たり。恩に感じ咎を惟ひ、五情震悼し、天に跼し地に踏して、容るる所なきが若し。

【大意】嘗て趙王倫の爲に禪文を草せりと誣ひられ、齊王冏の爲に獄に下され、將に誅罰せられんとす。臣の微誠決して天地を欺かずと雖も、倉卒の際辯解するを得ざるを知り、弟雲等と罪を免るるの計を思ひ、一言半句も趙王の事に關與せざりし由を陳べたり。然るに却つて更に罪を蒙りぬ。微賤の身は敢て惜むに足らざれども、此の横屈に遭ふは、實に悲に堪へず。然れども天威を畏れ、謹んで罪に服し、敢て訴ふる所あらず。其後やや陛下の聽察を経たれば、復た赤心を披瀝することとなさず。其後陛下の寛宥を蒙り、又獄を出でて散官に列するを得たり。恩に感じ罪を思ひて、身を置くに處なし。

- 【七】 囹圄。獄舎なり。
- 【八】 誅始。誅罰のさきがけ。
- 【九】 崎嶇。傾側なり。列は陳辯すること。
- 【一〇】 叢爾。小なる貌。
- 【一一】 所天。君なり。君は臣の天とする所なればなり。
- 【一二】 肝血。赤心なり。
- 【一三】 愷悌。温和なり。
- 【一四】 隕越。死なり。
- 【一五】 金。金印なり。紫は紫綬なり。
- 【一六】 散輩。閑散の職。

るるの計を思ひ、一言半句も趙王の事に關與せざりし由を陳べたり。然るに却つて更に罪を蒙りぬ。微賤の身は敢て惜むに足らざれども、此の横屈に遭ふは、實に悲に堪へず。然れども天威を畏れ、謹んで罪に服し、敢て訴ふる所あらず。其後やや陛下の聽察を経たれば、復た赤心を披瀝することとなさず。其後陛下の寛宥を蒙り、又獄を出でて散官に列するを得たり。恩に感じ罪を思ひて、身を置くに處なし。

- 【一七】 日月。惠帝に喩ふ。
- 【一八】 雲雨。惠帝に喩ふ。朽瘁は病衰の身、士衡自ら謂ふ。
- 【一九】 丹書。罪を定むる書。平民は凡民なり。
- 【二〇】 天波。天子の恩澤に喩ふ。
- 【二一】 符虎。金虎符なり。内史のシルシ。
- 【二二】 陸沈。沈衰なり。
- 【二三】 安國。韓安國、梁の孝王に事へて中大夫となり、罪ありて徒中に在り、漢張羽をして安國を拜して内史となさしむ。青組は印綬なり。
- 【二四】 張敞。京兆の尹となり、人を殺して罪を被り遂に逃走す、後冀州に賊あり、天子敞をして之を治めしむ、又冀州刺史となる。亡命は逃亡すること。朱軒は赤塗の車。



足らず。豈臣が垢を蒙り吝を含むの忝竊すべき所ならんや。臣宗を毀り族を夷すも、能く上報する所にあらず。喜懼 參并し、悲慙 哽結す。常憲を拘守し、當に便道官に之くべし。身を束ねて奔走し、城闕に 稽顙し、天衢を瞻係し、心を輦轂に馳するを得ず。

臣 屏營延仰に勝へず。謹んで拜表して以聞す。  
【大意】 豈期せんや皇恩微臣に及び、臣の罪書を除き、平民に等からしめ、汗名を一洗するを得んとは、是れ實に望外の大幸なり。今又大命を以て平原内史に任せられ、又朝士に列するを得たり。臣が汗濁の身を以て此位を僭竊すべきにあらず。族を毀るも以て此恩に報ゆるに足らず。臣が胸中悲喜交々至る。乃ち常法に遵ひ、當に便道を取りて任に赴かん。今俄に宮闕に詣りて陛下を拜するを得ず。謹んで表を上りて厚恩を謝す。

- 【三五】 參并。並び至ること。
- 【三六】 哽結。涙にむせぶこと。
- 【三七】 常憲。常法なり。
- 【三八】 稽顙。頓首といふが如し。
- 【三九】 天衢。天子の街衢。
- 【四〇】 屏營。廻惶なり。

勸進表

劉越石

建興五年三月 癸未朔、十八日 辛丑、

【一】 勸進表。晉の愍帝、漢の王睿江南に在り、劉琨は并州に在り、段匹磾は冀州に在り、睿に勸めて天子たらしむ、是を晉の元帝となす。

使持節、散騎常侍、

【二】 建興。晉の愍帝の年號。

【八】 黎元。人民なり。司牧は司配すること。

都督河北并冀幽三州

【三】 癸未朔。一日が癸未の日にあたる。

【九】 饗。獻なり祭祀なり。

諸軍事、領護軍匈奴

【四】 辛丑。一日が癸未にて十八日が辛丑なり。此表は十八日に上るなれども、かかる儀

【一〇】 宗哲。親戚の賢者。

中郎將、司空、并州

【五】 使持節。以下皆劉琨の官名なり。

【一一】 遐風。高遠の風。

刺史、廣武侯、臣琨、

【六】 蒸民。衆民なり。

【一二】 三五。三皇五帝。

使持節、侍中、都督冀州諸軍事、撫軍大將軍、冀州刺史、左賢王渤海公、臣匹磾、頓首死罪、上書す。

臣琨臣匹磾、頓首頓首、死罪死罪。臣聞く天 蒸民を生じ、之に樹つるに君を以てするは、天地に對越し 黎元を司牧せしむる所以なりと。聖帝明王、其の此の若くなるに鑒み、天地の以て 饗に

乏しかるべからざるを知る。故に其身を屈して以て之に奉じ、黎元の以て主なるべからざるを知る。故に已むを得ずして之に臨む。社稷時に難あれば、則ち戚藩其の傾けるを定め、郊廟或は替るれば、則ち 宗哲其の祀を纂ぐ。弘く 遐風を振ひ式て萬世を固うする所以なり。三五より以降之に由らざるはなし。

【大意】 建興五年三月十八日、臣琨臣匹磾、頓首再拜して白す。天衆民を生み、之が爲に君主を建

つるは、天地に配して衆民を養はしめんが爲なり。故に聖帝明王は祭祀を重んじ、已むを得ずして

【大意】 建興五年三月十八日、臣琨臣匹磾、頓首再拜して白す。天衆民を生み、之が爲に君主を建つるは、天地に配して衆民を養はしめんが爲なり。故に聖帝明王は祭祀を重んじ、已むを得ずして



天子の位に即く。國難ありて國家傾覆すれば、親戚の賢者立ちて之を繼ぐ。三皇五帝以來皆然らざるはなし。

臣瓊臣四碑、頓首頓首、死罪死罪、伏して惟

るに 高祖宣皇帝基を肇め 命を景にし、

世祖武帝、遂に 區夏を造し、三葉光

を重ね、四聖軌を繼ぎ、惠澤 有虞に倅し

く、年を下すること 周氏に過ぐ。元康より

以來、艱禍繁く興り、永嘉の際、氛厲彌々昏く、

宸極御を失ひて 醜裔に登遐し、國家の

危きこと 綴旒の若きあり。先后の徳、宗

廟の靈に頼り、皇帝嗣ぎ建ち、舊物克く甄

なり。誕に 欽明を授け、聰哲に服膺し、玉

質幼にして彰れ、金聲夙に振ふ。冢宰其綱を

攝し、百辟其治を輔く。四海中興の美を想ひ、

【三】 高祖宣皇帝。司馬懿なり、晉天子となるに及び追尊して宣皇帝といふ。

【四】 命。天命なり。

【五】 世祖武帝。司馬懿の孫なり、魏の禪を受けて天子となる。

【六】 區夏。天下なり。

【七】 三葉。三世なり。司馬懿は宣。其長子師は景、次子昭は文と諡す。

【八】 四聖。晉の武帝惠帝懷帝愍帝。

【九】 有虞。舜なり。

【一〇】 周氏。左傳に「王孫滿曰く、成王鼎を郊廓に定め、世を下すること三十、年を下すること七百」とあり。

【三】 元康。惠帝の年號。狼曠とは趙王倫の亂をいふ。

【三】 永嘉。懷帝の年號。氛厲は惡氣なり、劉聰石勒等の亂をいふ。

【三】 宸極。天子に喩ふ。羯賊劉曜洛陽を破り、懷帝平陽に崩す。

【四】 醜裔。遠方の賊廷。登遐は崩御。

【五】 綴旒。ただ冠の旒の垂るるが如く、實力なきをいふ。

【六】 先后。上の四帝をいふ。

【七】 皇帝。愍帝なり。

【八】 欽明。敬明の徳。

【九】 冢宰。宰相なり。綱は綱紀。

【一〇】 百辟。百官なり。

羣生。來蘇の望を懷けり。圖らざりき天禍を悔いず、大災荐に臻らんとは。國未だ難を忘れざるに、寇害尋で興り、逆胡劉曜、西都に縱逸し、敢て 犬羊を肆にし、天邑を陵虐す。臣等

の奉表使還る。仍つて 西朝去年十一月を以て 虜廷に沈み、

守らず、主上幽劫せられて復た 神器流離して再び 荒逆に辱めらると

承る。臣毎に史籍を覽、之を 前載に觀る

に、厄運の極古今未だ有らず。苟も土の 毛

を食ひ、氣を含むの類に在りて、心を叩き氣を

絶ち、行號巷哭せざるはなし。況んや臣等寵を

三世に荷ひ、位 鼎司に廁れるをや。問

を承りて震惶し、精爽飛越し、且つ悲み且

つ惋へ、五情主なく、哀を 朔垂に擧げ、上

下血に泣く。

【大意】 伏して 惟るに 宣帝皇基を開いてより、世々光徳を布き、恩澤帝舜に等しく、世を有つこ



と當に周室に超ゆべし。然るに元康より以來國難起り、永嘉に至りて特に甚しく、天皇賊廷に崩じて國家危殆に瀕せり。幸に祖宗神靈の加護に頼り、愍帝立ちて舊禮を失はざるを得。天敬明の徳を授け幼にして聰智、宰相百官また之を輔佐す。是を以て衆民皆中興の感を抱けり。豈圖らんや羯賊劉聰長安の帝都を侵害せんとは。臣等の遣しし所の奉表紙還り報じて曰く、皇帝昨年十一月を以て虜廷に幽せられ遂に害に遇ふと。是れ前代未聞の悲惨事なり。誰か痛哭せざらん。況んや臣等世より重職に在り、恩寵を蒙れる者に於てをや。此報を得て殆んど精神を失ひ悲嘆泣血す。

臣現臣匹磾、頓首頓首、死罪死罪、臣聞く 昏明迭に用ひ 否泰相濟すと。天命未だ改まらず、歴數歸するあり。或は多難にして以て邦國を固うし、或は 殷憂して以て聖明を啓く。是を以て齊に 無知の禍ありて、小白五伯の長となり、晉に 驪姫の難ありて 重耳諸侯の盟を主る。社稷安きことなくんば、必ず將に以て其危を扶くるあらんとす。黔首幾んど絶えんとす。伏して必ず將に以て其緒を繼ぐあらんとす。伏して 惟るに 陛下玄徳神明に通じ、聖姿 兩儀に合ひ、命世の期に應じ、千載の運を紹ぐ。

- 【四六】 昏明。晝夜なり。
- 【四七】 否泰。通塞なり。
- 【四八】 歴數。天子たるべき順序。
- 【四九】 殷憂。憂愁なり。
- 【五〇】 無知。齊の公子の名。
- 【五一】 小白。齊の桓公の名。五伯は五霸なり。
- 【五二】 驪姫。晉の獻公の寵姫。
- 【五三】 重耳。晉の文公の名。
- 【五四】 黔首。人民なり。
- 【五五】 陛下。元帝をいふ。玄徳は高徳といふが如し。
- 【五六】 兩儀。天地なり。
- 【五七】 命世。孟子に「五百年に

夫れ符瑞の表、天人徴あり、中興の兆、圖讖典を垂る。京畿隕喪し、九服崩離せしより、天下囂然として歸懷する所なし。有夏の夷羿に違ひ、宗姫の犬戎に離へると雖も、以て之に過ぐるなし。陛下 江左を撫寧し、舊吳を奄有し、服を柔ぐるに徳を以てし、叛を伐つに刑を以てし、明威を抗げて以て 不類を攝んじ、大順に仗りて以て宇内を肅め、純化既に敷けば則ち 率土心を宅き、義風既に暢ぶれば、下に穆穆たり。

【大意】 然れども物暗塞すれば復た必ず明通するの時あり。晋室衰へたりと雖も、天の歴數未だ改まらず。當に復た復歸すべきなり。禍亂の起るは將に聖人を開かんとするが爲なり。伏して惟るに陛下、道徳神明に通じ、舉動天地に合ひ、よく國家の危きを持し、人民の命を繼がんとし、符瑞あり圖讖に應ず。嘗て江東を鎮撫し吳郡を領し、服する者を柔ぐるに徳を以てし、叛く者を伐つ

して必ず王者の興るあり、其間必ず命世の者ありとあり。【五八】 千載。桓子新論に「夫れ聖人は乃ち千載に一たび出づ」とあり。【五九】 圖讖。未來記なり。【六〇】 九服。天下といふが如し。【六一】 有夏。夏の太康出でて狩す。羿の爲に逐はる、夷は羿の氏。【六二】 宗姫。周なり、姫は周の和悦の貌。【六三】 姓。犬戎は西戎の名。【六四】 江左。江東なり。元帝もと揚州諸軍事を統ぶ。【六五】 奄有。領有すること。【六六】 明威。嚴罰なり。【六七】 不類。異國なり。【六八】 率土。天下なり。【六九】 遐方。遠方なり。【七〇】 百揆。もろもろの政事。【七一】 四門。四方の門。穆穆は



に刑を以てし、大順の道を以て天下を安んず。是を以て純化義風遠近に洽く、百事次序あり四方和悦す。

昔少康の隆なる、夏訓以て美談となし、宣王の興る、周詩以て休詠をなす。況んや茂勳皇天に格り、清輝四海に光き、蒼生頤然として欣戴せざるなく、聲教の加はる所、臣妾たらんことを願ふ者をや。且つ宣皇の胤、惟陛下あるのみ。

億兆の歸する彼、曾て與に二なし。天大晉に祚し、必ず將に主あらんとす。晉の祀を主る者は陛下にあらざして誰ぞや。是を以て邇に異言なく、遠に異望なし。謳歌する者は、微猷を吟詠せざるはなく、獄訟する者は聖徳を思はざるはなし。天地の際既に交り、華裔の情允に洽し。一角の獸、連理の木、以て休徴をなす者、蓋し百數あり。冠帶の倫、(八〇)要荒の衆、謀らずして辭を同うする者、動もすれば萬を以て計ふ。是を以て臣等敢て天地の心を考へ、(八一)函夏の趣に因り、(八二)昧死して以て尊號を上る。願くは陛下(八三)舜禹至公の情を存し、

(七一) 少康。殷の中興の君。  
(七二) 夏訓。夏書、即ち書經。  
(七三) 宣王。周の中興の君。周詩は詩經。休は美なり。  
(七四) 蒼生。衆民なり。頤然は徳を仰ぐ貌。  
(七五) 億兆。人民なり。  
(七六) 微猷。美道なり。  
(七七) 休猷。美瑞なり。  
(七八) 百數。百を以て數ふ。  
(七九) 冠帶の倫。中國の人。  
(八〇) 要荒の衆。邊境の人。  
(八一) 函夏。中國をいふ。  
(八二) 昧死。死罪を冒して。  
(八三) 尊號。天子の稱號。  
(八四) 舜禹。皆禪を受けて以て時を濟へり。

(五) 巢由抗矯の節を狭しとし、社稷を以て務となし、小行を以て先となさず、黔首を以て愛となし、(六) 克讓を以て事となさず、上は以て宗廟乃顧の懷を慰め、下は以て溥天傾首の望を釋かんことを。則ち所謂繁華を(七) 枯蕘に生じ、(八) 豐肌を朽骨に育ひ、(九) 神人安きを獲て幸甚ならざるはなげん。  
【大意】 昔少康、宣王、皆中興の業を以て詩書に著る。況んや勳徳四海に輝き、衆民欣戴せざるな(一〇) ざらざらと陛下の如きをや。且つ宣皇帝の裔は唯陛下の存するのみ。是を以て百姓歸附して一心なし。晉室を繼ぐ者陛下を置きて復た誰かあらんや。是を以て祥瑞類に現れ、内外心を密す。是れ臣等の敢て天子たらんことを乞ふ所以なり。願くは陛下、舜禹の受禪に倣ひ、巢由の推讓に倣はず。上は以て祖宗の願を慰め、下は以て天下首を傾くるの望に副ひ給はんことを。(一一) 萬機は久しく曠うすべからず。臣珉臣匹磾、頓首頓首、死罪死罪。臣聞く尊位は久しく虚うすべからず、(一二) 萬機は久しく曠うすべからず。之を虚うすること一日なれば、則ち尊位以て殆く、之を曠うすること(一三) 浹辰すれば、則ち萬機以て亂ると。方今百王の季に鍾り、(一四) 陽九の會に當り、(一五) 狡寇窺審して國の瑕隙を伺ひ、(一六) 齊人波蕩して心を繫くる所なし。

- 【八五】 巢由。巢父及び許由、堯天下を禪らんとせしも之を拒む。
- 【八六】 克讓。書經堯典に「允に恭しく、克く讓る」とあり。
- 【八七】 溥天。普天に同じ。
- 【八八】 枯蕘。枯楊なり。
- 【八九】 萬機。天子の位。
- 【九〇】 浹辰。十二日をいふ。
- 【九一】 陽九。災厄なり。
- 【九二】 狡寇。劉聰劉曜をいふ。窺審は上位を冀望すること。
- 【九三】 瑕隙。間隙なり。
- 【九四】 齊人。平民なり。波蕩は



安んぞ以て廢てて恤へざるべけんや。陛下逡巡  
せんと欲すと雖も、其れ宗廟を若何せん、其れ  
百姓を若何せん。昔、惠公秦に虜にせられて  
晉國震駭す。呂卻の謀子圉を立て、外は以  
て敵人の志を絶ち、内は以て闔境の情を固  
せんと欲す。故に曰く、君を喪ひて君あり、羣  
臣輯穆す。我を好する者は勸み、我を惡む者  
は懼れんと。前事の忘れざるは後代の元龜な  
り。陛下明日月に並び、幽きとして燭さざるはなく、深謀遠慮胸懷より出づ。犬馬憂國の情に勝へ  
ず、人神開泰の路を觀んことを遲つ。是を以て其の乃誠を陳べ、之を執事に布く。

【九五】 惠公。晉の君。  
【九六】 呂卻。晉の二臣の名。左  
傳僖公十五年に「晉秦と韓原  
に戰ふ、秦伯晉侯を獲て以て  
歸る、呂甥曰く、將に君を若  
何せんとすると、衆皆曰く、  
何をなして可ならんと、對  
へて曰く、征繕して以て孺  
子を輔けん、諸侯之を聞かば  
君を喪ひて君あり、羣臣輯穆

し、甲兵益多し、我を好する  
者は勸み、我を惡む者は懼れ  
んと」とあり。子圉は孺子の  
名。  
【九七】 輯穆。和睦なり。  
【九八】 元龜。大なる手本といふ  
が如し。  
【九九】 開泰。開通なり、泰平な  
り。  
【一〇〇】 乃誠。勸進の誠なり。  
【一〇一】 執事。天子の左右の臣。

【大意】 天子の位は一日も之を曠うすべからず。況んや方今寇賊隙を伺ひ、百姓心を寄する所なき  
ををや。たとひ陛下退讓せんと欲するも、宗廟社稷を奈何せん。昔晉の惠公の秦に虜となるや、呂  
卻の二臣幼主を輔け立て、以て敵國の志を絶つ、國民の望を繋げり。此事以て今の軌範となすべ  
し。臣等憂國の情に勝へず。敢て陛下の帝位に上らんことを乞ふ。

【一〇二】 方任。地方を鎮撫する任  
務。忝は辱なり。  
【一〇三】 退外。遠地なり。  
【一〇四】 盛禮。尊號を冊するの禮。  
【一〇五】 踊躍。歡喜なり。  
【一〇六】 辟閭訓。辟一本に薛に作  
る。

然、吳國の人。此篇は謝詢の  
爲に代作せるなり。  
【四】 杞。國の名。  
【五】 春秋。時代の名。

臣等各 方任を添守し、職 退外に在り。闕庭に陪列し、共に 盛禮を觀るを得ず。踊躍の  
懷、南望極なし。謹んで上る。臣現謹んで兼左長史、右司馬、臣溫嶠、  
主簿、臣 辟閭訓を遣し、臣匹磾、散騎常侍、征虜將軍、清河太守、領  
右長史、高平亭侯、臣榮劭、輕車將軍、關内侯、臣郭穆を遣し表を奉  
る。臣現臣匹磾等、頓首頓首、死罪死罪。  
【大意】 臣等各々地方を鎮撫するの任を辱うし、遠く離れて外に在り。  
朝廷に列して盛典を拜觀する能はず。ただ歡喜して遙に南望するのみ。

吳令謝詢の爲に、諸孫の爲に守家人  
を置かんことを求むる表

臣聞く、成湯夏を革めて 杞に封じ、武王殷に  
入りて宋を建て、春秋征伐すれば則ち晉虞の  
祀を脩め、燕齊の廟を祭ると。夫れ一國は一人  
の爲に興り、先賢は後愚の爲に廢す。誠に仁聖

【一】 吳令。官名。  
【二】 諸孫。諸の孫氏。吳王孫  
堅の裔。守家人は墓を守る人。  
【三】 張士然。名は悅、字は士

然、吳國の人。此篇は謝詢の  
爲に代作せるなり。  
【四】 杞。國の名。  
【五】 春秋。時代の名。

張士然



の哀悼して忍びざる所なり。故に三王は絶を繼ぐの徳を敦うし、春秋は服を柔ぐるの義を貴ぶ。昔漢高命を受けて六國を追存し、凡そ諸の絶祚一時並べ祀り、親ら項羽と對して存亡を争ひしも、羽の死するに逮んで其喪に臨哭す。將た位嘗て尊を倅うし、力嘗て勢を均うせしを以て、功其成を奪ひ恩其敗に與へ、且つ暴に興り疾く顛ると雖も、之を禮すること舊の若く、殘戮せる尸は乃ち公を以て葬る。若し羽をして位前緒に承ぎ、世々哲王あり、一朝力屈し身を全うして命に従はしめば、則ち楚廟墮れず、後あること冀ふべし。

【大意】昔湯の夏桀を伐つや、其後を杞に封じ、武王の殷紂を滅すや、其後を宋に封じ、晉の虞國を滅すや其祀を脩め、燕將樂毅の齊を下すや、又齊國の宗廟を脩めぬ。夫れ先賢よく國を興すも、後愚遂に國を亡す。是れ湯武仁聖の哀悼して國を絶つに忍びず、其後を立つる所以なり。是を以て漢の高祖の立つや、六國を追存し絶祚皆祀り、嘗て項羽と存亡を争ひしも、その死するや屍に伏して哭し、之を葬るに魯公の禮を以てせり。若し項羽をして諸侯の緒を承け、世々賢王あり、力漢に屈して降服せしめば、必ず楚の後を絶たず、永く之を存せしならん。

- 【六】三王。禹湯武王なり。
- 【七】其成を奪ひ。項羽を破りしをいふ。
- 【八】其敗に與へ。項羽を哭せるをいふ。
- 【九】公。懷王羽を封じて魯公となす、故に高祖羽を葬るに魯公の禮を以てす。

伏して惟るに大晋天に應じ民に順ひ、武戈を止むるを成す。西戎即序の人あり 京邑吳蜀の館を開き、滅を興すこと萬國に加はり、絶を繼ぐこと百世に接す。三五道を弘め、商周仁と稱すと雖も、洋洋の美未だ以て喻ふるに足らず。是を以て孫氏家は、吳祚を失へりと雖も、而も族は晉榮を蒙り、子弟才を量り肩を比べて進取し、金を侯服に懷き、青を千里に佩ぶ。當時恩を受けしこと多く望に過ぐるあり。臣聞く春雨の木を潤すは、葉より根に流れ、鳴鶉の功を恤ふるは子を愛して室に及ぶと。故に天、罔極の恩を稱し、聖綱繆の恵あり。追ひて惟るに、吳僞武烈皇帝、漢室の弱きに遭ひ、亂臣の彊きに値ひ、首として義兵を唱へ、衆に先だちて難を犯し、董卓を陽人に破り、神器を甄井に濟ふ。威羣狡に震ひ、名往

- 【一〇】戈を止む、左傳に「文に戈を止むるを武となす」とあり、武の字は戈止の二字より成るとの意にて、文徳を用ひて干戈を用ひざるを眞の武といふとなり。
- 【一一】西戎即序。書經に「西戎序につく」とあり、遠國朝聘の次序あるをいふ。
- 【一二】京邑。京師なり。
- 【一三】三五。三皇五帝。
- 【一四】商周。殷周なり。
- 【一五】吳祚。吳王の位。
- 【一六】金。金印なり。
- 【一七】青。青綬なり。千里は諸侯の封疆をいふ。
- 【一八】鳴鶉。詩經の篇の名。鳴

- 【一九】我が室を毀るなかれ」とあり。子は孫皓に室は吳國に喻ふ。
- 【二〇】罔極。極りなきなり。
- 【二一】綱繆。親切なり。
- 【二二】吳僞。晉に對して吳を僞となすなり、武烈皇帝は吳主孫堅なり。
- 【二三】陽人。地名。
- 【二四】神器。天子の璽符服御の物。甄井は甄宮井なり。吳書に「初あ堅洛に入り城南に軍す、甄宮井の上毎且五色の氣あり、堅人に命じて探らしむ、漢の傳國璽を得たり」とあり。
- 【二五】羣狡。董卓の徒をいふ。
- 【二六】名往。往朝。漢朝をいふ。



朝に顯る。桓王才武、弱冠にして業を承け、百越の士を招き、鷹揚の勢を奮ひ、西のかた許都に赴き、將に幼主を迎へんとす。元勳未だ終へずと雖も、然も至忠已に著る。夫れ家は義勇の基を積み、世は危きを扶くるの業を傳へ、進んでは漢に狗するの臣となり、退いては吳を開くの主となり、而して蒸嘗三葉に絶え、園陵薪采に残はる。臣竊に之を悼む。

【大意】 伏して惟るに我が大晉は天意人心に應じ、文徳を敷きて干戈を收め、遠夷來り服し、京師に吳蜀二王の館を設く。(晉は魏の禪を受け天子となり、吳蜀二國を滅したり) 滅を興し絶を繼ぐの徳、三五殷周の仁と雖も比するに足らず。故に吳は國を失ひたれども、其子弟晉に仕へて諸侯となる。夫れ子孫既に晉の官爵を蒙る。宜しく亦其祖先を榮すべきなり。況んや吳祖孫堅は漢末の亂に遇ひ、率先して義兵を起し、董卓を破り神器を濟ひ、其子策才武を以て父業を繼ぎ、許都に赴きて獻帝を迎へんとし、横死して功を全うせずと雖も、忠誠天下に著るるをや。今や國亡びて三世祭祀を廢し、墳墓採薪者の爲に毀損せらる。是れ臣の竊に悼む所なり。

- 【天】 桓王。堅の子策才武を以て亂を定む、諡して長沙桓王といふ。
- 【百越】 南越なり。
- 【鷹揚】 鷹の飛揚するが如き勢。
- 【元勳】 幼主。後漢の獻帝。
- 【元勳】 大功なり。
- 【蒸嘗】 祭祀なり。三葉は堅策權三世。
- 【園陵】 墳墓なり。薪采は薪を採ること。

伏して見るに吳平ぎし初、明詔して先賢を追録し、其墓を封せんと欲す。愚謂へらく二君竝に宜しく應に書すべし。故に勞を擧ぐれば則ち力先代に輸し、徳を論ずれば則ち惠江南に存し、刑を正せば則ち罪晉寇にあらず、坐に従へば則ち異世已に輕し。若し先賢の數に列し、詔書の恩を蒙り、裁に表異を加へて以て亡靈を寵せば、則ち人望克く厭る。誰か宜しと曰はざらんと。二君の私奴、多く墓側に在り。今平民たり。乞ふ五人を差して其徭役を蠲き、四時頽毀を修護し、塋壟を掃除せしめ、永く以て常となさんことを。

- 【愚】 愚。謝詢の自稱。
- 【二君】 二君。堅策なり。
- 【先代】 漢なり。
- 【坐】 坐。吳主孫皓の罪に坐したること。
- 【徭役】 ぶやく。
- 【塋壟】 墳墓。

【大意】 嚮に吳の平ぎし時、詔(晉の武帝)を下して吳の先賢を追賞し其墓を築かんとす。時に愚臣謂らく、堅策二君亦宜しく先賢の數に列すべし。何となれば功勞を論ずれば、力を漢室に效し、徳惠は則ち江南の民を存養し、刑を正すに於ては、敢て晉の寇をなさず、孫皓罪に坐するも、遠祖は應に輕くすべければなり。若し先賢の列に加へ、亡者を寵貴せば、人皆望に満ちて宜しといはんと。堅策の私奴、多く其墓側に在り。其五人を以て守冢となし、徭役を免除して墳墓を掃除せしめ、永く以て常となさんことを乞ふ。



中書令を讓る表

庾元規

臣亮言す。臣凡庸固陋、少くして、檢操なし。昔中州故多く、舊邦喪亂せるを以て、先臣に隨侍し遠く、有道に庇はれ、爰に客として難を逃れ、食を求むるのみ。悟らざりき時の福を邀め、嘉運に遭遇し、先帝龍興して、異常の願を垂れんとは。既に眷國土に同じく、又之に婚姻を申ぬ。遂に親寵に階りて累に、非服を忝うし、弱冠にして、纓を濯ひ、玄風に沐浴し、省闕に頻繁し、出でて六軍を領す。十餘年間、位先達に越ゆ。勞なくして遇せらるること、臣と比するものなし。小人祿薄し、福過ぐれば災生す。止足の分臣が宜しく守るべき所なり。而も榮を偷み進を昧ること、日一日より爾り。謗讒既に集りて上聖朝を塵す。始め自ら聞せんと欲す。

- 【一】 中書令。官名、晉書に中書監に作る、ここに令といふは恐くは誤ならん。
- 【二】 庾元規。名は亮、字は元規。
- 【三】 檢操。節操なり。
- 【四】 中州。洛陽なり。劉聰、劉曜の侵略に遇ふ。
- 【五】 先臣。亮の父琛なり。
- 【六】 有道。晉の元帝をいふ。
- 【七】 嘉運。好運なり。
- 【八】 先帝。元帝なり。
- 【九】 婚姻。元帝亮の妹を聘して皇太子の妃となす。
- 【一〇】 非服。非常の任。
- 【一一】 纓を濯ふ。纓は冠の紐。入りて仕ふること。
- 【一二】 玄風。天子の徳。
- 【一三】 省闕。黃門郎、散騎常侍をいふ。
- 【一四】 先達。先達なり。
- 【一五】 謗讒。誹謗なり。

而して先帝登遐し、區區の微誠竟に未だ上達せず。陛下踐祚して聖政維れ新なり。宰相賢明にして、庶寮咸な允なり。康哉の歌實に至公に在り。而して國恩已ます、復た臣を以て中書を領せしむるは、則ち天下に示すに私を以てするなり。何者、臣陛下に於て、後の兄なり。姻婭の嫌、實に骨肉中表と同じからず。太上至公にして聖徳私なしと雖も、然れども世の道を喪ふこと、自りて來るあり。悠悠たる六合、皆其姻に私する者なり。人皆私あれば則ち天下に公なしと謂はん。

【大意】 臣は固陋にして節操なし。昔劉聰、劉曜の洛陽を侵略するや、亡父（會稽太守たり）に隨つて南方に客遊し、難を逃れて以て食を求めぬ。幸にして先帝（元帝）の中興に遇ひ、特別の恩顧を蒙り、又婚姻を結ぶ。乃ち少くして仕官に登り、天子の徳教に浴し、頻に重任を辱す。然れども徳なくして厚祿を食めば災害必ず來る。足るを知るの分、臣宜しく自ら守るべきなり。然るに榮進を貪ること日復た一日、是を以て誹謗既に集り、爲に明朝を穢せり。一たび之を上聞せんと欲せしも、先帝の崩御に遇ひて果さず。陛下位に即きて宰相賢明、百官誠信、至公にして

- 【一六】 登遐。崩御なり。
- 【一七】 陛下。晉の明帝を指す。
- 【一八】 庶寮。衆官なり。
- 【一九】 康哉の歌。書經益稷篇に「庶事康いかな」とあり。
- 【二〇】 姻婭。妻族の親をいふ。
- 【二一】 骨肉。兄弟をいふ。中表は内外姨舅兄弟をいふ。
- 【二二】 太上。天子の徳をいふ。
- 【二三】 六合。天下なり。



私なし。乃ち復た臣をして中書を領せしむ。是れ至公の道にあらず、天下に私情を示すものなり。何となれば臣は陛下の後の兄なり。妻族の嫌疑は特に尤も甚し。陛下たとひ至公にして私なきも、世の喪亂恐くは此より起らん。

是を以て前後二漢、咸以て 后黨を抑ふれば安く、 婚族を進むれば危し。向に 西京の七族、 東京の六姓をして、皆 姻黨にあらずして、各々以て 平進せしめば、縦ひ悉く全からざるも、決して 盡く敗れざりしならん。今の 盡く敗れしは、更に 姻昵に由りてなり。臣歴観するに 庶姓世に在る、朝に黨なく時に援なければ、根を植つるの本軽く薄し。苟も 大瑕なければ、猶ほ或は容れらる。外戚に至りては 天地に憑託し、勢 四時に連り、根援 扶疎たり。重く大なり。而して財に權寵に居れば、四海目を側つ。事允ならざるあれば罪誅を容れず。身既に 殃を招き國之が爲に弊る。其故何ぞや。直に 婚媾の私、羣情の免るる能はざる

- 【四】 后黨。皇后の一族。
- 【五】 婚族。外戚即ち皇后の族。
- 【六】 西京。前漢なり。七族は 呂、霍、上官、趙、丁、傅、王 なり。皆外戚なり。
- 【七】 東京。後漢なり。六姓は 章帝の賢后、和帝の鄧后、安帝の閻后、桓帝の賢后、順帝の梁后、靈帝の何后。
- 【八】 姻黨。后黨なり。
- 【九】 平進。自己の才能によりて陞進すること。
- 【一〇】 姻昵。外戚の親。
- 【一一】 庶姓。國家と特別の親なき家。
- 【一二】 大瑕。大なる過失。
- 【一三】 天地。天子皇后に喩ふ。
- 【一四】 四時。諸王に喩ふ。
- 【一五】 扶疎。茂ること。
- 【一六】 婚媾。婚姻なり。

所に由るのみ。故に其の嫌ふ所に率つて之を國に嫌ふ。是を以て 疏附けば則ち信せられ、姻進めば則ち疑はる。疑百姓の心に積れば、則ち禍 重圍の内に成る。此れ皆 往代の成鑒、寒心を爲すべき者なり。

【大意】 前後二漢を觀るに、后黨を抑ふれば其族安く、后黨を進むれば其族危かりき。若し彼の后黨をして、各々其才能に頼りて進ましめば、決して 盡く敗れるることなかりしならん。ただ姻親に頼りて進みしを以て 盡く敗れたるなり。世の庶姓は朝に黨援なく、根を張ること軽く薄しと雖も、苟も大過なければ、猶ほ容れらるるに足る。外戚に至りては天子諸王に縁親を結び、其根を張ること重く大なり。然れども少しく權寵を得れば世人の怨府となり、小罪過あれば身誅せられ國亦破る。是れ皆皇室と親縁あり、衆情の嫌疑を招くを以てなり。是を以て疏遠の人信任せらるれば、國人之を信じ、外戚の臣用ひらるれば國人之を疑ふ。國人疑へば禍亂國家に及ぶ。是れ古來の明鑑にして懼れざるべからざるなり。夫れ萬物の通せざる所は、聖賢も因りて奪はず。親を冒して以て一才の用を求むるは、未だ嫌を防ぎて以て公道を明にするに若かず。今臣の才を以て此の如きの嫌を兼ね、而して内 心膺に處り、

- 【一七】 疏。異姓の臣なり。
- 【一八】 重圍。宮門なり。
- 【一九】 往代。漢代を指す。成鑒は明鑑。
- 【二〇】 心膺。膺は脊なり、重臣をいふ。書經に、穆王曰く、「今汝に命じて朕が股肱心膺となす」とあり。



外 兵權を搥べしむ。此を以て治を求むるは、未だ之を聞かざるなり。此を以て禍を招くは、立ち待つべし。陛下の 二相其 愚款を明にし、朝士 百寮頗る其情を識ると雖も、天下の人何ぞ門ごとに到り戸ごとに説き、皆 坦然たらしむべけんや。夫れ富貴寵榮は臣の忘るる能はざる所なり。刑罰貧賤は臣の甘んずる能はざる所なり。今命を恭くすれば則ち愈ち、命に違へば則ち苦し。臣達せずと雖も何事ぞ時に背き上に違ひ、自ら患責を貽さんや。仰いで 股鑿を覽、己を量り敵るを知る。身は惜むに足らざるも、國の爲に悔を取らん。是を以て 愷愷として 屢丹款を陳ぶ。而も微誠淺薄にして未だ察諒を垂れず。憂惶 屏營して厝く所を知らず。臣が 兇の地を以てするに、以て進むべからざること明なり。且つ命に違ふこと已に久し。臣の罪又積れり。骸を私門に歸し、以て刑書を待たん。願くは陛下天地の 鑿を垂れ、臣の愚を察せば、則ち死するの日と雖も、猶ほ生くるの年のごとくならん。

【大意】 夫れ物の通達せざるあれば、聖賢も因りて之に任ず。陛下親戚の嫌疑を冒し、一小才の用を求むるは、疑慮を防ぎて公道を明にするに如かず。今臣小才を以て嫌疑の地に在り。之をして

- 【四一】 兵權。王敦の中領軍となすこと。
- 【四二】 二相。王敦王導をいふ。
- 【四三】 愚款。愚誠なり。
- 【四四】 百寮。百官なり。
- 【四五】 坦然。明白なる貌。
- 【四六】 股鑿。前代の明鑑。
- 【四七】 愷愷。誠なり。丹款は赤誠。
- 【四八】 屏營。驚惶なり。
- 【四九】 今の地。嫌疑の地位。

内外の重職に當らしめば、禍敗を招くこと必せり。たとひ陛下の二相以下百官、皆臣の愚誠を知ると雖も、天下萬人の嫌疑を解くは、不可能の事なり。今君命を恭くして職に就けば身の榮となり、君命に従はざれば身の憂となる。臣は無智なりと雖も豈好んで君命に違ひ、自ら患責を招くの愚をなさんや。ただ前代の明鑑を觀て己の必ず敵るを知り、遂に國家の禍とならんことを恐るればなり。故に屢辭避すれども陛下未だ聽察を垂れ給はず。願くは骸骨を乞ひ家に歸り以て罪を待たん。又願くは更に陛下の明察を垂れ給はんことを。

二 譙元彦を薦むる表

桓元子

臣聞く 太朴既に虧くれば、則ち 高尚の標顯はれ、道喪び時昏ければ、則ち忠貞の義彰ると。故に耳を洗ひ 淵に投じ、以て 玄邈の風を振ふあり。亦心を秉り跡を矯び、以て 在三の節を敦くするあり。是の故に上代の君、斯軌を崇重せざるなきは、俗を篤くし民を訓へ、流

- 【一】 譙元彦。名は秀、字は元彦。
- 【二】 桓元子。名は温、字は元子、晉の人。
- 【三】 大朴。大道なり。
- 【四】 高尚の標。隱逸の節。
- 【五】 耳を洗ふ。堯天下を許由に譲らんとす。許由以て耳を汗せりとなし其耳を洗ふ。
- 【六】 淵に投ず。舜天下を其友
- 【七】 玄邈。玄遠なり。
- 【八】 在三の節。國語に「人生北人無擇に譲らんとす、北人無擇之を以て辱となし、自ら清冷の淵に投じて死す。」



競を靜一にする所以

なり。伏して惟る

に大晉符に應じ世

を御し。運に常通なく時に

白駒空谷に聞ゆるなし。

斯れ有識の心を悼ましむる所、大雅の歎息する所の者なり。

【大意】 大道すたれて隱逸乃ち顯れ、昏亂の時忠貞乃ち明なり。故に太古純朴の世には天下を讓

らるるを恥ぢ、耳を洗ひ淵に投じ、以て玄遠の風を振ひし者あり。心を執り迹を擇び、君父の節を

厚うせる者あり。上古の君之を尊べるは、此を以て人俗を厚うし、人を訓へて奔競せざらしめんが

爲なり。我が大晉は天命に應じて天子となり、寇賊の侵掠に遇ひて洛陽を破られ、僅に江南の一方

に偏居す。是を以て賢者の隱居する者なく、皆出でて任に就けり。是れ大雅君子の傷歎する所な

り。

【二五】 陛下。晉の穆帝。

【二六】 西土。蜀をいふ。李勢蜀

を盗む。桓温伐ちて之を殺す。

【二七】 鯨鯢。李勢に喩ふ。

【二八】 潛逸。隱逸なり。

れて三に於て之に事ふること

一の如し、父之を生み師之を

教へ君之に食ましむとあり。

【九】 符。符瑞なり。

【一〇】 屯蹇。險難なり。

【一一】 神州。洛陽なり、晉の都。

【一二】 圯裂。分裂なり。

【一三】 兔置。兔を捕ふる網。詩

【一四】 白駒。詩經の篇の名。賢

人の隱居するをいふ。

經の篇の名。賢人の退いて禽

獸を狩りて食ふをいふ。

【一五】 白駒。詩經の篇の名。賢

人の隱居するをいふ。

【一六】 白駒。詩經の篇の名。賢

人の隱居するをいふ。

【一七】 白駒。詩經の篇の名。賢

人の隱居するをいふ。

【一八】 白駒。詩經の篇の名。賢

人の隱居するをいふ。

【一九】 白駒。詩經の篇の名。賢

人の隱居するをいふ。

【二〇】 白駒。詩經の篇の名。賢

人の隱居するをいふ。

【二一】 白駒。詩經の篇の名。賢

人の隱居するをいふ。

【二二】 白駒。詩經の篇の名。賢

人の隱居するをいふ。

【二三】 白駒。詩經の篇の名。賢

人の隱居するをいふ。

【二四】 白駒。詩經の篇の名。賢

人の隱居するをいふ。

【二五】 白駒。詩經の篇の名。賢

人の隱居するをいふ。

【二六】 白駒。詩經の篇の名。賢

人の隱居するをいふ。

【二七】 白駒。詩經の篇の名。賢

人の隱居するをいふ。

【二八】 白駒。詩經の篇の名。賢

人の隱居するをいふ。

老に訪ひ 潛逸を搜揚し、武羅を羿泥の墟に

庶ひ、王蠋を亡齊の境に想ふ。竊に聞く

巴西の譙秀操を植つること貞固、徳を抱いて

肥遯し、清渭の波を揚ぐと。時に 皇

極道消するの會に邁ひ、羣黎顛沛の艱を踏

む。中華顧瞻の哀あり、幽谷 遷喬の望なし。

【一】 凶命。屢招き 奸威仍に逼り、身 虎吻

に寄せ、危きこと朝露に同じ。而も能く節を抗

げて 玉立し、誓つて降辱せず。門を杜ぢ跡

を絶ちて 僞庭に面はず。進んでは 龔勝

亡身の禍を免れ、退いては 薛方詭對の譏

なし。園綺の商洛に棲み、管寧の遼海に黙

ると雖も、之を秀に方ふるに、殆ど以て過ぐ

るなし。今に西土以て美談となす。夫れ徳を旌

【一九】 武羅。左傳に「昔羿夏の

政に代る、武羅を棄てて寒浞

を用ふ。寒浞羿を滅して其國

家を取る」とあり。

【二〇】 王蠋。燕人齊を伐ち王蠋

を獲て之を將とせんとす、王

蠋曰く、忠臣は二君に事へず

貞女は二夫を更へすと、遂に

自殺す。

【二一】 巴西。蜀の地名。

【二二】 肥遯。隱遁なり。

【二三】 清渭。川の名。清潔の行

に喩ふ。

【二四】 皇極。天子の道。

【二五】 羣黎。衆民なり。顛沛は

僂仆。

【二六】 遷喬。喬木に遷ること。

【二七】 登仕の意なり。

【二八】 凶命。李雄李壽等の召命。

【二九】 奸威。李雄李壽等の脅迫。

【三〇】 虎吻。虎口なり。

【三〇】 玉立。潔白を守ること。

【三一】 僞庭。李雄の廷なり。

【三二】 龔勝。漢書に「王莽既に

漢を篡ひ、安車駟馬もて龔勝

を招く、勝曰く吾れ漢室の厚

恩を受け以て報ゆるなし、豈

一身を以て二姓に事へ地下に

故主に見えんやと、飲食せず

して死す」とあり。

【三三】 薛方。漢書に「王莽安馬

を以て薛方を迎ふ、方使者に

因りて辭謝して曰く、堯舜上

に在れば下に巢許あり、今明

王唐虞の徳を隆にす、小臣箕

山の節を守らんと欲すと、使

者以聞す、莽其言を悦び強ひ

て之を致さず」とあり。

【三四】 園綺。隱者の名。商洛は

山の名。

【三五】 管寧。後漢の末の人、亂

を避けて遼東に居ること三十



し賢を禮するは、化道の先にする所、殊節を崇表するは、聖詰の上務なり。方今(三六)六合未だ康からず、(三七)豺豕路に當り、(三八)遺黎偷薄にして義聲聞えず。益々宜しく道義の徒を振起し、以て流遯の敵を敦うすべし。若し秀(三九)蒲帛の徵を蒙らば、以て頽風を鎮靜し、(四〇)囂俗を軌訓し、(四一)幽遐流を仰ぎ、(四二)九服化を知るに足らん。

【大意】陛下聖德を以て位を嗣ぎ、祖業を弘恢す。臣嘗て李勢を征し、首を梟して、蜀を平ぐるや、治化を布かんことを思ひ、隱逸の士を亡國の墟に求め、譙秀の貞固を守り隱逸の德を抱くを聞けり。時恰も皇道衰へて國民安んぜず、賢者は中國を願望して、登仕の道絶えたるを哀む。然も秀や李雄、李壽(李勢の父祖なり)等或は禮を以て招き、或は威を以て迫れども、終に其命に應ぜず。誓つて亂朝に仕へず。其の潔白なること龔勝、薛方の比にあらず。園綺管寧と雖も及ぶ能はず。是を以て蜀人皆秀の節を稱す。夫れ賢德を禮し、異行を表すは、聖主の務なり。今や盜賊路に當り、民心澆薄なり。宜しく道義の人を振起し、以て流俗の弊を厚うすべきなり。秀若し徵命を蒙らば、必ず能く壞風を鎮め薄俗を敦うし、遠近聖化を仰ぐに至らん。

七年。

- 【三六】聖詰。詰は哲の古字。
- 【三七】六合。天下なり。
- 【三八】豺豕。亂賊に喩ふ。
- 【三九】遺黎。遺民なり。

- 【四〇】蒲帛。漢書に「武帝使者を遣し、東帛加璧、安車蒲輪以て申公を迎へしむ」とあり。
- 【四一】幽遐。遠土なり。
- 【四二】九服。天下なり。

二 尙書を解く表

殷仲文

臣聞く(一)洪波壑に振へば、川に(二)恬鱗なく、(三)驚鷗野を拂へば、林に(四)靜柯なしと。何者勢弱ければ則ち制を巨力に受け、質微なれば則ち以て自ら(五)保んずるなければなり。理に於て得て言ふべしと雖も、臣に於て寔に敢て喩る所ならんや。昔(六)桓玄の世、誠に復た(七)驅迫せらるる者衆し。愚臣に至りては罪實に深し。進んでは危を見て命を授け、身を忘れて國に殉する能はず。退いては粟を首陽に辭し、衣を拂つて高く謝する能はず。遂に乃ち(八)昏寵に宴安し、(九)僞封を叨味し、(一〇)錫文篡事會て獨り固きことなし。名義之を以て俱に淪び、情節茲より兼ね撓る。宜しく其れ法を極めて以て忠邪を判すべし。

【大意】大波壑を振へば、魚安きを得ず、疾風林を搖かせば、枝靜なる能はず。何となれば微弱なる者は剛強の爲に制せらるればなり。嘗て桓玄の叛するや、吾亦その制する所となり、進んで國家の

- 【一】尙書。官名。
- 【二】洪波。大波なり。
- 【三】恬鱗。安靜なる魚。
- 【四】驚鷗。疾風なり。靜柯は靜なる枝。
- 【五】桓玄。大司馬桓温の孽子なり、江陵に據りて兵を擧げ建康に入り、安帝に迫りて位を讓らしむ、劉裕兵を起して

- 【六】玄を討つ、玄走りて首を江陵に斬らる。
- 【七】昏寵。桓玄の寵。宴安は安んずること。
- 【八】僞封。桓玄の爲に東興公に封ぜられしこと。叨味は食ること。
- 【九】錫文篡事。桓玄に九錫を加ふる文、及び禪位の文なり。



爲に賊を征する能はず、退いて衣を拂つて世事を謝する能はず。遂に桓玄に仕へて親寵を蒙りぬ。然も桓玄忽ち誅せられ、吾亦之と俱に淪没せり。臣が罪大なり。宜しく重法を加へて邪惡を罰すべきなり。

鎮軍臣裕、社稷を匡復し、大に善貨を弘む。一戮を微命に付べ、三驅を大信に申べ、既に之に恵むに首領を以てし、復た之を引くに縶を以てす。時に皇輿否隔して天人未だ泰からず。用て進退を忘れ、唯力を是れ視る。是を以て僂俛して事に従ひ、自ら全人に同うす。今宸極正に反り、維新始めを告げ憲章既に明にして、品物舊を思ふ。臣亦胡ぞ顔の厚くして、以て榮次に顯居すべけんや。乞ふ所職を解き罪を私門に待たん。以聞す。

【大意】 劉裕桓玄を誅して國家を恢復するや、臣が罪を宥して誅戮を加へず。時に天下猶ほ未だ安

- 【九】 裕。宋の高祖。即ち劉裕。
- 【一〇】 善貨。人の罪を宥すこと。
- 【一一】 三驅。三面の網を解いて一面を留むること。寛仁を言ふ。
- 【一二】 首領。類なり。
- 【一三】 縶。詩經白駒篇に「之を繫し之を維し、以て今朝を永うせん」とあり、賢人を引
- 【一四】 皇輿。天子の位。
- 【一五】 僂俛。俯仰なり。
- 【一六】 全人。全徳の人。
- 【一七】 宸極。帝位なり。
- 【一八】 憲章。禮法制度。
- 【一九】 品物。憲章に同じ。
- 【二〇】 榮次。顯榮の地位。
- 【二一】 所職。尙書をいふ。

闕庭に違謝し、乃ち心に愧戀す。謹んで拜表して

からざりしを以て、進退の理を忘れ、尙書となりて力を軍旅に效し、自ら全徳の人に同うせり。今や帝位既に安く、維新の業を開き、禮法制度舊時に異らず。是れ臣の當に退くべき時なり。何ぞ厚顔無恥にして高位に居らんや。願くは尙書の職を解き、私家に歸らんことを。宮闕を去り願戀の情に勝へず。

宋公の爲に、洛陽に至り五陵に謁する表 傅季友

宋公の爲に洛陽に謁する表

臣裕言す。近ごろ河の涓に振旅し、旂を揚げて西に邁く。將に舊京に届り威を以て司雍を懐けんとす。河流遄疾にして道阻り且つ長し。加以伊洛榛蕪し、津塗久しく廢し、木を伐り徑を通じ、淹しく時月を引く。始めて今月十二日を以て故の洛水の浮橋に次る。山川改るなきも城闕墟となり、宮廟隳頓して鍾簾空しく列り、觀宇の餘鞠く禾黍となり、塵里蕭條として雞犬音罕なり。舊に感じて永懷

- 【一】 宋公。劉裕なり。晉書に「義熙十二年、洛陽平ぐ、裕命じて晉の五陵を脩め、守備を置く」とあり。
- 【二】 河。黄河なり。振旅は兵を整ふること。
- 【三】 舊京。洛陽をいふ、晉の舊都なればなり。
- 【四】 司雍。二州の名。
- 【五】 遄疾。急速なり。
- 【六】 伊洛。二川の名。榛蕪は荒穢なり。
- 【七】 津塗。わたし及び道路。
- 【八】 隳頓。廢壞なり。
- 【九】 鍾簾。鐘は鐘、簾は簾を懸くる架。
- 【一〇】 觀宇。宮闕なり。
- 【一一】 塵里。街里なり。



し、痛心目に在り。其月十五日を以て、(三)五陵に奉謁す。墳塋幽淪し(三)百年荒廢せるも、(四)天衢泰を開き、情禮申ぶるを獲たり。故老涕を掩ひて三軍懷感す。瞻拜の日憤慨交々集る。行河南太守毛脩之等既に(五)荆棘を開翦し、毀垣を繕脩し、職司既に備り、(六)蕃衛舊の如し。伏して惟るに聖懷遠慕兼ねて慰んせん。下情に勝へず。謹んで傳詔殿中郎臣某を遣し、表を奉りて以聞せしむ。

【大意】臣近ごろ兵を整へて西行し、將に洛陽に至り、司雍二州を威撫せんとす。道路長遠にして津途塞がれるを以て、豫想外に時日を要し、今月十二日、始めて洛水の浮橋に次れり。山川舊容を變せずと雖も、城闕丘墟と化し、宮閣破れて盡く田疇となり、昔全盛の時を追想し、見る所のもの悉く傷心の種ならざるはなし。臣十五日を以て五陵に參拜す。陵墓荒廢せること既に百年。今墓門を開き、禮祭の情を盡し、憤慨交々至れり。行河南太守毛脩之等既に荒穢を脩理し警衛を置くこと舊の如し。陛下遠慕の情また當に慰安せらるべきを信ず。今臣某を遣し、表を奉りて上聞せしむ。

- 【一】 五陵。文帝の崇陽陵、武帝の峻陽陵、宣帝の高原陵、景帝の峻平陵、及び景帝の陵。
- 【二】 百年。懷帝の時洛陽を去りてより安帝に至るまで百年に近し。
- 【三】 天衢。天路といふが如し。
- 【四】 荆棘。いばら。
- 【五】 蕃衛。警衛といふが如し。

宋公の爲に、劉前軍に加贈せんことを

求むる表

傳季友

功を念ひ勞を簡ぶは、義遠きを追ふに深しと。

臣聞く、賢を崇び善を旌すは、王化の先にする所、功を念ひ勞を簡ぶは、義遠きを追ふに深しと。故に司勳策を秉り、勳を在ては必ず記す。徳の休明なる、没して彌々著る。故の尙書左僕射前軍將軍臣劉穆之、爰に布衣より(一)義始に協佐し、内謀猷を竭し外庶政を勤め、軍國に(二)密勿して心力俱に盡す。朝右に登庸せられ京畿に(三)尹司たるに及び、(四)百揆を敷讚し大猷を翼新す。頃ろ戎車遠く役するや、中に居て(五)捍を作し、撫寧の勳實に朝野に洽く、識量局に致り、(六)棟幹の器なり。方に盛化を宣讚し、聖世を緝隆し、志績未だ究めず、(七)遠邇心を悼ましむ。皇恩褒述し(八)班三事に同じ。榮哀既に備り、寵靈已に泰なり。

- 【一】 宋公。劉裕なり。晉の時宋公に封ぜらる。
- 【二】 劉前軍。前軍將軍劉穆之なり。
- 【三】 司勳。官名。公勳を録することを知る。
- 【四】 休明。休は美なり。
- 【五】 劉穆之。一本に劉の字なし。
- 【六】 義始。劉裕の義兵を起す始め。
- 【七】 謀猷。猷も謀なり。
- 【八】 密勿。僮儻なり。
- 【九】 朝右。僕射なり。
- 【一〇】 尹司。丹陽尹たりしこと。
- 【一一】 百揆。庶政なり。
- 【一二】 戎車。兵車なり。
- 【一三】 捍。ふせぎまもること。
- 【一四】 棟幹。棟梁貞幹なり。
- 【一五】 遠邇。遠近なり。
- 【一六】 班。位階なり。三事は繁同三司を贈りしこと。



【大意】賢を尊び善を表すは、王化の尙ぶ所、勤勞を念ひて之を厚くするは、追遠の道なり。故に勤勞ある者は没して其名必ず著る。故の劉穆之は布衣より起りて臣に事へ、臣を佐けて共に義兵を起し、内には謀策を盡し、外には軍事に勤め、具に心力を竭せり。尙書左僕射、丹陽尹に登庸せらるるに及び、庶政に參して治化を翼く。臣このごろ兵を率ゐて北伐するに當り、中に居て捍禦をなし、持安の大功あり。識量實に棟梁の材なり。然も未だ其志を盡すに及ばずして死し遠近之が爲に心を傷ましむ。皇恩其功を賞し、以て儀同三司を贈り、哀榮既に備はれり。臣伏して思尋するに、義熙草創より、艱患未だ弭まらず。外虞既に殷にして内難亦存なり。時、屯に世故あり、寧歲あることなし。臣寡劣を以て國の重きを負荷す。實に穆之が匡翼の勳に頼れり。豈唯、讜言嘉謀の民聽に溢るるのみならんや。若し乃ち、忠規密謨帷幕に潛慮し、造膝詭辭其際を見るなし。事皇朝に隔り功視聽に隱るる者、勝けて記すべからず。力を一紀に陳べ遂に克く成すある所以なり。出でて征し入りて輔け、幸に命を辱めず。夫人の左右する微せば、未だ

- 【一】 義熙。晉の安帝の年號。
- 【二】 草創。事を始むること。
- 【三】 艱患。桓玄の亂をいふ。
- 【四】 外虞。外患なり。慕容超の屢患をなししこと。
- 【五】 屯。難なり。
- 【六】 讜言。善言なり。嘉謀は善謀。
- 【七】 忠規。忠言なり。密謨は密謀。
- 【八】 造膝。君に近づいて諫言を納るること。詭辭は人間へば詭りて之に對ふること。
- 【九】 一紀。十二年をいふ。
- 【十】 夫人。穆之を指す。左右は輔佐なり。

其事を寧濟する者あらざりしなり。謙を履み寡に居り、之を守ること彌々固し。議封爵に及ぶ毎に、輒ち深く自ら抑絶す。勳當年に高くして、茅土の及ばざる所以なり。事を撫して永く念ひ、胡寧ぞ味ますべけんや。謂く宜しく、正司を加贈し、追ひて、土宇を甄し、忠貞の烈をして身後に泯びざらしめ、大賚の及ぶ所善人を、永秩すべしと。臣屯夷に契闊し、終始を旋觀し、金蘭の分、義情感に深し。是を以て其、乃懷を獻じ、之を朝聽に布く。啓する所、上合せば、請ふ外に付し詳議せしめんことを。

- 【一】 茅土。封爵なり。
- 【二】 正司。三公なり。
- 【三】 土宇。穆之の居りし土地。
- 【四】 烈。業なり。
- 【五】 大賚。大なる賜。
- 【六】 永秩。永久に祿秩を賜ふこと。
- 【七】 屯夷。屯は難、夷は易也。
- 【八】 契闊は勤苦なり。
- 【九】 終始。穆之の始終なり。
- 【十】 金蘭。深き交。
- 【十一】 乃懷。己の思ふ所。
- 【十二】 上合。上意に合ふこと。

【大意】臣伏して思ふに、義熙より以來内外事多くして寧歲なし。臣庸劣の身を以て國の重職を帯ぶるは、是れ皆穆之が輔翼の力に頼るなり。故に其善言善謀人よく之を聞知すれども、密謀潛慮に至りては、人の知らざる者甚だ多し。陛下の視聽に達せざる者に至りては、勝けて記すべからず。然れども穆之は謙虚にして毎に封爵を辭して受けず。臣謂へらく宜しく三公を追贈し、忠貞の業をして永く朽ちざらしむべしと。臣は穆之と金蘭の契あり分義既に深し。所懷を陳べて加贈を乞ふ所以なり。若し上意に合はば、外臣に命じて審議せしめられよ。



齊の明皇帝の爲に、相となり宣城郡公を讓る第一表

任彦升

臣鸞言す。臺司の召を被る。臣を以て侍中中書監、驃騎大將軍、開府儀同三司、揚州刺史、錄尚書事となし、宣城郡開國公、食邑三千戸、加兵五千人に封す。臣も庸才、智力淺短なり。太祖高皇帝、猶子の愛を篤くし、家人の慈を降す。世祖武皇帝、情布衣に等しく、寄同氣より深し。武皇大漸せしとき、實に話言を奉ず。自見の明と雖も、庸近に蔽はる。愚夫の一

- 【一】明皇帝。齊の明帝、名は鸞。太祖之を宣城郡公に封す、後帝位に即く。
- 【二】臺司。朝廷の官。
- 【三】猶子。チヒなり。鸞は太祖の兄の子なり。
- 【四】家人。庶人なり。
- 【五】同氣。兄弟なり。
- 【六】大漸。病進んで將に死せんとすること。
- 【七】話言。善言なり。後事を屬せしこと。
- 【八】一至。劉劭の人物志に「一至之を偏材といふ」とあり。
- 【九】偏識。偏見なり。
- 【一〇】綴衣。書經顧命に「綴衣を庭に出す、越えて翼日乙丑王崩す」とあり。綴衣は病室に設けたる帷帳。
- 【一一】玉几。玉にて飾りし几。王之命を下す時憑る所のもの。
- 【一二】末命。王之臨終の時の命令。
- 【一三】嗣君。鬱林王をいふ。
- 【一四】宣德。宣德太后、武帝の皇后なり。

は、職として臣に之れ由る。何者親は則ち東牟、任は惟れ博陸、徒に子孟が社稷の對を懷ふも、何ぞ昌邑争臣の讒を救はん。四海の議何に於てか責を逃れん。且つ陵士未だ乾かず、訓誓耳に在り。家國の事一に斯に至れり。臣の尤にあらざる誰か其咎に任せん。將た何を以てか肅んで高寢を拜し、虔んで武園に奉せん。心に悼みて圖を失ひ、血に泣いて且を待つ。寧ろ復た榮を家恥に微め、國危に宴安す容けんや。

【大意】 臣召を被りて朝せしに、臣を以て驃騎大將軍、揚州刺史、錄尚書事、侍中中書監となし、更に臣を封するに宣城郡開國公を以てせらる。臣もと智力淺陋にして、太祖武帝二世の寵遇を蒙り、特に武帝の崩御に際し、後事を屬せらる。偏識を以て過つて己の能を量り、且つ臨終の命に違ふを憚り、遂に其依託に従ふ。嗣君鬱林王常道を棄てて荒淫なり。乃ち宣德太后の廢する所となる。然れども王を輔けて功を成す能はざりしは、其罪臣に在り。其責何を逃るる所あらんや。武帝の遺詔猶ほ耳に在り。然も終に王を廢せざるを得ざるに至る。臣何を以て太祖武帝の陵墓に拜するを得んや。況んや此の家國の危恥

- 【一】東牟。漢の東牟侯興居は惠王の子なり、諸呂を誅して功あり、博陸侯に封ぜらる。
- 【二】子孟。霍光、字は子孟、昌邑王賀を輔く、賀無道なり、太后の命を以て賀を廢す、賀曰く天子争臣あれば天下を失はずと、光曰く、臣寧ろ王に負くも社稷に負かずと。
- 【三】陵士云云。武帝崩じて未だ久しからざるをいふ。
- 【四】訓誓。顧託の命。
- 【五】高寢。太祖高皇帝の廟。
- 【六】武園。武帝の陵。
- 【七】宴安。安逸なり。



に際し、重封を受けて安逸を計るをや。

驃騎は上將の元勳、(三三)神州は儀刑の列岳、尙書は古司會と稱し、中書は實に王言を管る。且つ

(三三)龍章を虚飾し、(三四)禦侮を委成するは、臣愜はざるを知る。(三五)物誰か宜しと謂はんや。ただ命鴻毛よ

り軽く責山岳より重し。存没歸を同うし毀譽(三六)一貫なり。一官を辭するも身累を減せず、一職を増し

て已に朝經を躡せり。便ち當に自ら體國を同うし、飾讓をなさざるべし。功(三七)一匡に均しく賞

(三八)千室に同じく、(三九)近甸に光宅し全邦を(四〇)奄有するに至りては、(四一)隕越を期となすも、敢て命を聞

かず。亦願くは(四二)降襲を曲留し、即ち順許を垂れんことを(四三)鉅平の懇誠彌く固く、(四四)永昌の丹慊

申ぶるを獲ば、乃ち

君臣の道(四五)綽とし

て餘裕あるを知る。

苟も昭にし易し

といふも、敢て(四六)

奪ひ難きを守る。故

に心に庶ひ議を弘

卷第十九に出づ。

(三四)永昌。晉の庾亮、字は元

規、中書監となり、上疏(卷

第十九に出づ)して讓る。乃ち

永昌公に封ず。丹慊は執誠な

る謙讓。

(四五)綽として云云。孟子に「官

守ある者は其職を得ざれば則

ち去る、言責ある者は其言を

得ざれば則ち去る、我れ官守

なく言責なし、則ち吾が進退

んやしとあり。

も志を奪ふべからずとあり。

にし、己を酌み物を

親むべき者なり。苟

懼 屏營の誠に勝へず。謹んで某官某甲に附し、表を奉りて以聞す。

【大意】驃騎は上將の元勳にして、揚州刺史は天下の儀表たるべき諸侯なり。尙書は古司會と

稱し、天下の事を綜べ、中書は王言を出納する事を掌る。この大任を受くるは、臣の宜しき所に

あらず。ただ身命は鴻毛よりも軽く、罪責を負ふこと山岳よりも重し。故に存没毀譽を同一視し、

粉骨碎身以て國家と同體たるべし。故に敢て假飾をなして辭讓せず。ただ宣城郡に封せられ、邦土

を領有するに至りては、死すとも命を受くる能はず。願くは聖意を曲げ、臣の願を容れ給はんこと

を。若し臣の辭意を容れ給はば、臣たるの道に於て、始めて綽然たるを得べし。若し臣の情を以て

昭察し易しとなし、許容せられずんば、臣は永く此志を守りて變ふることなからん。宜しく己を

度りて人を察し給ふべきなり。謹んで表を奉りて上聞す。

范尙書の爲に、吏部封侯を讓る第一表 任彦升

臣雲言す。尙書の召【一】范尙書。名は雲。字は彦。龍、梁の武帝と同じく、齊の竟。陵王に事ふ、天子となるに及



を被る。臣を以て散騎常侍、吏部尚書となし、雲城縣開國侯、食邑千戸に封ず。命を奉じて震驚し心顔措くことなし。臣雲臣は素門の凡流にして、輪翮取るなし。進んでは中庸に謝し、退いては

- 【一】 臣雲。一本この下に頓首頓首死罪死罪の八字あり。
- 【二】 素門。寒素の家。
- 【三】 輪翮。輔佐の能をいふ。張載の詩に「輔車の運るは輪に在り、飛骨は六翮を須ふ」とあり。
- 【四】 中庸。平凡なる人。
- 【五】 狂狷。狂は志極めて高くして行稱はざる者。狷は知及ばずして守餘りある者。
- 【六】 篆刻。文章を彫琢すること。三冬は冬三個月。

- 【八】 燕魏。蘇秦書を負ひて燕魏二國に遊説す。
- 【九】 菽粟。菽は豆。
- 【一〇】 齊楚。韓詩外傳に「田子方魏の太子に謂つて曰く、志得ずんば則ち履を受けて秦楚に適かんのみ、安くに往くとして貧賤を得ざらん」とあり。
- 【一一】 虎を分つ。銅虎符を賜りて郡守となること。
- 【一二】 囊被。漢書に「王陽父子皆車馬衣服を好み、其の自ら奉養する極めて鮮明となす。遷徙して處を去るに及び、載

- 【一三】 斧を持す。斧鉞を賜りて太守となること。牧は太守なり。
- 【一四】 蕙政。草の名、馬援交趾太守となりて出づ、蕙政は瘴氣を治すべしと、遂に一車を取りて還る、時人因つて之を諷る。
- 【一五】 赭衣。罪人の衣。虜は罪囚なり。
- 【一六】 井臼。春汲なり。

狂狷に慙ず。固より嘗て鑽厲して學を求め、而も一經治まらず。篆刻文を爲して三冬就るなし。書を、燕魏に負ひ、空しく菽粟を彈し、屬を齊楚に躡み、徒に貧賤を知る。既にして虎を分ちて出守すれば、囊被を以て嗤はれ、斧を持して牧となれば、蕙政を以て諷を興し、赭衣して虜となりては、獄吏の尊きを見、名を除かれて民となりては、井臼の逸きを知る。百年の

上壽既に徒然といふ。如し其れ誠説なるも、亦以て半を過ぐ。亂離斯に瘼みぬ。以て安に歸せんと欲する。門を荒郊に閉ぢ、再び寒暑に離ふ。兼ねるに東阜の數畝、朝夕を控帶し、關外の一區、鍾阜を悵望するを以てす。室に趙女なしと雖も而も門に好事多く、祿微なれども金を賜り、歡同うして老を娛み、菱を折り、枯を燔き、此に自ら足れりとす。

【大意】 臣は寒素の家に生れ、又輔翼の能なし。嘗て學問文章を學びたるも、少しも成就する所なく、出でて太守となりしも、徒に世の誹謗を招き、罪を得て獄に下りては、執法の官を畏れて之を尊び、官爵を除かれて平民となり、始めて衣食の安樂なるを知る。上壽は百年なりといふも、是れ固より虚言なり。たとひ虚言ならずとするも、臣が年已に其半を過ぎたり。荒郊に隱居してより既に二年を経、常に鍾山を悵望せり。家に歌舞の妓なしと雖も、好事者の時に來り訪ふあり。祿薄しと雖も賜金の以て老を娛むべきあり。因つて菱を折りて坐し、乾魚を

- 【一七】 上壽。莊子に「盜跖孔子に謂つて曰く、人上壽は百歳、中壽は八十」とあり。徒然は空言なり。
- 【一八】 亂離。東昏侯の亂を作せるをいふ。
- 【一九】 東阜。東方の澤。
- 【二〇】 朝夕。海をいふ。
- 【二一】 關外。范雲丹陽に在り、丹陽は齊の門外なり。一區は

- 雲の宅をいふ。
- 【二二】 鍾阜。鍾山なり。
- 【二三】 趙女。歌舞の妓。
- 【二四】 好事。漢書に「楊雄貧にして酒を嗜む、時に好事者あり酒肴を載せて從遊す」とあり。
- 【二五】 菱。菱なり。菱を折りて敷物とす。
- 【二六】 枯。乾魚なり。



焼いて食ひ、自ら以て足れりとなす。

【三七】 陛下。梁の武帝を指す。

【三〇】 泥首。降る者は闕下に泥首す。

【四〇】 舊豊。漢の高祖は豊邑の人なり。

心に等しく、功同徳

【三六】 天功。天子の功。

【四一】 捨講。東觀漢記に「初め光武帝長安に學ぶ時、朱祐が宅を過る、祐帝を留めて講を待たしむ、帝位に登るに及び祐が宅に幸し、問うて曰く我が講を去るなきを得んやと、祐曰く敢てせず」とあり。

【四二】 捨講。東觀漢記に「初め光武帝長安に學ぶ、南陽の大人賢者長安に往來し、資用乏し、同舍生韓子と錢を合せ贖を買ひ、從者をして儼ひて以て諸公の費を給せしむ」とあり。

に慙づ。泥首顔に

【三九】 白水。南陽の郷名。後漢の光武帝の郷閭なり。

【四三】 諸公の費。東觀漢記に「初め光武帝長安に學ぶ、南陽の大人賢者長安に往來し、資用乏し、同舍生韓子と錢を合せ贖を買ひ、從者をして儼ひて以て諸公の費を給せしむ」とあり。

【四四】 諸公の費。東觀漢記に「初め光武帝長安に學ぶ、南陽の大人賢者長安に往來し、資用乏し、同舍生韓子と錢を合せ贖を買ひ、從者をして儼ひて以て諸公の費を給せしむ」とあり。

在り。輿棺未だ毀

【三三】 離心。書經に「武王曰く、受億兆の夷人あるも離心離徳なり、予亂臣十人あり、同心

【三三】 離心。書經に「武王曰く、受億兆の夷人あるも離心離徳なり、予亂臣十人あり、同心

【三三】 離心。書經に「武王曰く、受億兆の夷人あるも離心離徳なり、予亂臣十人あり、同心

れず。締構草昧、

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

敢て。天功を叨り、

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

獄訟謳歌、民志に

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

同じきを示す。而し

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

て。隆器大名、一朝

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

總て集る。己を顧み

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

躬に及ぼすに、何を

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

以てか此に臻らん。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

【三二】 八百。周の武王の紂を伐つや、八百諸侯謀らずして辭を同うし、期せずして時を同じうし、同じく孟津に會す。

政に當に閉を。白水に接し、宅を。舊豊に列し、捨講の尤を忘れ、諸公の費を存せるを以てな

るべし。俯して。青紫を拾ふ。豈明經を待たんや。臣雲夫れ。銓衡の重きは。隆替に關す。遠

く惟ふは。則ち哲。帝に在りても猶ほ難んず。漢魏より以降、達識軌を繼ぐ。雅俗の歸する所、唯。許

郭を稱す。十を抜い

て五を得るも、尙ほ

【四六】 肩を比ぶ。戰國策に「淳

【四七】 其餘の得失未だ

【四八】 隆替。國家の盛衰。

【四九】 許郭。後漢の許劭、好んで人物を獎め、賞識する所多し。郭泰、人を知るに明なり、

【五〇】 山濤。選曹郎となり亦正

【五一】 遼落。遠く及ばざること。

【五二】 齊季。齊の末。陵遲は勢

【五三】 草創。創業なり。

范尙書爲の吏部封侯を讓る表

則ち。山濤が識量なり。臣を以て之に泥ふるに、一に何ぞ。遼落なる。齊季陵遲して官方に

消亂し、鴻都綱せず。西園市を成す、金章盈筥の談あり、華貂不足の歎を深うす。草創惟れ



始め義改作に存す。(五)己を恭しうして南面し、成を責めて斯に在り。豈宜しく妄に寵私を加へ、以て王事に乏しくし、附蟬の飾空しく寵章を成すべけんや。之を公私に求むるに授受交々失せり。

【大意】陛下の徳は萬世一出の聖に應じ、天下の人之に就くこと影の形に附くが如し。臣は前朝の微臣にして陛下の功臣にあらず。然るに貴官重職臣の身に及ぶ。自ら顧るに臣が力の能く任ふる所にあらず。願ふに臣が陛下の親幸を辱うするは、ただ同郷の誼あるに因る。經術を明にするの致す所にあらず。夫れ吏部尙書は人物銓衡の事に當る。人を知るは堯舜さへ之を難しとせり。是を以て漢魏より以來ただ許郭二人よく人を知ると稱せられ、其餘は未だ嘗て聞かず。之に次ぐ者は魏の毛玠、晋の山濤あり。また人を知るを以て聞ゆ。臣を以て之に比するに、及ばざること遠し。況んや晋末國勢陵夷し官界紊亂し、學府は綱紀なく賣官の弊甚しきをや。今や陛下王業を創め舊弊を改作すべき時なり。今臣に加ふるに私恩を以てし、王事を闕乏するに至る。公に於ては授を失し、私に於ては受を失す。是れ臣の敢て拜辭する所以なり。

【五】己を恭うす。論語に「舜は己を恭うして、南面するのみ」とあり。  
【六】成を責む。淮南子に「人主の術は、成を責めて勞せず」とあり。  
【六】附蟬の飾。侍中の冠は飾るに黄金の蟬を以す。

近世の侯たる者、(六)功緒參差たり。或は(七)食を關中に足し、或は軍を(八)河内に成し、或は勝を(九)桓榮に制し、或は(十)門人親を加へ、或は(十一)時と抑揚し、或は(十二)隱として(十三)敵國の若く、或は策禁中に定まり、或は(十四)野戦に成り、或は(十五)盛徳卓茂の如く、或は師道桓榮の如く、或は(十六)姓侍祀す。已に紀するに足るなし。(十七)侯外戚且つ(十八)舊章にあらず。而して臣の附く所、唯(十九)恩澤に在り。既に(二十)義(二十一)疇庸に異り、實に(二十二)榮

【一】功緒。功業なり。參差は同一ならざること。  
【二】食を云。漢の高祖、蕭何を留めて關中を鎮せしめ、軍の糧食を給せしむ。蕭何後鄧侯となる。  
【三】河内。後漢の光武帝、寇恂をして河内を守らしむ、恂後雍奴侯となる。  
【四】帷幄。漢の高祖の臣張良、籌を帷幄の中に運らし、後留侯に封ぜらる。  
【五】門人。東觀漢記に「光武位に即き、鄧禹を拜して大司徒となし、制して曰く、孔子云く吾れ回ありてより門人益親めりと、封じて鄧侯となす」  
【六】時と云。漢書に「漢の叔孫通、常を奉じ時と抑揚し勝ちて肯を免がす云云」とあり、通は稷嗣君となる。  
【七】敵國。後漢の光武帝、吳漢を評して曰く、隱として一敵國の若しと、漢を廣平侯に封す。  
【八】禁中。東觀漢記に「廢帝崩じ、ただ安帝宜しく大統を承くべし、車騎將軍鄧騭、策を禁中に定む、騭を封じて上蔡侯となす」とあり。  
【九】野戦。曹參野戦略地の功あり、平陽侯に封ぜらる。  
【十】卓茂。字は子容、後漢の南陽の人、宣德侯に封ぜらる。  
【十一】桓榮。字は春卿、歐陽の尙書を始め師道を窮極す、爵關内侯を賜ふ。  
【十二】四姓。後漢の明帝の時、外戚に樊氏郭氏陰氏馬氏あり、是を四姓となし、侍祀侯たり。又小侯といふ。  
【十三】五侯。漢の成帝、舅王譚王立、王根、王逢、王商を封じ列侯となす、五人同日に封ぜらる、世之を五侯といふ。  
【十四】舊章。舊來の規定。  
【十五】恩澤。漢に恩澤侯あり、功勳なく唯恩澤を以て侯に封ぜらる。  
【十六】疇庸。疇は勳、庸は効なり。功に酬ゆること。



儒者に乖けり。小人幸を貪ると雖も豈獨り心なからんや。臣は本諸生よりし、家素業を承け、門に富貴なく、農に易へて仕ふ。乃祖玄平、道風世に秀づ。爰に中興に在り、多士に儀刑たりしも、位裁に元凱にして任牧伯に止る。高祖少連夙に高尙を秉り、富める所の者は義、乏しき所の者は時。東朝に薄宦たりしも、病を下邑に謝す。先志忘れず、愚臣是れ庶ふ。且つ去歲冬初、國學の老博士のみ。今茲首夏、將に家司に亞がんとす。

- 【七六】 諸生。書生なり。
- 【七九】 素業。朴素の業。
- 【八〇】 乃祖。范雲が高祖の父、名は注、字は玄平、道風は老莊の學。
- 【八一】 中興。晉の元帝。
- 【八二】 多士。衆士なり。儀刑は儀表。
- 【八三】 元凱。尙書なり。牧伯は刺史。
- 【八四】 高尙。仕官せざること。易經に「王侯に事へず其事を高尙にす」とあり。
- 【八五】 東朝。宋の太子の諮議郎たりしをいふ。
- 【八六】 下邑。居る所の邑。
- 【八七】 先志。祖先隱逸の志。

- 【八八】 老博士。范雲國子博士となる。
- 【八九】 家司。吏部尙書をいふ。
- 【九〇】 千秋。車千秋は漢の高祖の園寢郎たり。一月に九たび遷りて丞相となる。日の字は月の字の誤。
- 【九一】 荀爽。後漢の荀爽、徵命を被りてより台司に登るに及ぶまで九十五日なり。
- 【九二】 菅蒯。草の名、以て索となすべし、雲自ら喩ふ。
- 【九三】 絲麻。賢良に喩ふ。左傳に「詩に云く、絲麻ありと雖、菅蒯を弃つるなかれ」とあり。
- 【九四】 聽覽。耳目なり。

在らん。宿心素志復た貳辭なし。臣が乞ふ所を矜み、特に寵命を廻さば、則ち舞章載ち穆ぎ、微物免るるを知らん。臣今假に在り、省に詣る容からず。荷懼の至りに任へず。謹んで表を奉じて以聞す。

【大意】 近世の侯たる者は、其功業同一ならずと雖も、皆各々功業あらざるはなし。今臣の封侯たるは、ただ陛下の恩澤に由るのみ。固より功德の酬ゆべきあるにあらず。又臣の此榮を受くるは、儒者の徳にあらず。小人の性寵幸を貪ると雖も、豈心に愧づるなからんや。臣は書生より起り、家世々貧素なり。ただ祿仕を以て農耕に易ひしのみ。遠祖玄平は道學を以て一時に秀で、晉の元帝の時、衆士の儀表たりしも、位纔に尙書たり、職刺史たりしに過ぎず。高祖少連は高尙の志を抱きて仕へず。徳義に富めりと雖も、時に逢はず。宋に仕へしも病を以て官を辭せり。臣亦祖先の志を以て志となし、隱逸を願へり。然るに去冬は國子博士たりしに今將に吏部尙書たらんとす。臣の榮達の速なること車千秋、荀爽の比にあらず。臣無識にして利を好むと雖も、名實を虧くは、國と身との爲に不可なるを知る。故に敢て冒進せず。臣平生隱逸の言あり。今猶ほ陛下の耳目に在らん。今日と雖も復た其志を渝へず。臣の乞を哀み寵命

- 【九五】 貳辭。平生の言を變ふること。
- 【九六】 舞章。常法なり。
- 【九七】 微物。微身なり。雲自ら謂ふ。
- 【九八】 假。休沐なり。



を撤回し給はば、常法に叶ひ、臣亦咎を免るるを得ん。因つて表を奉りて奏聞す。

蕭揚州の爲に作れる、士を薦むる表 任彦昇

臣王言す。臣聞く、賢を求めて暫く勞すれば、垂拱して永く逸すと。之を壤を疏するに方べ、類を

川を導くに取る。伏して惟るに陛下道

旒纒に隠れ、信符爾に充ひ、六飛塵を同うし、五讓世に高し。白駒空

谷、振鷺庭に在り。猶ほ鱗を卜祝に

隠し、器を屠保に藏すを懼れ、關下

【一】蕭揚州。齊の始安王蕭遙光、揚州刺史たり、建武の初

【二】符璽。印なり。

【三】六飛。漢書に「爰盎文帝に謂つて曰く、陛下六飛を聘せて不測に馳す」とあり。

【四】五讓。漢書に「爰盎文帝に謂つて曰く、夫れ許由は一讓し陛下は五たが天下を以て讓る」とあり。

【五】白駒。詩經の篇の名「皎皎たる白駒、彼の空谷に在り」とあり。賢人皆出で仕へて谷空しとの意。

【六】振鷺。詩經の篇の名。振鷺子に飛ぶ、彼の西離に」とあり。

【七】關下。列仙傳に「關令尹喜、内老子を學ぶ、西遊して先づ其氣を見、真人の過ぐべきを知り、物色して之を遮る。果して老子を得たり」とあり。

に物色し、河上に委裘す。製を一狐に取るにあらず、諒に味を兼采に求む。而して五聲響に倦み、九工に是れ詢り、議を廟堂に寢め、聽を輿阜に借る。臣は位任隆重、義家邦を兼ぬ。實に名實違はず、徼倖路絶えしめんと欲す。勢門の上品は猶ほ當に格ぐるに清談を以てすべし。英俊の下僚は限るに位貌を以てすべからず。

【大意】賢人を求めて暫く勞すと雖も、一たび得て之に任ずれば、君主は衣を垂れ手を拱きて、永く逸樂するを得。故に之を壤を疏し川を導くに譬ふ。蓋し川を導けば溺るる者安く、賢に任ずれば亂るる者治まればなり。伏して惟るに陛下道潜隠して、老子に大象は形なく、道隠れて名なしとあり。信印符の如く、漢の文帝と塵迹を同うす。今や賢人出で仕へ、潔士朝に滿つと雖も、猶ほ隱遁の傑士あらんことを懼れ、天下に物色して之を登庸す。夫れ國を爲む

【一】河上。神仙傳に「河上公常に老子道徳經を讀む、漢の文帝駕從して之に詣る」とあり。委裘は賢者を用ふること。

【二】一狐。王褒の講徳論に「千金の裘は一狐の腋にあらず」とあり。

【三】兼采。張璠の易注序に「蜜蜂は兼采を以て味をなす」とあり。

【四】五聲。騫子に「昔大禹天下を治むるに五聲を以て治を聽く」とあり。

【五】輿阜。神農傳に「輿阜に借る」とあり。

【六】廟堂。貴臣に喩ふ。

【七】輿阜。賤士をいふ。

【八】家邦。家邦を兼ぬ。始安王は皇族なり、故に國と家を同うすとなり。

【九】徼倖。實材なくして高位に登ること。

【一〇】勢門。權勢家。



るには衆賢の力に頼らざるべからず。故に卿相の議を終れば、更に微賤の言を聴き、以て國事を決す。臣は位隆く任重く、且つ國家と家を同うす。因つて任する所の者皆實材を取り、微倖にして榮進する者なからしめんと欲す。是れ臣の陛下に忠なる所以なり。權勢の家清談ある者は、宜しく之を登庸すべし。英俊の下僚に沈淪する者、豈位卑く貌陋なるを以て用ひざるべけんや。竊に見るに祕書丞、琅邪の臣王暕、年二十一、字は思晦、七葉光を重ね、海内の冠冕なり。神清み氣茂にして允に中和を迪む。叔實理遣の談、彦輔名教の樂あり。故に以て先達に暉映し、後進に領袖たり。居に塵雜なく、家に賜書あり。辭賦清新にして屬言玄遠なり。室邇く人曠く、物疎に道親し。素を丘園に養へば、台階位を虚うす。庠序公朝、萬夫望を傾く。豈徒荀令思ふべく、李公亡びざるのみならんや。

【三】 琅邪。郡名。  
【四】 七葉。七世なり。  
【五】 叔實。晉の衛玠、字は叔實、好んで玄理を言ふ、常に謂へらく、人及ばざるあれば情を以て恕すべし、悲意相干さば理を以て遣るべしと、故に終身喜愠の色を見ず。  
【六】 玄輔。世説に「胡毋彦國、放任を以て達となし、或は衣を去りて裸體す。樂廣曰く、名教の中自ら樂地あり、何爲れぞ乃ち爾ると」とあり。彦輔は彦國なり。

【七】 先達。先進先輩なり。  
【八】 素。朴なり。  
【九】 台階。三公なり。  
【一〇】 庠序。學宮なり。  
【一一】 荀令。荀頤は魏の太尉或の第六子なり、黃初の末、中郎に除せらる、晉の高祖頤を見て之を異として曰く、頤令は君の子なり、近ごろ袁侃を見る、亦曜卿の子なり、皆父の風あり。  
【一二】 李公。後漢書に「李固は司徒節の子なり、少くして學を好む、四方の士多く其風を慕ひて來り學ぶ、京師皆歎じて曰く、是れ復た李公となす」とあり。

【大意】 臣竊に見るに琅邪の王暕は七世冠冕(高官となりしことを絶たず、海内の推尊する所なり。神情俊茂にして中和の道を行ひ、よく理を以て心を遣り、名教を以て樂となす。故に光輝先進にまさり、又よく後進の儀表たり。門に雜賓なく家に賜書あり。文辭亦清新玄遠にして道に親み物を疎んず。此人退いて田園に在れば、三公たるべき人を缺き、學宮公朝に立てば、人皆之を欽慕す。實に父祖の徳を繼ぐ者と謂ふべし。前の晋安郡候官の令、東海の王僧孺、年三十五、理尚棲約、思致恬敏なり。既に筆耕して養となし、亦備書して學を成す。乃ち螢を集め雪に映じ、蒲を編み、柳を緝むるに至り、先言往行、人物雅俗、甘泉の遺儀、南宮の故事、地に畫いて圖を成し、掌を抵ちて述べべし。豈直鼯鼠必對の辯あり、

【三】 理尚。意趣なり。  
【四】 恬敏。靜達なり。  
【五】 備書。人に雇れて書寫すること。  
【六】 蒲を編む。漢書に「路溫舒、澤中の蒲を取り、截りて牒となし編みて以て書を寫す」とあり。  
【七】 柳を緝む。楚國先賢傳に「孫敬、洛に至り太學の左右に在り、一小屋に母を安止し、然る後入りて學ぶ、楊柳の簡を編みて以て經となす」とあり。  
【八】 甘泉。宮の名、天子出づる時、車駕の次第之を函簿と

いふ、時に出てて天を甘泉に祀るに之を用ふ、名づけて甘泉函簿といふ。  
【九】 南宮。後漢書に「鄭弘尚書令となる、弘前後陳ぶる所皆王政を補益する者なり、之を南宮に著して以て故事となす」とあり。



竹書落簡の謬なり

きのみならんや。陳は坐して雅俗を鎮め、弘益已に多く、僧孺は訪對休せず、

質疑斯に在り。竝に東序の祕寶、瑚璉の茂器なり、誠に言は人を以て廢するも、才は實に世の資

なり。表に臨んで、悚戦するも、猶ほ懼らくは未だ允されざらんことを。下情に任へず。

【大意】 東海の王僧孺は意を儉約に棲め、思致靜達にして、刻苦して研學す。故に古今の言行雅俗より故事來歴に至るまで、盡く精通せざるはなし。陳は坐して俗に益あること多く、僧孺は應對質疑の美あり。此二人は共に國家の重器なり。言は人を以て廢すべきも、實材は世の資用となすに足る。今此二人を薦めんとし、表を奉るに際し、恐懼して其の或は裁可せられざらんことを懼る。

褚諮議秦の爲に、兄に代りて封を襲ぐを讓る表 任彦昇

臣秦言す。昨司徒 褚諮議秦。諮議は官名、秦は南康郡公褚淵の嫡子なり、少くして外に出づ、庶兄

の符を被る。詔旨を仰稱するに、臣が兄

賁の請ふ所を許し、臣を以て南康郡公を襲封せしむ。臣門籍勳蔭をもて光に 土宇を錫ふ。臣賁は世載家を承け、允に長徳に膺る。而も深く 止足を鑒み、千乗を脱履す。遂に乃ち達く推恩を認り、

近く庸薄に萃る。能く國を以て讓る。弘義歸するあり。匹夫も奪ひ難し。守るに貳なきを以てす。

昔武始家臣の策に迫られ、陵陽鮑生の言に感ず。張は誠を以て請ひ、丁は理の爲に屈す。且つ先臣太宗緒を絶つを以て、臣に命じて出でて傍統を纂がしむ。在昔に稟承

表る讓をぐ襲を封てり代に兄

は理の爲に屈す。且つ先臣太宗緒を絶つを以て、臣に命じて出でて傍統を纂がしむ。在昔に稟承

【一】 麤鼠。三輔決錄に「光武帝鼠を得たり、豹の文の如し、光武之を異み以て羣臣に問ふ、能く知る者なし、竇攸對へて曰く麤鼠なりと、詔して問ふ、何を以てか知ると、攸曰く爾雅に見ゆと、詔して祕書を按ぜしむるに攸が言の如し」とあり。

【二】 竹書。張臨の文士傳に「人嵩山の下にて簡一枚を得し者あり、兩行科斗の書なり、人能く識るなし、司空張華以て其書に問ふ、誓曰く此れ明帝の顯節陵中の策文なりと、之を驗するに果して然り」とあり。

【三】 東序。學宮なり。

【四】 瑚璉。宗廟の器。

【五】 悚戦。恐懼なり。

【一】 門籍勳蔭。門地及び祖先の餘澤。

【二】 土宇。領土なり。

【三】 世載。國語に「世を奕ぎて徳を載す」とあり。載は成なり。

【四】 止足。老子に「止まるを知れば殆からず、足るを知らば辱められず」とあり。

【五】 千乗。封土なり。脱履は履を脱ぎ棄つるが如く棄つること。

【六】 匹夫。論語に「匹夫も志を奪ふべからず」とあり。

【七】 武始。東觀漢記に「張純字は伯仁、武始侯に封ぜらる子奮の兄常に病を被る、純病困の時家丞翁を勅む、爵嗣に傳ふべからずと、純薨す翁上書して奮をして襲封せしめんことを乞ふ、奮上書して曰く、兄根病衰せず、今翁臣を移す云云」となり。

【八】 陵陽。東觀漢記に「丁綝字は季公、位を弟盛に讓りて逃れ去る、鴻初め鮑駿と友とし善し、駿曰く、今子兄弟の私恩を以て父が不滅の基を絶つは智といふべけんやと、鴻感悟し還りて國に就く」とあり。

【九】 先臣。亡父をいふ。大宗は伯父の宗をいふ。



し理 終天に絶ゆ。永く情事を惟ひ、觸目崩隕す。若し賁をして 延陵の風を高うし、臣をして  
子臧の節を忘れしめば、是れ徳學を廢するなり。豈能く賢なりといはんや。陛下その 丹款を察し、  
特に停絶を賜へ。然らずんば身を草澤に投じ、苟も愚誠を遂げんのみ。丹慊の至に任へず。謹ん  
で闕に詣り、拜表して以聞す。臣誠惶誠恐。

【大意】 臣昨日司徒の符章を受く。詔書を拜  
誦するに、臣が兄賁の願を許し、臣をして襲  
封せしめんとす。賁は世を奕ぎて徳を成し、且  
つ年長なり。宜しく家を繼ぐべきなり。然る  
に止足の 鑒ありて其封土を棄つ。是れ謬り  
て陛下の恩を愚臣に推すものなり。賁たとひ  
義を以て讓るも、臣は匹夫の志を執りて心を變へず。兄賁よろしく丁綝が理に屈して封を襲ぎし  
に倣ふべきなり。且つ亡父は伯父の宗の絶えんとするを以て、臣に命じて其統を繼がしむ。若し臣  
にして兄賁の讓を受けなば、是れ亡父の徳を擧げしを廢するなり。豈賢といふべけんや。願くは陛  
下臣の赤誠を察し、封を襲がざらしめよ。然らずんば臣自ら草澤に投竄し、以て己が志を遂げん

【三】終天。父の死をいふ。  
【四】延陵。吳の季札をいふ。  
左傳に「吳子諸樊既に喪を除  
き、將に季札を立てんとす、  
對へて曰く、曹の宣公の卒す  
るや、諸侯と曹人と曹君を不  
義とし、將に子臧を立てんと  
す、子臧之を去り遂に爲らず

以て曹君を成せり、君子曰く、  
能く節を守れり、君は義嗣な  
り、誰か敢て君を好さんと、  
國を有つは吾が節にあらざる  
なり、札不才と雖も願くは子  
臧の節に附かんと」とあり。  
【五】丹款。赤誠なり。  
【六】丹慊。熱誠なる謙讓。

のみ。

范始興の爲に作り、太宰の碑を立てん  
ことを求むる表

任彦昇

臣雲言す。夫の存しては 風猷を樹て、没しては 徽烈を著すを原ぬるに、既に故老の口に絶ゆれば、  
必ず 不刊の書に資る。而して諸を名山に藏すれば、則ち陵谷 遷貿し、之を 延閣に府すれば、則ち  
青編簡を落す。然らば則ち 天に配する 良、太宰を贈らる。  
の迹、泗水の上に存 風猷。風教道徳なり。  
し、素王の道沂川 徽烈。美業なり。  
の側に紀す。是に 不刊。不滅といふが如  
由りて師を崇ぶの 遷貿。移易なり。  
義、迹を 西河に擬 延閣。藏書の庫の名。府  
し、主を尊ぶの情、之を 堯禹に致す。故に 精慮妄に啓けば、必ず 鐫勒の盛を窮め、一城に

【一】范始興。范雲なり。  
【二】太宰。齊の竟陵文宣王子  
良、太宰を贈らる。  
【三】風猷。風教道徳なり。  
【四】徽烈。美業なり。  
【五】不刊。不滅といふが如  
し。

は藏なり。  
【八】天に配す。漢の高祖の事  
迹をいふ。水經注に「泗水の  
南に泗水亭あり、漢の高祖の  
廟前に碑あり云云」とあり。  
【九】素王。孔子をいふ。沂水  
の南に孔子の舊廟あり。  
【一〇】西河。子夏孔子に洙泗の  
間に事へ、退いて西河に居る

西河の人皆之を疑ひて以て孔  
子となす。  
【一】堯禹。伊尹其主を尊び、  
其主の堯舜の如くならざるを  
恥づ。  
【二】精慮。寺觀をいふ。  
【三】鐫勒。碑に刻すること。



君長たるも亦刊刻の美を盡す。況んや 周召を甄陶し 伊顔を孕育するをや。

【大意】 生きて道徳風教の美を樹て、死して偉業を著す者は、故老の口碑に傳はり、口碑既に絶ゆれば又書史に頼りて傳はる。然れども書を著して名山に藏すれば山谷移易し、之を書庫に藏すれば編簡殘毀す。碑を立てるの長久なるに如かざるなり。故に漢高の業、孔子の道、皆碑を以て傳はる。是を以て寺觀を開ける、牧宰（地方官）の美なる、猶ほ且つ碑を建てて其功を録す。況んや竟陵王の如き、周召の化、伊顔の徳あるをや。

【四】 周召。周公且、召公爽、共に周の成王の叔父にして王室の功臣なり。甄陶は作成すること。  
【五】 伊顔。伊尹及び顔回。

故の太宰竟陵文宣王臣某、存を與にし亡を與にするは、則ち義社稷に形れ、天に嚴し帝に配するは則ち周公其人なり。國を體し朝を端し、出でては藩たり入りては守たり。進んでは必告の道を思ひ、退いては苟利の專なし。五教以て倫し、百揆時れ序づ。若し夫れ一言一行は盛徳の風、琴書藝業は述作の茂、道兼濟にあらず、事樂善に止る。亦得て稱するなし。人の

【一】 存を與にし。漢書に「社稷の臣は主存すれば存を與にし、主亡すれば亡を與にす」とあり。  
【二】 天に嚴す。孝經に「孝は父を嚴にするより大なるはなし、父を嚴にするは天に配するより大なるはなし、則ち周公其人なり」とあり。  
【三】 五教。五倫なり、孟子の「父子親あり、君臣義あり、夫婦別あり、長幼序あり、朋友信あり」是れなり。倫は脩まること。  
【四】 百揆。庶政なり。

云に亡する、忽ち歳序を移す。 鳴鶴東に徙り、松檟行を成す。 六府の臣僚、三藩の士女、人々、油素を蓄へ、家々、鉛筆を懷き、彼の 景山を瞻て、徒然として望慕す。 【大意】 故の文宣王子良は、所謂社稷の臣にして、主を尊び天に配するは、周公と功を同うす。

出でては刺史となり、入りては司徒となり、進んでは君に告ぐるに美道を以てし、退いては利を苟もして事を專にせず。故に五教よく脩まり庶政次序あり。若し夫れ言行の美、道藝の美に至りては、得て稱するなし。今や既に死して久しきを經たるも、藩府の吏民皆素筆を懷きて其墓を望み、思慕して碑を立てんことを欲す。

昔晉氏の初、碑を立てるを禁ず。魏舒の亡せしとき、亦班列に従ふ。而して 阮略既に涙ぶ。故に首めて 嚴科を冒す。之を爲る者竟に刑戮を免れ、之を置く者反つて嘉歎を蒙る。道 如仁

【一〇】 鳴鶴。詩經の篇の名、周の成王未だ周公の志を知らず、乃ち詩を作りて以て王に遺る、名づけて鳴鶴といふ。  
【一一】 松檟。墓上の木なり。  
【一二】 六府。子良、輔國將軍、征虜將軍、竟陵王、鎮北將軍、征北將軍、護軍將軍となる、是を六府といふ。  
【一三】 三藩。子良、會稽太守、南徐州刺史、南交州刺史たり、是を三藩といふ。  
【一四】 油素。白絹なり。文を書するに用ふ。  
【一五】 鉛筆。粉筆なり。  
【一六】 景山。高山なり。子良の墓をいふ。  
【一七】 阮略。字は德規。  
【一八】 嚴科。嚴罰なり。  
【一九】 如仁。孔子管仲を評して曰く「其仁に如かんや、其仁



に被<sup>お</sup>び功<sup>こう</sup> 微<sup>び</sup>管<sup>くわん</sup>に參<sup>まじ</sup>るに至<sup>いた</sup>りては、本<sup>もと</sup>より宜<sup>よろ</sup>しく  
常<sup>じょう</sup>均<sup>ぐん</sup>の外<sup>ほか</sup>に在<sup>あ</sup>るべし。故<sup>もと</sup>の太<sup>たい</sup>宰<sup>さい</sup>淵<sup>えん</sup>、丞<sup>じょう</sup>相<sup>しやう</sup>  
嶷<sup>ぎやく</sup>、親<sup>しん</sup>賢<sup>けん</sup>軌<sup>くわい</sup>を竝<sup>なら</sup>べ、即<sup>すなは</sup>ち成<sup>せい</sup>規<sup>き</sup>を爲<sup>な</sup>す。乞<sup>こ</sup>ふ二<sup>に</sup>公<sup>こう</sup>  
の前<sup>ぜん</sup>例<sup>れい</sup>に依<sup>よ</sup>り 刊<sup>かん</sup>立<sup>りつ</sup>を許<sup>ゆる</sup>すを賜<sup>たま</sup>へ。寧<sup>むし</sup>ろ長<sup>なが</sup>く  
九<sup>きゅう</sup>原<sup>げん</sup>を想<sup>おも</sup>ひ、樵<sup>せう</sup>蘇<sup>そ</sup>其<sup>その</sup>禁<sup>きん</sup>を識<sup>し</sup>るなく、蹕<sup>ひつ</sup>を  
長<sup>ちやう</sup>陵<sup>りやう</sup>に駐<sup>とど</sup>めて 輶<sup>い</sup>軒<sup>けん</sup>適<sup>とく</sup>く所<sup>ところ</sup>を知らざらし  
む容<sup>べ</sup>げんや。

【大意】昔<sup>むかし</sup>晉<sup>しん</sup>の初<sup>はじ</sup>め、碑<sup>ひ</sup>を立<sup>た</sup>つることを禁<sup>きん</sup>す。司<sup>し</sup>徒<sup>と</sup>魏<sup>ぎ</sup>舒<sup>じよ</sup>の死<sup>し</sup>せし時<sup>とき</sup>、固<sup>もと</sup>より禁<sup>きん</sup>制<sup>せい</sup>に由<sup>よ</sup>りて碑<sup>ひ</sup>を立<sup>た</sup>つ  
る能<sup>あた</sup>はず。其<sup>その</sup>後<sup>のち</sup>阮<sup>げん</sup>略<sup>りやく</sup>の死<sup>し</sup>するや、人<sup>ひと</sup>略<sup>りやく</sup>を思<sup>おも</sup>ひて已<sup>や</sup>まず。遂<sup>つひ</sup>に禁<sup>きん</sup>を冒<sup>をか</sup>して碑<sup>ひ</sup>を立<sup>た</sup>て、闕<sup>けつ</sup>に詣<sup>いた</sup>りて罪<sup>つみ</sup>を  
待<sup>まち</sup>つ。朝<sup>てう</sup>廷<sup>てい</sup>之<sup>これ</sup>を聞<sup>き</sup>き文<sup>ぶん</sup>を爲<sup>つく</sup>りし者<sup>もの</sup>及<sup>およ</sup>び之<sup>これ</sup>を立<sup>た</sup>てし者<sup>もの</sup>を歎<sup>たん</sup>稱<sup>しやう</sup>せり。管<sup>くわん</sup>仲<sup>ちゆう</sup>の如<sup>ごと</sup>き大<sup>たい</sup>功<sup>こう</sup>あらば、宜<sup>よろ</sup>しく  
常<sup>じやう</sup>法<sup>ぽう</sup>の外<sup>ほか</sup>に置<sup>お</sup>くべきなり。是<sup>こ</sup>を以<sup>もつ</sup>て故<sup>もと</sup>の太<sup>たい</sup>宰<sup>さい</sup>褚<sup>ちよ</sup>淵<sup>えん</sup>、文<sup>ぶん</sup>獻<sup>けん</sup>王<sup>わう</sup>嶷<sup>ぎやく</sup>、皆<sup>みな</sup>碑<sup>ひ</sup>あり。今<sup>いま</sup>竟<sup>きやう</sup>陵<sup>りやう</sup>王<sup>わう</sup>の賢<sup>けん</sup>は褚<sup>ちよ</sup>と迹<sup>あと</sup>  
を同<sup>おな</sup>じし、親<sup>しん</sup>は嶷<sup>ぎやく</sup>と規<sup>き</sup>を同<sup>おな</sup>じす。願<sup>ねが</sup>は碑<sup>ひ</sup>を立<sup>た</sup>て以<sup>もつ</sup>て二<sup>に</sup>公<sup>こう</sup>の例<sup>れい</sup>に依<sup>よ</sup>らんことを。寧<sup>むし</sup>ろ民<sup>たみ</sup>をして空<sup>あ</sup>し  
く其<sup>その</sup>墓<sup>ぼ</sup>を長<sup>ちやう</sup>望<sup>ぼう</sup>せしめ、採<sup>さい</sup>樵<sup>しやう</sup>者<sup>しや</sup>をして禁<sup>きん</sup>を知らざらしめ、陛<sup>へい</sup>下<sup>か</sup>駕<sup>が</sup>を駐<sup>とど</sup>めて長<sup>ちやう</sup>陵<sup>りやう</sup>を望<sup>のぞ</sup>む時<sup>とき</sup>、觀<sup>み</sup>て感<sup>かん</sup>を  
起<sup>おこ</sup>すべき碑<sup>ひ</sup>なからしむべけんや。

に如<sup>ごと</sup>かんや」と。  
【一】 微<sup>び</sup>管<sup>くわん</sup>。論<sup>ろん</sup>語<sup>ご</sup>に「管<sup>くわん</sup>仲<sup>ちゆう</sup>微<sup>び</sup>り  
せば、吾<sup>われ</sup>れ其<sup>その</sup>被<sup>お</sup>髪<sup>はつ</sup>左<sup>さ</sup>衽<sup>せい</sup>せん」とあり。  
【二】 常<sup>じょう</sup>均<sup>ぐん</sup>。常<sup>じょう</sup>法<sup>ぽう</sup>なり。  
【三】 刊<sup>かん</sup>立<sup>りつ</sup>。碑<sup>ひ</sup>を刻<sup>く</sup>して立<sup>た</sup>つる  
こと。  
【四】 九<sup>きゅう</sup>原<sup>げん</sup>。墓<sup>ぼ</sup>をいふ。  
【五】 輶<sup>い</sup>軒<sup>けん</sup>。草<sup>くさ</sup>を刈<sup>かり</sup>薪<sup>しん</sup>を採<sup>と</sup>る  
者<sup>もの</sup>。柳<sup>りゆう</sup>下<sup>か</sup>惠<sup>ゑ</sup>の墓<sup>ぼ</sup>五十<sup>じゅう</sup>步<sup>ぽ</sup>、採<sup>と</sup>樵<sup>しやう</sup>  
を禁<sup>きん</sup>す。  
【六】 長<sup>ちやう</sup>陵<sup>りやう</sup>。漢<sup>わん</sup>の高<sup>こう</sup>祖<sup>そ</sup>の墓<sup>ぼ</sup>。和  
帝<sup>わてい</sup>詔<sup>しよ</sup>して曰<sup>いは</sup>く、高<sup>こう</sup>祖<sup>そ</sup>の功<sup>こう</sup>臣<sup>しん</sup>蕭<sup>せう</sup>  
曹<sup>せう</sup>を首<sup>しゆ</sup>となす、朕<sup>ちん</sup>長<sup>ちやう</sup>陵<sup>りやう</sup>の東<sup>とう</sup>門<sup>もん</sup>  
を望<sup>のぞ</sup>み、二<sup>に</sup>臣<sup>しん</sup>の隴<sup>りゆう</sup>を見<sup>み</sup>て感<sup>かん</sup>あ  
り」と。  
【七】 輶<sup>い</sup>軒<sup>けん</sup>。輕<sup>けい</sup>車<sup>しや</sup>なり。

二<sup>に</sup>は里<sup>り</sup>閭<sup>りや</sup>の孤<sup>こ</sup>賤<sup>せん</sup>なり、才<sup>さい</sup>の甄<sup>ちん</sup>すべきなし。齊<sup>せい</sup>  
網<sup>もう</sup>の弘<sup>ひろ</sup>きに値<sup>あ</sup>ひ賓<sup>ひん</sup>客<sup>かく</sup>の禁<sup>きん</sup>を弛<sup>ゆる</sup>められ、名<sup>な</sup>を策<sup>さく</sup>し  
質<sup>しつ</sup>を委<sup>いた</sup>ね、忽<sup>こつ</sup>焉<sup>えん</sup>として 二<sup>に</sup>紀<sup>き</sup>なり。犬<sup>いん</sup>馬<sup>ま</sup>  
に先<sup>ま</sup>ちて厚<sup>こう</sup>恩<sup>おん</sup>の答<sup>た</sup>へざるを慮<sup>おもん</sup>はか。而<sup>しか</sup>に 弊<sup>へい</sup>  
帷<sup>ゐ</sup>蓋<sup>がい</sup>、未<sup>いま</sup>だ 螻<sup>ろう</sup>蟻<sup>ぎ</sup>に辱<sup>しと</sup>せず。珠<sup>しゆ</sup>襦<sup>じゆ</sup>玉<sup>ぎよく</sup>匣<sup>かふ</sup>  
遷<sup>には</sup>か 幽<sup>いゆう</sup>泉<sup>せん</sup>を飾<sup>か</sup>す。陛<sup>へい</sup>下<sup>か</sup>弘<sup>ひろ</sup>く名<sup>な</sup>教<sup>きやう</sup>を奨<sup>す</sup>め、微<sup>ゑい</sup>  
物<sup>ぶつ</sup>を隔<sup>へだ</sup>てず。臣<sup>しん</sup>をして駿<sup>と</sup>く 南<sup>なん</sup>浦<sup>ぼ</sup>に奔<sup>は</sup>り、長<sup>なが</sup>く  
北<sup>ほく</sup>陵<sup>りやう</sup>に號<sup>な</sup>くを得<sup>え</sup>しむ。既<sup>すで</sup>に曲<sup>ま</sup>げて 前<sup>ぜん</sup>施<sup>し</sup>に  
逢<sup>あ</sup>ひ、實<sup>じつ</sup>に仰<sup>あや</sup>いで 後<sup>こう</sup>澤<sup>たく</sup>を覬<sup>こひ</sup>ふ。儻<sup>も</sup>しくは 馬<sup>ば</sup>  
杜<sup>と</sup>預<sup>よ</sup>山<sup>さん</sup>頂<sup>てい</sup>の言<sup>げん</sup>を驗<sup>けん</sup>し、庶<sup>しよ</sup>はくは 馬<sup>ば</sup>駿<sup>しん</sup>必<sup>ひつ</sup>拜<sup>はい</sup>の  
感<sup>かん</sup>を存<sup>ぞん</sup>せんことを。表<sup>へう</sup>に臨<sup>のぞ</sup>んで悲<sup>ひ</sup>懼<sup>く</sup>し、言<sup>げん</sup>自<sup>じ</sup>ら  
宣<sup>の</sup>べず。

【一】 齊<sup>せい</sup>。齊<sup>せい</sup>の法<sup>ぽう</sup>網<sup>もう</sup>。  
【二】 質<sup>しつ</sup>を委<sup>いた</sup>ね。身<sup>み</sup>を捧<sup>た</sup>げて仕  
ふること。  
【三】 二<sup>に</sup>紀<sup>き</sup>。十<sup>じゅう</sup>二<sup>に</sup>年<sup>ねん</sup>を一<sup>いつ</sup>紀<sup>き</sup>とな  
す。  
【四】 犬<sup>いん</sup>馬<sup>ま</sup>に先<sup>ま</sup>ち。列<sup>れつ</sup>女<sup>にょ</sup>傳<sup>でん</sup>に「梁  
寡<sup>くわ</sup>高<sup>こう</sup>行<sup>かう</sup>曰<sup>いは</sup>く、妾<sup>せつ</sup>の夫<sup>ふ</sup>不<sup>ふ</sup>幸<sup>しやう</sup>にし  
て早<sup>はや</sup>く死<sup>し</sup>し、犬<sup>いん</sup>馬<sup>ま</sup>に先<sup>ま</sup>ちて溝  
壑<sup>こく</sup>に填<sup>み</sup>つ」とあり。  
【五】 弊<sup>へい</sup>帷<sup>ゐ</sup>。破<sup>やぶ</sup>れたる帳<sup>ちやう</sup>。禮<sup>れい</sup>記<sup>き</sup>  
に「弊<sup>へい</sup>帷<sup>ゐ</sup>は棄<sup>す</sup>てず、馬<sup>ば</sup>を埋<sup>う</sup>むる  
が爲<sup>ため</sup>なり、弊<sup>へい</sup>蓋<sup>がい</sup>は棄<sup>す</sup>てず、狗<sup>いぬ</sup>  
を埋<sup>う</sup>むるが爲<sup>ため</sup>なり」とあり。  
【六】 螻<sup>ろう</sup>蟻<sup>ぎ</sup>。蟲<sup>むし</sup>の名<sup>な</sup>。延<sup>えん</sup>叔<sup>しゆく</sup>堅<sup>けん</sup>の  
戰<sup>せん</sup>國<sup>こく</sup>策<sup>さく</sup>論<sup>ろん</sup>に「王<sup>わう</sup>の爲<sup>ため</sup>に先<sup>ま</sup>づ以<sup>もつ</sup>  
て黃<sup>わう</sup>泉<sup>せん</sup>に填<sup>み</sup>し、王<sup>わう</sup>の爲<sup>ため</sup>に辱<sup>しと</sup>  
なり、以<sup>もつ</sup>て螻<sup>ろう</sup>蟻<sup>ぎ</sup>を禦<sup>ご</sup>かん」と  
あり。  
【七】 珠<sup>しゆ</sup>襦<sup>じゆ</sup>玉<sup>ぎよく</sup>匣<sup>かふ</sup>。西<sup>せい</sup>京<sup>きやう</sup>雜<sup>ざつ</sup>記<sup>き</sup>に「漢  
帝<sup>わんてい</sup>及<sup>およ</sup>び諸<sup>しよ</sup>侯<sup>こう</sup>王<sup>わう</sup>の死<sup>し</sup>を送<sup>おく</sup>る、皆<sup>みな</sup>  
あり。  
【八】 馬<sup>ば</sup>駿<sup>しん</sup>。扶<sup>ふ</sup>風<sup>ふう</sup>王<sup>わう</sup>司<sup>し</sup>馬<sup>ば</sup>駿<sup>しん</sup>は晉<sup>しん</sup>  
者<sup>もの</sup>。柳<sup>りゆう</sup>下<sup>か</sup>惠<sup>ゑ</sup>の墓<sup>ぼ</sup>五十<sup>じゅう</sup>步<sup>ぽ</sup>、採<sup>と</sup>樵<sup>しやう</sup>  
を禁<sup>きん</sup>す。  
【九】 長<sup>ちやう</sup>陵<sup>りやう</sup>。漢<sup>わん</sup>の高<sup>こう</sup>祖<sup>そ</sup>の墓<sup>ぼ</sup>。和  
帝<sup>わてい</sup>詔<sup>しよ</sup>して曰<sup>いは</sup>く、高<sup>こう</sup>祖<sup>そ</sup>の功<sup>こう</sup>臣<sup>しん</sup>蕭<sup>せう</sup>  
曹<sup>せう</sup>を首<sup>しゆ</sup>となす、朕<sup>ちん</sup>長<sup>ちやう</sup>陵<sup>りやう</sup>の東<sup>とう</sup>門<sup>もん</sup>  
を望<sup>のぞ</sup>み、二<sup>に</sup>臣<sup>しん</sup>の隴<sup>りゆう</sup>を見<sup>み</sup>て感<sup>かん</sup>あ  
り」と。  
【十】 輶<sup>い</sup>軒<sup>けん</sup>。輕<sup>けい</sup>車<sup>しや</sup>なり。



竟陵王の門に遊ぶを許され、身を委ねて之に事ふること二十四年なり。常に先づ死して王の恩に報ゆる能はざらんことを恐る。焉んぞ知らん我未だ螻蟻の辱とならざるに、王已に黄泉に入らんとは。陛下名教を奨め、臣の心を蔽はず、臣をして王の喪を送迎せるを許し給ふ。願くは又碑を立てるを許し給はんことを。表を奉るに臨み、悲懼して言ふ所を知らず。

の宣帝の第七子なり、民吏碑を樹て徳範を讃述す、長老

の碑を見る者之を拜せざるはなし。

國譯文選中卷終

文選卷十

賦癸情

高唐賦并序

宋玉

昔者楚襄王與宋玉游於雲夢之臺望高唐之觀其上獨有雲氣惝兮直上忽兮改容須臾之間變化無窮王問玉曰此何氣也玉對曰所謂朝雲者也王曰何謂朝雲玉曰昔者先王嘗游高唐怠而晝寢夢見一婦人曰妾巫山之女也為高唐之客聞君游高唐願薦枕席王因幸之去而辭曰妾在巫山之陽高丘之岨且為朝雲暮為行雨朝朝暮暮陽臺之下且朝視之如言故為立廟號曰朝雲王曰朝雲始出狀若何也玉對曰其始出也暉兮若松檜其少進也晰兮若姣姬揚袂

於天下見於淵珍怪奇偉不可稱論王曰試為寡人賦之玉曰唯唯惟高唐之大體兮殊無物類之可儀比巫山赫其無疇兮道互折而會累登巉巖而下望兮臨大隄之稽水遇天雨之新霽兮觀百谷之俱集溥洵其無聲兮潰淡淡而竝入滂洋洋而四施兮翦湛湛而不止長風至而波起兮若麗山之孤畝勢薄岸而相擊兮隘交引而却會惝中怒而特高兮若浮海而望碣石礫礫而相摩兮嶸震天之礚礚巨石溺溺之瀼瀼兮沫潼潼而高厲水澹澹而盤紆兮洪波淫淫之溶溶奔揚踊而相擊兮雲興聲之霈霈猛獸驚而跳駭兮妄奔走而



馳邁。虎豹豺兕。失氣恐喙。鵬鷲鷹鶴。飛揚伏竄。股戰脅息。安敢妄摯。於是水蟲盡暴。乘渚之陽。龜鼉鱣鮪。交積縱橫。振鱗奮翼。蜷蜷蜿蜿。中阪遙望。玄木冬榮。煌煌熒熒。奪人目精。爛兮若列星。曾不可殫形。榛林鬱盛。葩華覆蓋。雙椅垂房。杓枝還會。徙靡澹淡。隨波闔藹。東西施翼。猗昵豐沛。綠葉紫裏。朱莖白蒂。纖條悲鳴。聲似竽籟。清濁相和。五變四會。感心動耳。迴腸傷氣。孤子寡婦。寒心酸鼻。長吏墮官。賢士失志。愁思無已。歎息垂淚。登高遠望。使人心瘁。盤岸攢岒。振陳磴磴。磐石險峻。傾崎崖隤。巖岬參差。縱橫相迫。陬互橫梧。背穴偃蹠。交加累積。重疊增益。狀似砥柱。在巫山之下。仰視山巔。肅何芊芊。炫耀虹蜺。俯視峭嶸。窈窕窈窕。不見其底。虛聞松聲。傾岸洋洋。立而熊經。久而不去。足盡汗出。悠悠忽忽。惛惛自失。使人心動。無故自恐。賁育之斷。不能為勇。卒愕異物。不知所出。縱縱莘莘。若生於鬼。若出於神。狀似走獸。或象飛禽。譎詭奇偉。不可究陳。上至觀側。地蓋底平。箕踵漫衍。芳草羅生。秋蘭芷蕙。江蘼載菁。青荃射干。揭車苞并。薄草靡靡。聯延天天。越香掩掩。衆雀嗷嗷。雌雄相失。哀鳴相號。王睢鸕黃。正冥楚鳩。姊歸思婦。垂雞高巢。其鳴喈喈。當年遨遊。更唱迭和。赴曲隨流。有方之士。羨門高谿。上成鬱林。公樂聚穀。進純犧。禱璇室。醮諸神。禮太一。傳祝已具。言辭已畢。王乃乘玉輿。駟蒼螭。垂旒旒。旒旒合諧。絀大弦而雅聲流。洌風過而增悲哀。於是調謳。令人怵慄。惛惛脅息。增欷。於是乃縱獵者。基趾如星。傳言羽獵。銜枚無聲。弓弩不發。罟罟不顧。涉澹澹。馳莘莘。飛鳥未及起。走獸未及發。弭節奄忽。蹄足灑血。舉功先得。獲車已實。王將欲往見之。必先齋戒。差時擇日。簡與玄服。建雲旒。蜺為旌。翠為蓋。風起雨止。千里而逝。蓋發蒙往自會。思萬方。憂國害。開賢聖。輔不逮。九竅通鬱。精神察滯。延年益壽千萬歲。

神女賦并序

宋

玉

楚襄王與宋玉游於雲夢之浦。使玉賦高唐之事。其夜玉寢。夢與神女遇。其狀甚麗。玉異之。明日

以白王。王曰。其夢若何。玉對曰。晡夕之後。精神恍惚。若有所喜。紛紛擾擾。未知何意。目色粲粲。乍若有記。見一婦人。狀甚奇異。寐而夢之。寤不自識。罔兮不樂。悵爾失志。於是撫心定氣。復見所夢。曰。狀如何也。玉曰。茂矣美矣。諸好備矣。盛矣麗矣。難測究矣。上古既無。世所未見。瓌姿瑋態。不可勝讚。其始來也。耀乎若白日。初出照屋梁。其少進也。皎若明月。舒其光。須臾之間。美貌橫生。燁兮如花。溫乎如瑩。五色竝馳。不可殫形。詳而視之。奪人目精。其盛飾也。則羅織綺縠。盛文章。極服。悅薄裝。沐蘭澤。含芳性。和適。宜侍旁。順序卑。調心腸。王曰。若此盛矣。試為寡人賦之。玉曰。唯唯。夫何神女之姣麗兮。含陰陽之渥飾。被華藻之可好兮。若翡翠之奮翼。其象無雙。其美無極。毛嫱鄠袂。不足程式。西施掩面。比之無色。近之既妖。遠之有望。骨法多奇。應君之相。視之盈目。孰者克尚。私心獨悅。樂之無量。交希恩疎。不可盡暢。他人莫覩。玉覽其狀。其狀峩峩。何可極言。貌豐盈以莊姝兮。苞溫潤之玉顏。眸子炯其精朗兮。瞭多美而可觀。眉聯娟似蛾揚兮。朱唇的其若丹。素質幹之醴實兮。志解泰而體閑。既婉孌於幽靜兮。又婆娑乎人間。宜高殿以廣意兮。翼放縱而綽寬。動霧縠以徐步兮。拂墀聲之珊珊。望余帷而延視兮。若流波之將瀾。奮長袖以正衽兮。立躑躅而

來而復旋。襄余幃而請御兮。願盡心之倦倦。懷貞亮之潔清兮。卒與我乎相難。陳嘉辭而云對兮。吐芬芳其若蘭。精交接以來往兮。心凱康以樂歡。神獨亨而未結兮。魂煒煒以無端。含然諾其不分兮。喟揚音而哀歎。頽薄怒以自持兮。曾不可乎犯干。於是搖珮飾鳴玉鸞。整衣服。斂容顏。顧女師。命大傅。歡情未接。將辭而去。遷延引身。不可親附。似逝未行。中若相首。目略微盼。精彩相授。志態橫出。不可勝記。意離未絕。神心怖覆。禮不遑訖。辭不及究。願假須臾。神女稱遽。徊腸傷氣。顛倒失據。闐然而冥。忽不知處。情獨私懷。誰者可語。惆悵垂涕。求之至曙。



登徒子好色賦并序

宋玉

大夫登徒子侍於楚襄王。短宋玉曰。玉為人體貌閑麗。口多微辭。又性好色。願王勿與出入後宮。王以登徒子之言問於宋玉。玉曰。體貌閑麗。所受於天也。口多微辭。所學於師也。至於好色。臣無有也。王曰。子不好色。亦有說乎。有說則止。無說則退。玉曰。天下之佳人。莫若楚國。楚國之麗者。莫若臣里。臣里之美者。莫若臣東家之子。臣東家之子。增之一分則太長。減之一分則太短。著粉則太白。施朱則太赤。眉如翠羽。肌如白雪。腰如束素。齒如含貝。嫣然一笑。惑陽城。迷下蔡。然此女登牆闥。臣三年至今未許也。登徒子則不然。其妻蓬頭鬢耳。齟齬歷齒。旁行蠅儂。又疥且痔。登徒子悅之。使有五子。王熟察之。誰為好色者矣。是時秦章華大夫在側。因進而稱曰。今夫宋玉盛稱隣之女。以為美色。愚亂之邪。臣自以為守德。謂不如彼矣。且夫南楚窮巷之妾。焉足為大王言乎。若臣之陋目。所曾親者。未敢云也。王曰。試為寡人說之。大夫曰。唯唯。

臣少曾遠游。周覽九土。足歷五都。出咸陽。熙邯鄲。從容鄭衛。溱洧之間。是時向春之末。迎夏之陽。鷄鶩喙喙。羣女出桑。此郊之姝。華色含光。體美容冶。不待飾粧。臣觀其麗者。因稱詩曰。遵大路兮。攬子祛。贈以芳華。辭甚妙。於是處子悅。若有望而不來。忽若有來而不見。意密體疏。俯仰異觀。含喜微笑。竊視流眄。復稱詩曰。寤春風兮發鮮榮。絜齋俟兮惠音聲。贈我如此兮。不如無生。因遷延而辭避。蓋徒以微辭相感動。精神相依憑。目欲其顏。心願其義。揚詩守禮。終不過差。故足稱也。於是楚王稱善。宋玉遂不退。

洛神賦并序

曹子建

黃初三年。余朝京師。還濟洛川。古人有言。斯水之神。名曰宓妃。感宋玉對楚王說神女之事。遂作

斯賦其詞曰。

余從京師。言歸東藩。背伊闕。越轅轅。經通谷。陵景山。日既西傾。車殆馬煩。爾迺稅駕。乎衡臯。秣秣乎芝田。容與乎楊林。流眄乎洛川。於是精移神駭。忽焉思散。俯則未察。仰以殊觀。觀一麗人于巖之畔。爾迺援御者而告之曰。爾有覲於彼者乎。彼何人斯。若此之豔也。御者對曰。臣聞河洛之神。名曰宓妃。則君王之所見也。無迺是乎。其狀若何。臣願聞之。余告之曰。其形也。翩若驚鴻。婉若游龍。榮曜秋菊。華茂春松。鬋鬢兮若輕雲之蔽月。飄飄兮若流風之迴雪。遠而望之。皎若太陽升朝霞。迫而察之。灼若芙蕖出淥波。穠纖得中。脩短合度。肩若削成。腰如約素。延頸秀項。皓質呈露。芳澤無加。鉛華不御。雲鬢峨峨。脩眉聯娟。丹脣外朗。皓齒內鮮。明眸善睐。靨輔承權。環姿豔逸。儀靜體閑。柔情綽態。媚於語言。奇服曠世。骨像應圖。披羅衣之璀璨兮。珥瑤碧之華珥。戴金翠之首飾。綴明珠以耀軀。踐遠游之文履。曳霧縠之輕裾。微幽蘭之芳藹兮。步踟躕於山隅。於是忽焉縱體。以遨以嬉。左倚采旄。右蔭桂旗。攘皓腕於神滸兮。采湔澗之玄芝。余情悅其淑美兮。心振蕩而不怡。無良媒以接歡兮。託微波而通辭。願誠素之先達兮。懼斯靈之我欺。感交甫之棄言兮。恨猶豫而狐疑。收和顏而靜志兮。申禮防以自持。於是洛靈感焉。徙倚彷徨。神光離合。乍陰乍陽。竦輕軀以鶴立。若將飛而未翔。踐椒塗之郁烈。步蘅薄而流芳。超長吟以永慕兮。聲哀厲而彌長。爾迺衆靈雜遷。命儔嘯侶。或戲清流。或翔神渚。或采明珠。或拾翠羽。從南湘之二妃。攜漢濱之游女。歎匏瓜之無匹。詠牽牛之獨處。揚輕袿之綺靡。翳脩袖以延佇。體迅飛鳧。飄忽若神。陵波微步。羅襪生塵。動無常則。若危若安。進止難期。若往若還。轉眄流精。光潤玉顏。含辭未吐。氣若幽蘭。華容婀娜。令我忘餐。於是屏翳收風。川后靜波。馮夷鳴鼓。女媧清歌。騰文魚以警乘。鳴玉鸞以借逝。六龍儼其齊首。載雲車之容裔。鯨鯢踊而夾轂。水禽翔而為衛。於是越北沚。過南岡。紆素領。迴清陽。動朱



唇以徐言。陳交接之大綱。恨人神之道殊。怨盛年之莫當。抗羅袂以掩涕兮。淚流襟之浪浪。悼良會之永絕兮。哀一逝而異鄉。無微情以效愛兮。獻江南之明璫。雖潛處於太陰。長寄心於君王。忽不悟其所舍。悵神宵而蔽光。於是背下陵高足。往神留遺情。想象顧望。懷愁冀靈體之復形。御輕舟而上泝。浮長川而忘反。思緜緜而增慕。夜耿耿而不寐。霜繁霜而至曙。命僕夫而就駕。吾將歸乎東路。攬騑轡以抗策。悵盤桓而不能去。

詩 甲 補亡 述德 勸勵 獻詩 公讌 祖餞

補亡詩六首并序 東 廣 微

南陔孝子相戒以養也。

循彼南陔。言探其蘭。眷戀庭闈。心不遑安。彼居之子。罔或游盤。馨爾夕膳。絜爾晨餐。循彼南陔。厥草油油。彼居之子。色思其柔。眷戀庭闈。心不遑留。馨爾夕膳。絜爾晨餐。有獮有獮。在河之涘。淩波赴汨。噬魴捕鯉。嗷嗷林鳥。受哺于子。養隆敬薄。惟禽之似。曷增爾虔。以介丕祉。

白華孝子之絜白也。

白華朱萼。被於幽薄。祭祭門子。如磨如錯。終晨三省。匪惰其恪。白華絳趺。在陵之陬。蓍蒨士子。淫而不渝。竭誠盡敬。豐豐忘劬。白華玄足。在丘之曲。堂堂處子。無營無欲。鮮伴晨葩。莫之黜辱。華黍時和。歲豐宜黍稷也。

黷黷重雲。習習和風。黍華陵巔。麥秀丘中。靡田不播。九穀斯豐。奕奕玄霄。濛濛甘霽。黍發稠華。禾挺其秀。靡田不殖。九穀斯茂。無高不播。無下不植。芒芒其稼。參參其穡。稽我王委。充我民食。玉燭陽明。顯猷翼翼。

由庚萬物得由其道也。

蕩蕩夷庚。物則由之。蠢蠢庶類。王亦柔之。道之既由。化之既柔。木以秋零。草以春抽。獸在于草。魚躍順流。四時遞謝。八風代扇。織阿案暑。星變其躔。五緯不愆。六氣無易。惜惜我王。紹文之跡。

崇丘萬物得極其高大也。

瞻彼崇丘。其林藹藹。植物斯高。動類斯大。周風既洽。王猷允泰。漫漫方輿。迴迴洪覆。何類不繁。何生不茂。物極其性。人永其壽。恢恢大圓。茫茫九壤。資生仰化。于何不養。人無道天。物極則長。

由儀萬物之生各得其儀也。

肅肅君子。由儀率性。明明后辟。仁以為政。魚游清沼。鳥萃平林。濯鱗鼓翼。振振其音。賓寫爾誠。主竭其心。時之和矣。何思何脩。文化內輯。武功外悠。

述祖德詩一首 謝 靈 運

達人貴自我。高情屬天雲。兼抱濟物性。而不纓垢氛。段生藩魏國。展季救魯人。竝高情晉師。仲連却秦軍。臨組乍不縲。對珪寧肯分。惠物辭所賞。勵志故絕人。若若歷千載。遙遙播清塵。清塵竟誰嗣。明哲時經綸。委講綴道論。改服康世屯。屯難既云康。尊主隆斯民。中原昔喪亂。喪亂豈解已。崩騰永嘉末。逼迫太元始。河外無反正。江介有賊圯。萬邦咸振懼。橫流賴君子。拯溺由道情。龜暴資神理。秦趙欣來蘇。燕魏遲文軌。賢相謝世運。遠圖因事止。高揖七州外。拂衣五湖裏。隨山疏濬潭。傍巖藝粉梓。遺情捨塵物。貞觀丘壑美。

諷 諫 詩 并序 韋 孟

孟爲元王傅。子夷王及孫王戊。戊荒淫不遵道。作詩諷諫。



肅肅我祖。國自豕韋。黼衣朱纓。四牡龍旂。彤弓斯征。撫寧遐荒。摠齊羣邦。以翼大商。迭彼大彭。勳績惟光。至于有周。歷世會同。王叔聽譖。寔絕我邦。我邦既絕。厥政斯逸。賞罰之行。非由王室。庶尹羣后。靡扶靡衛。五服崩離。宗周以墜。我祖斯微。遷于彭城。在予小子。勤瘁厥生。阨此媿秦。耒耜斯耕。悠悠媿秦。上天不寧。乃眷南顧。授漢于京。於赫有漢。四方是征。靡適不懷。萬國攸平。乃命厥弟。建侯于楚。俾我小臣。惟傅是輔。矜矜元王。恭儉靜一。惠此黎民。納彼輔弼。享國漸世。垂烈於後。乃及夷王。剋奉厥次。咨命不永。惟王統祀。左右陪臣。斯惟皇士。如何我王。不思守保。不惟履冰。以繼祖考。邦事是廢。逸游是娛。犬馬悠悠。是放是驅。務此鳥獸。忽此稼苗。蒸民以匱。我王以媿。所弘匪德。所親匪俊。唯囿是恢。唯諛是信。喻諭諂夫。謬謬黃髮。如何我王。曾不是察。既藐下臣。追欲縱逸。媿彼顯祖。輕此削黜。嗟嗟我王。漢之陸親。曾不夙夜。以休令聞。穆穆天子。臨照下土。明明羣司。執憲靡顧。正退由近。殆其茲怙。嗟嗟我王。曷不思匪。匪思匪監。嗣其罔則。彌彌其逸。岌岌其國。致冰匪霜。致墜匪慢。瞻惟我王。時靡不練。與國救顛。孰違悔過。追思黃髮。秦繆以霸。歲月其徂。年其逮耆。於赫君子。庶顯于後。我王如何。曾不斯覽。黃髮不近。胡不時鑒。

勸志詩

張茂先

大儀幹運。天迴地游。四氣鱗次。寒暑環周。星火既夕。忽焉素秋。涼風振落。熠燿宵流。其一吉士思秋。寔感物化。日歎月歎。荏苒代謝。逝者如斯。曾無日夜。嗟爾庶士。胡寧自舍。其二仁道不遐。德輶如羽。求焉斯至。衆鮮克舉。大猷玄漠。將抽厥緒。先民有作。貽我高矩。其三雖有淑姿。放心縱逸。出般于游。居多暇日。如彼梓材。弗勤丹漆。雖勞朴斲。終負素質。其四養由矯矢。獸號于林。蒲盧縈繳。神感飛禽。末伎之妙。動物應心。研精耽道。安有幽深。其五安心恬蕩。棲志浮雲。體之以質。彪之以文。如彼南畝。力未既勤。薰蕪致功。必有豐殷。其六水積成川。載瀾載清。土積成山。歆蒸鬱冥。山不讓塵。

川不辭盈。勉志含弘。以隆德聲。其七高以下基。洪由纖起。川廣自源。成人在始。累微以著。乃物之理。纏牽之長。實累千里。其八復禮終朝。天下歸仁。若金受礪。若泥在鈞。進德脩業。暉光日新。隰朋仰慕。予亦何人。其九

上責躬應詔詩表

曹子建

臣植言。臣自抱釁歸蕃。刻肌刻骨。追思罪戾。晝分而食。夜分而寢。誠以天網不可重罹。聖恩難可再恃。竊感相鼠之篇。無禮過死之義。形影相弔。五情愧赧。以罪弃生。則違古賢。夕改之勸。忍垢苟全。則犯詩人。胡顏之譏。伏惟陛下。德象天地。恩隆父母。施暢春風。澤如時雨。是以不別荆棘者。慶雲之惠也。七子均養者。鳴鳩之仁也。含罪責功者。明君之舉也。矜愚愛能者。慈父之恩也。是以愚臣徘徊於恩澤。而不敢自弃者也。前奉詔書。臣等絕朝。心離志絕。自分黃者。永無執珪之望。不圖聖詔。猥垂齒召。至止之日。馳心輦轂。僻處西館。未奉闕庭。踊躍之懷。瞻望反側。不勝犬馬戀主之情。謹拜表并獻詩二篇。詞旨淺末。不足采覽。貴露下情。冒顏以聞。臣植誠惶誠恐頓首頓首死罪。

責躬詩

於穆顯考。時惟武皇。受命于天。寧濟四方。朱旗所拂。九土披攘。玄化滂流。荒服來王。超商越周。與唐比蹤。篤生我皇。奕世載聰。武則肅烈。文則時雍。受禪于漢。君臨萬邦。萬邦既化。率由舊則。廣命懿親。以藩王國。帝曰爾侯。君茲青土。奄有海濱。方周于魯。車服有輝。旗章有敍。濟濟俊乂。我弼我輔。伊余小子。恃寵驕盈。舉掛時網。動亂國經。作蕃作屏。先軌是隳。傲我皇使。犯我朝儀。國有典刑。我削我黜。將寘于理。元凶是率。明明天子。時惟篤類。不忍我刑。暴之朝肆。違彼執憲。哀予小子。改



封堯邑。于河之濱。股肱弗置。有君無臣。荒淫之闕。誰弼余身。犛犛僕夫。于彼冀方。嗟予小子。乃罹斯殃。赫赫天子。恩不遺物。冠我玄冕。要我朱紱。光光大使。我榮我華。剖符授玉。王爵是加。仰齒金璽。俯執聖策。皇恩過隆。祇承忱惕。咨我小子。頑凶是嬰。逝慚陵墓。存愧闕庭。匪敢傲德。寔思是恃。威靈改加。足以沒齒。昊天罔極。生命不圖。常懼顛沛。抱罪黃墟。願蒙矢石。建旗東嶽。庶立毫釐。微功自贖。危軀授命。知足免戾。甘赴江湘。奮戈吳越。天啓其衷。得會京畿。遲奉聖顏。如渴如飢。心之云慕。愴矣其悲。天高聽卑。皇肯照微。

應詔詩

肅承明詔。應會皇都。星陳夙駕。秣馬脂車。命彼掌徒。肅我征旅。朝發鸞臺。夕宿蘭渚。芒芒原隰。祁祁士女。經彼公田。樂我稷黍。爰有樛木。重陰匪息。雖有糗糧。飢不違食。望城不過。面邑不游。僕夫警策。平路是由。玄駟藹藹。揚鑣漂沫。流風翼衡。輕雲承蓋。涉澗之濱。緣山之隈。遵彼河澗。黃坂是階。西濟關谷。或降或升。駢驂倦路。載寢載興。將朝聖皇。匪敢晏寧。弭節長鶩。指日過征。前驅舉燧。後乘抗旌。輪不輟運。鑿無廢聲。爰暨帝室。稅此西墉。嘉詔未賜。朝覲莫從。仰瞻城闕。俯惟闕庭。長懷永慕。憂心如醒。

關中詩

潘安仁

於皇時晉。受命既固。三祖在天。聖皇紹祚。德博化光。刑簡枉錯。微火不戒。延我寶庫。其一蠢爾戎狄。狡焉思肆。虞我國貨。窺我利器。嶽牧慮殊。威懷理二。將無專策。兵不素肄。其二翹翹趙王。請徒三萬。朝議惟疑。未逞斯願。桓桓梁征。高牙乃建。旗蓋相望。偏師作援。其三虎視耽耽。威彼好時。素甲日耀。玄幕雲起。誰其繼之。夏侯卿士。惟系惟處。別營棊時。其四夫豈無謀。戎士承平。守有完郭。

戰無全兵。鋒交卒奔。孰免孟明。飛檄秦郊。告敗上京。其五周徇師令。身膏氏斧。人之云亡。貞節克舉。盧播違命。投畀朔土。爲法受惡。誰謂荼苦。其六哀此黎元。無辜肝腦塗地。白骨交衢。夫行妻寡。父出子孤。俾我晉民。化爲狄俘。其七亂離斯瘼。日月其稔。天子是矜。肝食晏寢。主憂臣勞。孰不祇懷。愧無獻納。尸素以甚。其八皇赫斯怒。爰整精銳。命彼上谷。指日過逝。親奉成規。稜威遐厲。首陷中亭。揚聲萬計。其九兵固詭道。先聲後實。聞之有司。以萬爲一。紂之不善。我未之必。虛鼎滹德。繆彰甲吉。其十雍門不啓。陳沂危偪。觀遂虎奮。感恩輸力。重圍克解。危城載色。豈曰無過。功亦不測。其十一情固萬端。于何不有。紛紜齊萬。亦孔之醜。曰納其降。曰梟其首。疇真可掩。孰僞可久。其十二既徵爾辭。既蔽爾訟。當乃明實。否則證空。好爵旣靡。顯戮亦從。不見竇林。伏尸漢邦。其十三周人之詩。寔曰采薇。北難獫狁。西患昆夷。以古況今。何足曜威。徒惑斯民。我心傷悲。其十四斯民如何。荼毒于秦。師旅旣加。饑饉是因。疫癘淫行。荆棘成榛。絳陽之粟。浮于渭濱。其十五明明天子。視民如傷。申命羣司。保爾封疆。靡暴于衆。無陵于彊。惴惴寡弱。如熙春陽。其十六

公謙詩

曹子建

公子敬愛客。終宴不知疲。清夜游西園。飛蓋相追隨。明月澄清景。列宿正參差。秋蘭被長坂。朱華冒綠池。潛魚躍清波。好鳥鳴高枝。神飈接丹轂。輕輦隨風移。飄飄放志意。千秋長若斯。

公謙詩

王仲宣

昊天降豐澤。百卉挺葳蕤。涼風撤蒸暑。清雲却炎暉。高會君子堂。竝坐蔭華棖。嘉肴充圓方。旨酒盈金壘。管絃發徵音。曲度清且悲。合坐同所樂。但慙杯行遲。常聞詩人語。不醉且無歸。今日不極歡。含情欲待誰。見眷良不翅。守分豈能違。古人有遺言。君子福所綏。願我賢主人。與天享巍巍。克



符周公業奕世不可追。

公謙詩

劉公幹

永日行游戲。歡樂猶未央。遺思在玄夜。相與復翱翔。輦車飛素蓋。從者盈路傍。月出照園中。珍木鬱蒼蒼。清川過石渠。流波爲魚防。芙蓉散其華。菌菴溢金塘。靈鳥宿水裔。仁獸游飛梁。華館寄流波。豁達來風涼。生平未始聞。歌之安能詳。投翰長歎息。綺麗不可忘。

侍五官中郎將建章臺集詩

應德璉

朝鴈鳴雲中。音響一何哀。問子游何鄉。戢翼正徘徊。言我塞門來。將就衡陽棲。往春翔北土。今冬客南淮。遠行蒙霜雪。毛羽日摧頹。常恐傷肌骨。身隕沈黃泥。簡珠墮沙石。何能中自諧。欲因雲雨會。濯翼陵高梯。良遇不可值。伸眉路何階。公子敬愛客。樂飲不知疲。和顏既以暢。乃肯顧細微。贈詩見存慰。小子非所宜。爲且極歡情。不醉其無歸。凡百敬爾位。以副飢渴懷。

皇太子宴玄圃宣猷堂有令賦詩

陸士衡

三正迭紹。洪聖啓運。自昔哲王。先天而順。羣辟崇替。降及近古。黃暉既渝。素靈承祐。乃眷斯顧。祚之宅土。三后始基。世武丕承。協風傍駭。天暑仰澄。淳耀六合。皇慶攸興。自彼河汾。奄齊七政。時文惟晉。世篤其聖。欽翼昊天。對揚成命。九區克咸。讌歌以詠。皇上纂隆。經教弘道。于化既豐。在工載考。俯釐庶績。仰荒大造。儀刑祖宗。妥綏天保。篤生我后。克明克秀。體輝重光。承規景數。茂德淵沖。天姿玉裕。叢爾小臣。邈彼荒遐。馳厥負擔。振纓承華。匪願伊始。惟命之嘉。

大將軍宴會被命作詩

陸士龍

皇皇帝祜。誕隆駿命。四祖正家。天祿安定。叡哲惟晉。世有明聖。如彼日月。萬景攸正。其一巍巍明聖。道隆自天。則明分爽。觀象洞玄。陵風協紀。絕輝照淵。蕭雍往播。福祿來臻。其二在昔姦臣。稱亂紫微。神風潛駭。有赫茲威。靈旗樹旆。如電斯揮。致天之屈。于河之沂。有命再集。皇輿凱歸。其三類綱既振。品物咸秩。神道見素。遺華反質。辰晷重光。協風應律。函夏無塵。海外有謚。其四芒芒宇宙。天地交泰。王在華堂。式宴嘉會。玄暉峻朗。翠雲崇靄。冕弁振纓。服藻垂帶。其五祁祁臣僚。有來雍雍。薄言載考。承顏下風。俯覲嘉客。仰瞻玉容。施已唯約。于禮斯豐。天錫難老。如岳之崇。其六

晉武帝華林園集詩

應吉甫

悠悠太上。民之厥初。皇極肇建。彝倫攸敷。五德更運。膺籙受符。陶唐既謝。天歷在虞。其一於時上帝。乃顧惟眷。光我先祚。應期納禪。位以龍飛。文以虎變。玄澤滂流。仁風潛扇。區內宅心。方隅回面。其二天垂其象。地曜其文。鳳鳴朝陽。龍翔景雲。嘉禾重穎。萇莢載芬。率士咸序。人胥悅欣。其三恢皇度。穆穆聖容。言思其順。貌思其恭。在視斯明。在聽斯聰。登庸以德。明試以功。其四其恭惟何。昧且不顯。無理不經。無義不踐。行捨其華。言去其辯。游心至虛。同規易簡。六府孔修。九有斯靖。其五澤靡不被。化罔不加。聲教南暨。西漸流沙。幽人肆嶮。遠國忘遐。越裳重譯。充我皇家。其六峩峩列辟。赫赫虎臣。內和五品。外威四賓。脩時貢職。入觀天人。備言錫命。羽蓋朱輪。其七貽宴好會。不常厥數。神心所受。不言而喻。於是肄射。弓矢斯御。發彼五的。有酒斯飲。其八文武之道。厥猷未墜。在昔先王。射御茲器。示武懼荒。過亦爲失。凡厥羣后。無懈于位。其九



九日從宋公戲馬臺集送孔令詩 謝宣遠

風至授寒服。霜降休百工。繁林收陽彩。密苑解華叢。巢幕無留鷺。遵渚有來鴻。輕霞冠秋日。迅商薄清穹。聖心眷嘉節。揚鑾展行宮。四筵霑芳醴。中堂起絲桐。扶光迫西汜。歡餘宴有窮。逝矣將歸客。養素克有終。臨流怨莫從。歡心歎飛蓬。

樂游應詔詩

范蔚宗

崇盛歸朝闕。虛寂在川岑。山梁協孔性。黃屋非堯心。軒駕時未肅。文囿降照臨。流雲起行蓋。晨風引鑾音。原薄信平蔚。臺湖備會深。蘭池清夏氣。脩帳含秋陰。遵渚攀蒙密。隨山上嶇嶽。睇目有極覽。游情無近尋。聞道雖已積。年力互頽侵。探已謝丹黻。感事懷長林。

九日從宋公戲馬臺集送孔令詩 謝靈運

季秋邊朔苦。旅鴈違霜雪。淒淒陽卉腓。皎皎寒潭潔。良辰感聖心。雲旗興暮節。鳴葭戾朱宮。蘭卮獻時哲。餞宴光有孚。和樂隆所缺。在宥天下理。吹萬羣方悅。歸客遂海隅。脫冠謝朝列。弭棹薄枉渚。指景待樂闕。河流有急瀾。浮驂無緩轍。豈伊川途念。宿心愧將別。彼美丘園道。喟焉傷薄劣。

應詔讌曲水作詩

顏延年

道隱未形。治彰既亂。帝迹懸衡。皇流共貫。惟王創物。永錫洪算。仁固開周。義高登漢。其一祚融世。哲業光列聖。太上正位。天臨海鏡。制以化裁。樹之形性。惠浸萌生。信及翔泳。其二崇虛非微。積實莫尚。豈伊人和。寔靈所貺。日完其朔。月不掩望。航琛越水。輦賫踰嶂。其三帝體麗明。儀辰作貳。君

彼東朝。金昭玉粹。德有潤身。禮不愆器。柔中淵映。芳猷蘭秘。其四昔在文昭。今惟武穆。烏赫王宰。方且居叔。有辟叡蕃。爰履奠牧。寧極和鈞。屏京維服。其五肅魄雙交。月氣參變。開榮灑澤。舒虹燦電。化際無間。皇情爰眷。伊思鑄飲。每惟洛宴。其六郊餞有壇。君舉有禮。幙帷蘭甸。畫流高陸。分庭薦樂。折波浮醴。豫同夏諺。事兼出濟。其七仰閱豐施。降惟微物。三妨儲隸。五塵朝黻。途泰命屯。恩充報屈。有悔可悛。滯瑕難拂。其八

皇太子釋奠會作詩

顏延年

國尚師位。家崇儒門。稟道毓德。講藝立言。浚明爽曙。達義茲昏。永瞻先覺。顧惟後昆。其一大人長物。繼天接聖。時屯必亨。運蒙則正。偃閉武術。闡揚文令。庶士傾風。萬流仰鏡。其二虞庠節館。睿圖炳晬。懷仁憬集。抱智屬至。踵門陳書。躡屨獻器。深身玄淵。宅心道秘。其三伊昔周儲。聿光往記。思皇世哲。體元作嗣。資此夙知。降從經志。邇彼前文。矩周規值。其四正殿虛筵。司分簡日。尚席函杖。丞疑奉帙。侍言稱辭。惇史秉筆。妙識幾音。王載有述。其五肆議芳訊。大教克明。敬躬祀典。告奠聖靈。禮屬觀盟。樂薦歌笙。昭事是肅。俎實非馨。其六獻終襲吉。卽宮廣讌。堂設象筵。庭宿金懸。台保兼徽。皇戚比彥。肴乾酒澄。端服整弁。其七六官視命。九賓相儀。纓笏匝序。巾卷充街。都莊雲動。野植風馳。倫周伍漢。超哉逸猗。其八清暉在天。容光必照。物性其情。理宣其奧。妄先國冑。側聞邦教。徒愧微冥。終謝智效。其九

侍宴樂游苑送張徐州應詔詩 丘希範

詰旦闔闔開。馳道聞鳳吹。輕萸承玉輦。細草藉龍騎。風遲山尚響。雨息雲猶積。巢空初鳥飛。荇亂新魚戲。寔惟北門重。匪親孰爲寄。參差別念舉。肅穆恩波被。小臣信多幸。投生豈酬義。



應詔樂游苑餞呂僧珍詩

沈休文

丹浦非樂戰。負重切君臨。我皇秉至德。忘己用堯心。愍茲區宇內。魚鳥失飛沈。推轂二嶠道。揚旆九河陰。超乘盡三屬。選士皆百金。戎車出細柳。餞席樽上林。命師誅後服。授律緩前禽。函轅方解帶。曉武稍披襟。伐罪芒山曲。弔民伊水潯。將陪告成禮。待此未抽簪。

送應氏詩二首

曹子建

步登北芒阪。遙望洛陽山。洛陽何寂寞。宮室盡燒焚。垣墻皆頓擗。荆棘上參天。不見舊耆老。但覩新少年。側足無行徑。荒疇不復田。遊子久不歸。不識陌與阡。中野何蕭條。千里無人煙。念我平常居。氣結不能言。其一清時難屢得。嘉會不可常。天地無終極。人命若朝霜。願得展嬾婉。我友之朔方。親昵竝集送。置酒此河陽。中饋豈獨薄。賓飲不盡觴。愛至望苦深。豈不愧中腸。山川阻且遠。別促會日長。願爲比翼鳥。施翮起高翔。其二

征西官屬送於陟陽侯作詩

孫子荆

晨風颺歧路。零雨被秋草。傾城遠追送。餞我千里道。三命皆有極。咄嗟安可保。莫大於殤子。彭聃猶爲夭。吉凶如糾纏。憂喜相紛繞。天地爲我鑪。萬物一何小。達人垂大觀。誠此苦不早。乖離卽長衢。惆悵盈懷抱。孰能察其心。鑒之以蒼昊。齊契在今朝。守之與偕老。

金谷集作詩

潘安仁

王生和鼎實。石子鎮海沂。親友各言邁。中心悵有違。何以叙離思。攜手游郊畿。朝發晉京陽。夕次

金谷湄。迴谿縈曲阻。峻阪路威夷。綠池泛淡淡。青柳何依依。濫泉龍鱗瀾。激波連珠揮。前庭樹沙棠。後園植烏桺。靈囿繁石榴。茂林列芳梨。飲至臨華沼。遷坐登隆坻。玄醴染朱顏。但慙杯行遲。揚桴撫靈鼓。簫管清且悲。春榮誰不慕。歲寒良獨希。投分寄石友。白首同所歸。

王撫軍庾西陽集別作

謝宣遠

祇召旋北京。守官反南服。方舟折舊知。對筵曠朗牧。舉觴矜飲餞。指途念出宿。來晨無定端。別晷有成速。頽陽照通津。夕陰曖平陸。榜人理行鱸。輜軒命歸僕。分手東城闔。發櫂西江隩。離會雖相雜。逝川豈往復。誰謂情可書。盡言非尺牘。

鄰里相送方山詩

謝靈運

祇役出皇邑。相期憩甌越。解纜及流潮。懷舊不能發。析析就衰林。皎皎明秋月。含情易爲盈。遇物難可歇。積痾謝生慮。寡欲罕所闕。資此永幽棲。豈伊年歲別。各勉日新志。音塵慰寂蔑。

新亭渚別范零陵詩

謝立暉

洞庭張樂地。瀟湘帝子游。雲去蒼梧野。水還江漢流。停驂我悵望。輟棹子夷猶。廣平聽方籍。茂陵將見求。心事俱已矣。江上徒離憂。

別范安成詩

沈休文

生平少年日。分手易前期。及爾同衰暮。非復別離時。勿言一樽酒。明日難重持。夢中不識路。何以慰相思。



文選卷十終

文選卷十一

詩乙 詠史 百一 遊仙 招隱 反招隱 遊覽

詠史詩

王仲宣

自古無殉死。達人所共知。秦穆殺三良。惜哉空爾爲。結髮事明君。受恩良不訾。臨沒要之死。焉得不相隨。妻子當門泣。兄弟哭路垂。臨穴呼蒼天。涕下如綆縻。人生各有志。終不爲此移。同知埋身劇。心亦有所施。生爲百夫雄。死爲壯士規。黃鳥作悲詩。至今聲不虧。

三良詩

曹子建

功名不可爲。忠義我所安。秦穆先下世。三臣皆自殘。生時等榮樂。既沒同憂患。誰言捐軀易。殺身誠獨難。攬涕登君墓。臨穴仰天歎。長夜何冥冥。一往不復還。黃鳥爲悲鳴。哀哉傷肺肝。

詠史詩八首

左太沖

史詠詩

弱冠弄柔翰。卓犖觀羣書。著論准過秦。作賦擬子虛。邊城苦鳴鏑。羽檄飛京都。雖非甲冑士。疇昔覽穰苴。長嘯激清風。志若無東吳。鉛刀貴一割。夢想騁良圖。左眄澄江湖。右盼定羌胡。功成不受爵。長揖歸田廬。鬱鬱澗底松。離離山上苗。以彼徑寸莖。蔭此百尺條。世胄躡高位。英俊沈下僚。地勢使之然。由來非一朝。金張藉舊業。七葉珥漢貂。馮公豈不偉。白首不見招。吾希段干木。偃息藩



魏君吾慕魯仲連談笑却秦軍當世貴不羈遭難能解紛功成恥受賞高節卓不羣臨組不肯綵對珪寧肯分連璽曜前庭比之猶浮雲濟濟京城內赫赫王侯居冠蓋蔭四術朱輪竟長衢朝集金張館暮宿許史廬南鄰擊鐘磬北里吹笙竽寂寂楊子宅門無卿相輿寥寥空宇內所講在玄虛言論准宣尼辭賦擬相如悠悠百世後英名擅八區皓天舒白日靈景耀神州列宅紫宮裏飛宇若雲浮峩峩高門內藹藹皆王侯自非攀龍客何為歛來游被褐出闔閭高步追許由振衣千仞岡濯足萬里流荆軻飲燕市酒酣氣益震哀歌和漸離謂若傍無人雖無壯士節與世亦殊倫高眇邈四海豪右何足陳貴者雖自貴視之若埃塵賤者雖自賤重之若千鈞主父宦不達骨肉還相薄買臣困樵采伉儷不安宅陳平無產業歸來翳負郭長卿還成都壁立何寥廓四賢豈不偉遺烈光篇籍當其未遇時憂在填溝壑英雄有迤邐由來自古昔何世無奇才遺之在草澤習習籠中鳥舉翮觸四隅落落窮巷士抱影守空廬出門無通路枳棘塞中塗計策棄不收塊若枯池魚外望無寸祿內顧無斗儲親戚還相蔑朋友日夜疎蘇秦北游說李斯西上書俛仰生榮華咄嗟復彫枯飲河期滿腹貴足不願餘巢林栖一枝可為達士模

詠史詩

張景陽

昔在西京時朝野多歡娛藹藹東都門羣公祖二疎朱軒曜金城供帳臨長衢達人知止足遺榮忽如無抽簪解朝衣散髮歸海隅行人為隕涕賢哉此丈夫揮金樂當年歲暮不留儲顧謂四座賓多財為累愚清風激萬代名與天壤俱咄此蟬冕客君紳宜見書

覽古詩

盧子諒

趙氏有和璧天下無不傳秦人來求市厥價徒空言與之將見賣不與恐致患簡才備行李圖令

國命全蘭生在下位繆子稱其賢奉辭馳出境伏軾徑入關秦王御殿坐趙使擁節前揮袂脫金柱身玉要俱捐連城既偽往荆玉亦真還爰在渾池會二主剋交歡昭襄欲負力相如折其端皆血下霑襟怒髮上衝冠西岳終雙擊東瑟不雙彈捨生豈不易處死誠獨難稜威章臺顛疆禦亦不干屈節邯鄲中俛首忍迴軒廉公何為者負荆謝厥讐智勇冠當世弛張使我歎

張子房詩

謝宣遠

王風哀以思周道蕩無章卜洛易隆替興亂罔不亡力政吞九鼎苛隱暴三殤息肩纏民思靈鑒集朱光伊人感代工聿來扶興王婉婉幙中畫輝輝天業昌鴻門銷薄蝕垓下隕擄槍爵仇建蕭宰定都護儲皇肇允契幽叟翻飛指帝鄉惠心奮千祀清埃播無疆神武陸三正裁成被八荒明兩燭河陰慶霄薄汾陽鑿於歷頽寢飾像薦嘉嘗聖心豈徒甄惟德在無忘逝者如可作揆子慕周行濟濟屬車士粲粲翰墨場瞽夫達盛觀竦踊企一方四達雖平直蹇步愧無良餐和忘微遠延首詠太康

秋胡詩

顏延年

椅梧傾高鳳寒谷待鳴律影響豈不懷自遠每相匹婉彼幽閑女作嬪君子室峻節貫秋霜明豔伴朝日嘉運既我從欣願自此畢其一燕居未及好良人顧有違脫巾千里外結綬登王畿戒徒在昧旦左右來相依驅車出郊郭行路正威遲存為久離別沒為長不歸其二嗟余怨行役三陟窮晨暮嚴駕越風寒解鞍犯霜露原隰多悲涼迴颺卷高樹離獸起荒蹊驚鳥縱橫去悲哉游宦子勞此山川路其三超遙行人遠宛轉年運徂良時為此別日月方向除孰知寒暑積俛仰見榮枯歲暮臨空房涼風起坐隅寢興日已寒白露生庭燕其四勤役從歸願反路遵山河昔辭秋未



素。今也歲載華。蠶月觀時暇。桑野多經過。佳人從所務。窈窕援高柯。傾城誰不顧。弭節停中阿。其五年往誠思勞。路遠濶音形。雖爲五載別。相與味平生。捨車遵往路。鳧藻馳目成。南金豈不重。聊自意所輕。義心多苦調。密比金玉聲。其六高節難久淹。竭來空復辭。遲遲前途盡。依依造門基。上堂拜嘉慶。入室問何之。日暮行采歸。物色桑榆時。美人望昏至。慙歎前相持。其七有懷誰能已。聊用申苦難。離居殊年載。一別阻河關。春來無時豫。秋至恆早寒。明發動愁心。閨中起長歎。慘悽歲方晏。日落游子顏。其八高張生絕絃。聲急由調起。自昔枉光塵。結言固終始。如何久爲別。百行愆諸已。君子失明義。誰與偕沒齒。愧彼行露詩。甘之長川汜。其九

五君詠五首

顏延年

阮步兵

阮公雖淪跡。識密鑒亦洞。沈醉似埋照。寓辭類託諷。長嘯若懷人。越禮自驚衆。物故不可論。途窮能無慟。

嵇中散

中散不偶世。本自餐霞人。形解驗默仙。吐論知凝神。立俗迕流議。尋仙洽隱淪。鸞翮有時鍛。龍性誰能馴。

劉參軍

劉伶善閉關。懷情滅聞見。鼓鐘不足歡。榮色豈能眩。翫精日沈飲。誰知非荒宴。頌酒雖短章。深衷自此見。

阮始平

仲容青雲器。實稟生民秀。達音何用深。識微在金奏。郭奕已心醉。山公非虛覲。屢薦不入官。一麾

乃出守。

向常侍

向秀甘淡薄。深心託毫素。探道好淵玄。觀書鄙章句。交呂既鴻軒。攀嵇亦鳳舉。流連河裏游。惻愴山陽賦。

詠史詩

鮑明遠

五都矜財雄。三川養聲利。百金不市死。明經有高位。京城十二衢。飛甍各鱗次。仕子彫華纓。遊客竦輕轡。明星晨未稀。軒蓋已雲至。賓御紛颯沓。鞍馬光照地。寒暑在一時。繁華及春媚。君平獨寂寞。身世兩相棄。

詠霍將軍北伐詩

虞子陽

擁旄爲漢將。汗馬出長城。長城地勢險。萬里與雲平。涼秋八九月。虜騎入幽并。飛狐白日晚。瀚海愁雲生。羽書時斷絕。刁斗晝夜驚。乘墉揮寶劍。蔽日引高旌。雲屯七萃士。魚麗六郡兵。胡笳關下思。羌笛隴頭鳴。骨都先自驚。日逐次亡精。玉門罷斥候。甲第始修營。位登萬庾積。功立百行成。天長地自久。人道有虧盈。未窮激楚樂。已見高臺傾。當令麟閣上。千載有雄名。

百一詩

應休璉

下流不可處。君子慎厥初。名高不宿著。易用受侵誣。前者隳官去。有人適我閭。田家無所有。酌醴焚枯魚。問我何功德。三入承明廡。所占於此土。是謂仁智居。文章不經國。筐篋無尺書。用等稱才學。往往見歎譽。避席跪自陳。賤子實空虛。宋人遇周客。慙愧靡所如。



遊仙詩

何敬祖

青青陵上松。亭亭高山栢。光色冬夏茂。根柢無凋落。吉士懷真心。悟物思遠託。揚志玄雲際。流目矚巖石。羨昔王子喬。友道發伊洛。迢遞陵峻岳。連翩御飛鶴。抗跡遺萬里。豈戀生民樂。長懷慕仙類。眇然心縣邈。

遊仙詩七首

郭景純

京華遊俠窟。山林隱遯棲。朱門何足榮。未若託蓬萊。臨源挹清波。陵岡掇丹萸。靈谿可潛盤。安事登雲梯。漆園有傲吏。萊氏有逸妻。進則保龍見。退爲觸藩羝。高蹈風塵外。長揖謝夷齊。青谿千餘仞。中有一道士。雲生梁棟間。風出窗戶裏。借問此何誰。云是鬼谷子。翹迹企潁陽。臨河思洗耳。圃闔西南來。潛波渙鱗起。靈妃顧我笑。粲然啓玉齒。蹇脩時不存。要之將誰使。翳翠戲蘭苕。容色更相鮮。綠蘿結高林。蒙籠蓋一山。中有冥寂士。靜嘯撫清絃。放情凌霄外。嚼藥挹飛泉。赤松臨上游。駕鴻乘紫煙。左挹浮丘袖。右拍洪崖肩。借問蜉蝣輩。寧知龜鶴年。六龍安可頓。運流有代謝。時變感人思。已秋復願夏。淮海變微禽。吾生獨不化。雖欲騰丹谿。雲螭非我駕。愧無魯陽德。迴日向三舍。臨川哀年邁。撫心獨悲吒。逸翮思拂霄。迅足羨遠游。清源無增瀾。安得運吞舟。珪璋雖特達。明月難闇投。潛穎怨青陽。陵苕哀素秋。悲來惻丹心。零淚綠纓流。雜縣寓魯門。風煖將爲災。吞舟涌海底。高浪駕蓬萊。神仙排雲出。但見金銀臺。陵陽挹丹溜。容成揮玉杯。姮娥揚妙音。洪崖領其頤。升降隨長煙。飄飄戲九垓。奇齡邁五龍。千歲方嬰孩。燕昭無靈氣。漢武非仙才。晦朔如循環。月盈已復魄。葦收清西陸。朱羲將由白。寒露拂陵苕。女蘿辭松栢。薜榮不終朝。蜉蝣豈見夕。圓丘有奇草。鍾山出靈液。王孫列八珍。安期鍊五石。長揖當途人。去來山林客。

招隱詩二首

左太冲

杖策招隱士。荒塗橫古今。巖穴無結構。丘中有鳴琴。白雲停陰岡。丹葩曜陽林。石泉漱瓊瑤。纖鱗或浮沈。非必絲與竹。山水有清音。何事待嘯歌。灌木自悲吟。秋菊兼糗糧。幽蘭間重襟。躊躇足力煩。聊欲投吾簪。經始東山廬。果下自成榛。前有寒泉井。聊可罄心神。情蒨青蔥間。竹栢得其真。弱葉栖霜雪。飛榮流餘津。爵服無常玩。好惡有屈伸。結綬生纏牽。彈冠去埃塵。惠連非吾屈。首陽非吾仁。相與觀所向。逍遙撰良辰。

招隱詩

陸士衡

明發心不爽。振衣聊躑躅。躑躅欲安之。幽人在浚谷。朝采南澗藻。夕息西山足。輕條象雲構。密葉成翠幄。激楚佇蘭林。回芳薄秀木。山溜何泠泠。飛泉漱鳴玉。哀音附靈波。頽響赴會曲。至樂非有假。安事澆淳樸。富貴苟難圖。稅駕從所欲。

反招隱詩

王康琚

小隱隱陵藪。大隱隱朝市。伯夷竄首陽。老聃伏柱史。昔在太平時。亦有巢居子。今雖盛明世。能無中林士。放神青雲外。絕迹窮山裏。鷓鴣先晨鳴。哀風迎夜起。凝霜凋朱顏。寒泉傷玉趾。周才信衆人。偏智任諸己。推分得天和。矯性失至理。歸來安所期。與物齊終始。

芙蓉池作

魏文帝

乘輦夜行遊。逍遙步西園。雙渠相溉灌。嘉木繞通川。卑枝拂羽蓋。脩條摩蒼天。驚風扶輪轂。飛鳥



翔我前。丹霞夾明月。華星出雲間。上天垂光采。五色一何鮮。壽命非松喬。誰能得神仙。遨遊快心意。保己終百年。

南州桓公九井作

殷仲文

四運雖鱗次。理化各有準。獨有清秋日。能使高興盡。景氣多明遠。風物自凄緊。爽籟驚幽律。哀壑叩虛牝。歲寒無早秀。浮榮甘夙隕。何以標貞脆。薄言寄松菌。哲匠感蕭晨。肅此塵外軫。廣筵散泛愛。逸爵紆勝引。伊余樂好仁。惑祛吝亦泯。猥首阿衡朝。將貽匈奴哂。

游西池

謝叔源

悟彼蟋蟀唱。信此勞者歌。有來豈不疾。良遊常蹉跎。逍遙越城肆。願言屢經過。迴阡被陵闕。高臺眺飛霞。惠風蕩繁囿。白雲屯會阿。景昃鳴禽集。水木湛清華。褰裳順蘭沚。徙倚引芳柯。美人愆歲月。遲暮獨如何。無為牽所思。南榮戒其多。

泛湖歸出樓中翫月

謝惠連

日落泛澄瀛。星羅游輕橈。憩謝面曲汜。臨流對迴潮。輟策共駢筵。竝坐相招要。哀鴻鳴沙渚。悲猿響山椒。亭亭映江月。瀏瀏出谷飈。斐斐氣幕岫。泫泫露盈條。近矚祛幽蘊。遠視盪諠囂。晤言不知罷。從夕至清朝。

從游京口北固應詔

謝靈運

玉璽戒誠信。黃屋示崇高。事為名教用。道以神理超。昔聞汾水游。今見塵外鑪。鳴笳發春渚。稅鑾

登山椒。張組眺倒景。列筵囑歸潮。遠巖映蘭薄。白日麗江臯。原隰萋綠柳。墟囿散紅桃。皇心美陽澤。萬象咸光昭。顧己枉維繫。撫志慚場苗。工拙各所宜。終以反林巢。曾是葵舊想。覽物奏長謠。

晚出西射堂

謝靈運

步出西城門。遙望城西岑。連障疊巘嶸。青翠杳深沈。曉霜楓葉丹。夕曛嵐氣陰。節往感不淺。感來念已深。羈雌戀舊侶。迷鳥懷故林。含情尚勞愛。如何離賞心。撫鏡華緇鬢。攬帶緩促衿。安排徒空言。幽獨賴鳴琴。

登池上樓

謝靈運

潛虬媚幽姿。飛鴻響遠音。薄霄愧雲浮。棲川怍淵沈。進德智所拙。退耕力不任。徇祿反窮海。臥疴對空林。衾枕昧節候。褰開暫窺臨。傾耳聆波瀾。舉目眺嶺嶸。初景革緒風。新陽改故陰。池塘生春草。園柳變鳴禽。祁祁傷豳歌。萋萋感楚吟。索居易永久。離羣難處心。持操豈獨古。無悶徵在今。

遊南亭

謝靈運

時竟夕澄霽。雲歸日西馳。密林含餘清。遠峯隱半規。久痼昏墊苦。旅館眺郊岐。澤蘭漸被徑。芙蓉始發池。未厭青春好。已觀朱明移。感感物歎。星星白髮垂。藥餌情所止。衰疾忽在斯。逝將候秋水。息景偃舊崖。我志誰與亮。賞心惟良知。

游赤石進帆海

謝靈運

首夏猶清和。芳草亦未歇。永宿淹晨暮。陰霞屢興沒。周覽倦瀛壖。況乃凌窮髮。川后時安流。天吳



靜不發揚帆采石華。挂席拾海月。溟漲無端倪。虛舟有超越。仲連輕齊組。子牟眷魏闕。矜名道不足。適已物可忽。請附任公言。終然謝天伐。

石壁精舍還湖中

謝靈運

昏旦變氣候。山水含清暉。清暉能娛人。游子澹忘歸。出谷日尚早。入舟陽已微。林壑斂暝色。雲霞收夕霏。芰荷迭映蔚。蒲稗相因依。披拂趨南徑。愉悅偃東扉。慮澹物自輕。意愜理無違。寄言攝生客。試用此道推。

登石門最高頂

謝靈運

晨策尋絕壁。夕息在山樓。疏峯抗高館。對嶺臨迴谿。長林羅戶庭。積石擁基階。連巖覺路塞。密竹使徑迷。來人忘新術。去子惑故蹊。活活夕流駛。噉噉夜猿啼。沈冥豈別理。守道自不攜。心契九秋幹。目翫三春蕙。居常以待終。處順故安排。惜無同懷客。共登青雲梯。

於南山往北山經湖中瞻眺

謝靈運

朝旦發陽崖。景落憩陰峯。舍舟眺迴渚。停策倚茂松。側徑既窈窕。環洲亦玲瓏。俛視喬木杪。仰聆大壑淙。石橫水分流。林密蹊絕蹤。解作竟何感。升長皆丰容。初篁苞綠籜。新蒲含紫茸。海鷗戲春岸。天雞弄和風。撫化心無厭。覽物眷彌重。不惜去人遠。但恨莫與同。孤遊非情歎。賞廢理誰通。

從斤竹澗越嶺溪行

謝靈運

猿鳴誠知曙。谷幽光未顯。巖下雲方合。花上露猶滋。逶迤傍隈隩。迢遞陟陁峴。過澗既厲急。登棧

亦陵緬。川渚屢逕復。乘流翫迴轉。蘋萍泛沈深。菰蒲冒清淺。企石挹飛泉。攀林摘葉卷。想見山阿人。薜蘿若在眼。握蘭勤徒結。折麻心莫展。情用賞為美。事味竟誰辨。觀此遺物慮。一悟得所遣。

應詔觀北湖田收

顏延年

周御窮轍跡。夏載歷山川。蓄軫豈明懋。善游皆聖仙。帝暉膺順動。清蹕巡廣廡。樓觀眺豐穎。金駕映松山。飛奔互流綴。緹殼代迴環。神行埒浮景。爭光溢中天。開冬眷徂物。殘悴盈化先。陽陸團精氣。陰谷曳寒煙。攢素旣森藹。積翠亦蔥芊。息饗報嘉歲。通急戒無年。溫渥浹輿隸。和惠屬後筵。觀風久有作。陳詩愧未妍。疲弱謝凌遽。取累非纒牽。

車駕幸京口侍遊蒜山作

顏延年

元天高北列。日觀臨東溟。入河起陽峽。踐華因削成。巖險去漢宇。襟衛徙吳京。流池自化造。山關固神營。園縣極方望。邑社摠地靈。宅道炳星緯。誕曜應辰明。睿思纏故里。巡駕匝舊坰。陟峯騰輦路。尋雲抗瑤甍。春江壯風濤。蘭野茂萸英。宣遊弘下濟。窮遠凝聖情。岳濱有和會。祥習在下征。周南悲昔老。留滯感遺萌。空食疲廊肆。反稅事巖耕。

車駕幸京口三月三日侍遊曲阿後湖作

顏延年

虞風載帝狩。夏諺頌王遊。春方動宸駕。望幸傾五州。山祇蹕嶠路。水若警滄流。神御出瑤軫。天儀降藻舟。萬軸胤行衛。千翼泛飛浮。彤雲麗琬蓋。祥飈被綵旒。江南進荆豔。河激獻趙謳。金練照海



浦笳鼓震溟洲。藐眄觀青崖。衍漾觀綠疇。民靈騫都野。鱗翰聳淵丘。德禮既普洽。川岳徧懷柔。

行樂至城東橋

鮑明遠

雞鳴關吏起。伐鼓早通晨。嚴車臨迴陌。延瞰歷城闈。蔓草緣高隅。脩楊夾廣津。迅風首旦發。平路塞飛塵。擾擾遊宦子。營營市井人。懷金近從利。撫劍遠辭親。爭先萬里途。各事百年身。開芳及稚節。含彩吝驚春。尊賢永照灼。孤賤長隱淪。容華坐消歇。端為誰苦辛。

遊東田

謝玄暉

戚戚苦無悰。攜手共行樂。尋雲陟累榭。隨山望菌閣。遠樹曖阡阡。生煙紛漠漠。魚戲新荷動。鳥散餘花落。不對芳春酒。還望青山郭。

從冠軍建平王登廬山香鑪峯

江文通

廣成愛神鼎。淮南好丹經。此山具鸞鶴。往來盡仙靈。瑤草正翕耄。玉樹信蔥青。絳氣下縈薄。白雲上杳冥。中坐瞰蜿蜒。俯伏視流星。不尋退怪極。則知耳目驚。日落長沙渚。曾陰萬里生。藉蘭素多意。臨風默含情。方學松栢隱。羞逐市井名。幸承光誦末。伏思託後旌。

鍾山詩應西陽王教

沈休文

靈山紀地德。險峭資岳靈。終南表秦觀。少室邇王城。翠鳳翔淮海。衿帶繞神垌。北阜何其峻。林薄杳蔥青。其一發地多奇嶺。于雲非一狀。合沓共隱天。參差互相望。鬱律構丹巘。峻嶒起青嶂。勢隨九疑高。氣與三山壯。其二卽事既多美。臨眺殊復奇。南瞻儲胥觀。西望昆明池。山中咸可悅。賞逐

四時移。春光發。隴首秋風生。桂枝其三多。值息心侶。結架山之足。八解鳴澗流。四禪隱巖曲。窈冥終不見。蕭條無可欲。所願從之遊。寸心於此足。其四君王挺逸趣。羽旄臨崇基。白雲隨玉趾。青霞雜桂旗。淹留訪五藥。顧步佇三芝。於焉仰鑣駕。歲暮以為期。其五

宿東園

沈休文

陳王鬪雞道。安仁采樵路。東郊豈異昔。聊可閑余步。野徑既盤紆。荒阡亦交互。權籬疎復密。荆扉新且故。樹頂鳴風飈。草根積霜露。驚麋去不息。征鳥時相顧。茅棟嘯愁鴟。平岡走寒兔。夕陰帶會阜。長煙引輕素。飛光忽我適。豈止歲云暮。若蒙西山藥。頽齡儻能度。

遊沈道士館

沈休文

秦皇御宇宙。漢帝恢武功。歡娛人事盡。情性猶未充。銳意三山上。託慕九霄中。既表祈年觀。復立望仙宮。寧為心好道。直由意無窮。曰余知止足。是願不須豐。遇可淹留處。便欲息微躬。山嶂遠重疊。竹樹近蒙籠。開衿濯寒水。解帶臨清風。所累非外物。為念在玄空。朋來握石髓。賓至駕輕鴻。都令人徑絕。唯使雲路通。一舉凌倒景。無事適華嵩。寄言賞心客。歲暮爾來同。

古意酬到長史溉登琅邪城

徐敬業

甘泉警烽候。上谷抵樓蘭。此江稱豁險。茲山復鬱盤。表裏窮形勝。襟帶盡巖巒。脩篁壯下屬。危樓峻上干。登陴起遐望。迴首見長安。金溝朝灞澗。甬道入鴛鴦。鮮車騫華轂。汗馬躍銀鞍。少年負壯氣。耿介立衝冠。懷紀燕山石。思開函谷丸。豈如霸上戲。羞取路傍觀。寄言封侯者。數奇良可歎。



文選卷十一終

文選卷十二

詩 丙 詠懷 哀傷 贈答

詠懷詩十七首

阮 嗣 宗

夜中不能寐。起坐彈鳴琴。薄帷鑒明月。清風吹我衿。孤鴻號外野。翔鳥鳴北林。徘徊將何見。憂思獨傷心。

二妃遊江濱。逍遙順風翔。交甫懷環珮。婉孌有芬芳。猗靡情歡愛。千載不相忘。傾城迷下蔡。容好結中腸。感激生憂思。萱草樹蘭房。膏沐爲誰施。其雨怨朝陽。如何金石交。一旦更離傷。

嘉樹下成蹊。東園桃與李。秋風吹飛藿。零落從此始。繁華有憔悴。堂上生荆杞。驅馬舍之去。去上西山趾。一身不自保。何況戀妻子。凝霜被野草。歲暮亦云已。

昔日繁華子。安陵與龍陽。天天桃李花。灼灼有輝光。悅懌若九春。磬折似秋霜。流眄發姿媚。言笑吐芬芳。攜手等歡愛。宿昔同衣裳。願爲雙飛鳥。比翼共翱翔。丹青著明誓。永世不相忘。

天馬出西北。由來從東道。春秋非有託。富貴焉常保。清露被皋蘭。凝霜霑野草。朝爲媚少年。夕暮成醜老。自非王子晉。誰能常美好。

登高臨四野。北望青山阿。松柏翳岡岑。飛鳥鳴相過。感慨懷辛酸。怨毒常苦多。李公悲東門。蘇子狹三河。求仁自得仁。豈復歎咨嗟。

開秋兆涼氣。蟋蟀鳴牀帷。感物懷殷憂。悄悄令心悲。多言焉所告。繁辭將訴誰。微風吹羅袂。明月



耀清暉。晨雞鳴高樹。命駕起旋歸。  
平生少年時。輕薄好絃歌。西游咸陽中。趙李相經過。娛樂未終極。白日忽蹉跎。驅馬復來歸。反顧望三河。黃金百鎰盡。資用常苦多。北臨太行道。失路將如何。昔聞東陵瓜。近在青門外。連畝距阡陌。子母相鉤帶。五色曜朝日。嘉賓四面會。膏火自煎熬。多財為患害。布衣可終身。寵祿豈足賴。步出上東門。北望首陽岑。下有采薇士。上有嘉樹林。良辰在何許。凝霜霑衣襟。寒風振山岡。玄雲起重陰。鳴鴈飛南征。鸚鵡發哀音。素質由商聲。悽愴傷我心。昔年十四五。志尚好書詩。被褐懷珠玉。顏閔相與期。開軒臨四野。登高有所思。丘墓蔽山岡。萬代同一時。千秋萬歲後。榮名安所之。乃悟羨門子。嗷嗷今自嗤。徘徊蓬池上。還顧望太梁。綠水揚洪波。曠野莽茫茫。走獸交橫馳。飛鳥相隨翔。是時鶉火中。日月正相望。朔風厲嚴寒。陰氣下微霜。羈旅無疇匹。俛仰懷哀傷。小人計其功。君子道其常。豈惜終憔悴。詠言著斯章。

炎暑惟茲夏。三旬將欲移。芳樹垂綠葉。清雲自逶迤。四時更代謝。日月遞差馳。徘徊空堂上。切怛莫我知。願觀卒歡好。不見悲別離。灼灼西頰日。餘光照我衣。迴風吹四壁。寒鳥相因依。周周尚銜羽。蛩蛩亦念飢。如何當路子。磬折忘所歸。豈為夸譽名。憔悴使心悲。寧與鷲雀翔。不隨黃鵠飛。黃鵠游四海。中路將安歸。獨坐空堂上。誰可與歡者。出門臨永路。不見行車馬。登高望九州。悠悠分曠野。孤鳥西北飛。離獸東南下。日暮思親友。晤言用自寫。北里多奇舞。濮上有微音。輕薄閑游子。俯仰乍浮沈。捷徑從狹路。僂俛趣荒淫。焉見王子喬。乘雲翔鄧林。獨有延年術。可以慰我心。

湛湛長江水。上有楓樹林。阜蘭被徑路。青驪逝駸駸。遠望令人悲。春氣感我心。三楚多秀士。朝雲進荒淫。朱華振芬芳。高蔡相追尋。一為黃雀哀。涕下誰能禁。

秋懷詩

謝惠連

平生無志意。少小嬰憂患。如何乘苦心。矧復值秋晏。皎皎天月明。奕奕河宿爛。蕭瑟含風蟬。寥唳度雲鴈。寒商動清閨。孤燈曖幽幔。耿介繁慮積。展轉長宵半。夷險難預謀。倚伏昧前算。雖好相如達。不同長卿慢。頗悅鄭生偃。無取白衣宦。未知古人心。且從性所翫。賓至可命觴。朋來當染翰。高臺驟登踐。清淺時陵亂。顏魄不再圓。傾義無兩旦。金石終消毀。丹青豔彫煥。各勉玄髮歡。無貽白首歎。因歌遂成賦。聊用布親串。

臨終詩

歐陽堅石

伯陽適西戎。孔子欲居蠻。苟懷四方志。所在可游盤。況乃遭屯蹇。顛沛遇災患。古人達機兆。策馬游近關。咨余沖且暗。抱責守微官。潛圖密已構。成此禍福端。恢恢六合間。四海一何寬。天網布絃網。投足不獲安。松柏隆冬悴。然後知歲寒。不涉太行險。誰知斯路難。直僞因事顯。人情難豫觀。窮達有定分。慷慨復何歎。上負慈母恩。痛酷摧心肝。下顧所憐女。惻惻心中酸。二子弃若遺。念皆遭凶殘。不惜一身死。惟此如循環。執紙五情塞。揮筆涕洟瀾。

幽憤詩

嵇叔夜

嗟余薄祜。少遭不造。哀哀靡諱。越在襁褓。母兄鞠育。有慈無威。恃愛肆姐。不訓不師。爰及冠帶。憑寵自放。抗心希古。任其所尚。託好老莊。賤物貴身。志在守樸。養素全真。曰余不敏。好善聞人。子玉之敗。屢增惟塵。大人含弘。藏垢懷恥。民之多僻。政不由己。惟此褊心。顯明臧否。感悟思愆。怛若創



瘠欲寡其過。謗議沸騰。性不傷物。頻致怨憎。昔慙柳惠。今愧孫登。內負宿心。外惡良朋。仰慕嚴鄭。樂道閑居。與世無營。神氣晏如。咨予不淑。嬰累多虞。匪降自天。寔由頑疎。理蔽患結。卒致囹圄。對答鄙訊。繫此幽阻。實恥訟寃。時不我與。雖曰義直。神辱志沮。澡身滄浪。豈云能補。噤噤鳴鴈。奮翼北游。順時而動。得意忘憂。嗟我憤歎。曾莫能儔。事與願違。邁茲淹留。窮達有命。亦又何求。古人有言。善莫近名。奉時恭默。咎悔不生。萬石周慎。安親保榮。世務紛紜。祇攪予情。安樂必誠。乃終利貞。煌煌靈芝。一年三秀。予獨何為。有志不就。懲難思復。心焉內疚。庶勗將來。無馨無臭。采薇山阿。散髮巖岫。永嘯長吟。頤性養壽。

七哀詩

曹子建

明月照高樓。流光正徘徊。上有愁思婦。悲歎有餘哀。借問歎者誰。言是宕子妻。君行踰十年。孤妾常獨棲。君若清路塵。妾若濁水泥。浮沈各異勢。會合何時諧。願為西南風。長逝入君懷。君懷良不開。賤妾當何依。

七哀詩二首

王仲宣

西京亂無象。豺虎方遘患。復棄中國去。遠身適荆蠻。親戚對我悲。朋友相追攀。出門無所見。白骨蔽平原。路有飢婦人。抱子棄草間。顧聞號泣聲。揮涕獨不還。未知身死處。何能兩相完。驅馬棄之去。不忍聽此言。南登霸陵岸。迴望長安。悟彼下泉人。喟然傷心肝。

荆蠻非我鄉。何為久滯淫。方舟溯大江。日暮愁我心。山岡有餘暎。巖阿增重陰。狐狸馳赴穴。飛鳥翔故林。流波激清響。猿猴臨岸吟。迅風拂裳袂。白露霑衣襟。獨夜不能寐。攝衣起撫琴。絲桐感人情。為我發悲音。羈旅無終極。憂思壯難任。

七哀詩二首

張孟陽

北芒何壘壘。高陵有四五。借問誰家墳。皆云漢世主。恭文遙相望。原陵鬱臙臙。季世喪亂起。賊盜如豺虎。毀壤過一杯。便房啓幽戶。珠柙離玉體。珍寶見剽虜。園寢化為墟。周墉無遺堵。蒙龍荆棘生。蹊逕登童豎。狐兔窟其中。蕪穢不復掃。頽隴竝壘發。萌隸營農圃。昔為萬乘君。今為丘山土。感彼雍門言。悽愴哀往古。

秋風吐商氣。蕭瑟掃前林。陽鳥收和響。寒蟬無餘音。白露中夜結。木落柯條森。朱光馳北陸。浮景忽西沈。顧望無所見。唯觀松柏陰。肅肅高桐枝。翩翩棲孤禽。仰聽離鴻鳴。俯聞蜻蛚吟。哀人易感傷。觸物增悲心。丘隴日已遠。纏緜彌思深。憂來令髮白。誰云愁可任。徘徊向長風。淚下霑衣襟。

悼亡詩三首

潘安仁

往苒冬春謝。寒暑忽流易。之子歸窮泉。重壤永幽隔。私懷誰克從。淹留亦何益。俛俛恭朝命。迴心反初役。望廬思其人。入室想所歷。幃屏無髣髴。翰墨有餘跡。流芳未及歇。遺挂猶在壁。悵恍如或存。周遑忡警惕。如彼翰林鳥。雙棲一朝隻。如彼游川魚。比目中路析。春風緣隙來。晨雷承簷滴。寢息何時忘。沈憂日盈積。庶幾有時衰。莊舄猶可擊。

皎皎窻中月。照我室南端。清商應秋至。溽暑隨節闌。凜凜涼風升。始覺夏衾單。豈曰無重纊。誰與同歲寒。歲寒無與同。朗月何朧朧。展轉眄枕席。長簟竟牀空。牀空委清塵。室虛來悲風。獨無李氏靈。髣髴覩爾容。撫衿長歎息。不覺涕霑霄。霄霄安能已。悲懷從中起。寢興目存形。遺音猶在耳。上慙東門吳。下愧蒙莊子。賦詩欲言志。此志難具紀。命也可奈何。長戚自令鄙。曜靈運天機。四節代遷逝。淒淒朝露凝。烈烈夕風厲。奈何悼淑儷。儀容永潛翳。念此如昨日。誰知



已卒歲。改服從朝政。衷心寄私制。茵幃張故房。朔望臨爾祭。爾祭詎幾時。朔望忽復盡。衾裳一毀撤。千載不復引。疊疊替月周。戚戚彌相感。悲懷感物來。泣涕應情隕。駕言陟東阜。望墳思紆軫。徘徊墟墓間。欲去復不忍。徘徊不忍去。徒倚步踟躕。落葉委埏側。枯荻帶墳隅。孤魂獨煢煢。安知靈與無。投心遵朝命。揮涕強就車。誰謂帝宮遠。路極悲有餘。

廬陵王墓下作

謝靈運

曉月發雲陽。落日次朱方。含悽泛廣川。灑淚眺連岡。眷言懷君子。沈痛結中腸。道消結憤懣。運開申悲涼。神期恆若存。德音初不忘。徂謝易永久。松柏森已行。延州協心許。楚老惜蘭芳。解劍竟何及。撫墳徒自傷。平生疑若人。通蔽互相妨。理感深情慟。定非識所將。脆促良可哀。天枉特兼常。一隨往化滅。安用空名揚。舉聲泣已灑。長歎不成章。

拜陵廟作

顏延年

周德恭明祀。漢道尊光靈。哀敬隆祖廟。崇樹加園塋。逮事休命始。投迹階王庭。陪廁迴天顧。朝譙流聖情。早服身義重。晚達生戒輕。否來王澤竭。泰往人悔形。勅躬慙積素。復與昌運并。恩合非漸漬。榮會在逢迎。夙御嚴清制。朝駕守禁城。東紳入西寢。伏軫出東坰。衣冠終冥漠。陵邑轉蔥青。松風遵路急。山煙冒壠生。皇心憑容物。民思被歌聲。萬紀載絃吹。千載託旒旌。未殊帝世遠。已同淪化萌。幼壯困孤介。末暮謝幽貞。發軌喪夷易。歸軫慎崎傾。

同謝諮議銅爵臺詩

謝玄暉

總帷飄井幹。樽酒若平生。鬱鬱西陵樹。詎聞歌吹聲。芳襟染淚迹。嬋媛空傷情。玉座猶寂寞。況迺

妾身輕。

出郡傳舍哭范僕射三首

任彥昇

平生禮數絕。式瞻在國楨。一朝萬化盡。猶我故人情。待時屬興運。王佐俟民英。結歡三十載。生死一交情。攜手遁衰孽。接景事休明。運阻衡言革。時泰玉階平。潛沖得茂彥。夫子值狂生。伊人有涇渭。非余揚濁清。將乖不忍別。欲以遣離情。不忍一辰意。千齡萬恨生。其一已矣平生事。詠歌盈篋笥。兼復相嘲謔。常與虛舟值。何時見范侯。還敘平生意。其二與子別幾辰。經塗不盈旬。弗覩朱顏改。徒想平生人。寧知安歌日。非君撤瑟晨。已矣余何歎。輟春哀國均。其三

贈蔡子篤詩

王仲宣

翼翼飛鸞。載飛載東。我友云徂。言戾舊邦。舫舟翩翩。以泝大江。蔚矣荒塗。時行靡通。慨我懷慕。君子所同。悠悠世路。亂離多阻。濟岱江行。邈焉異處。風流雲散。一別如雨。人生實難。願其弗與。瞻望遐路。允企伊佇。烈烈冬日。肅肅淒風。潛鱗在淵。歸鴈載軒。苟非鴻鵬。孰能飛翻。雖則追慕。予思罔宣。瞻望東路。慘愴增歎。率彼江流。爰逝靡期。君子信誓。不遷於時。及子同寮。生死固之。何以贈行。言授斯詩。中心孔悼。涕淚漣漉。嗟爾君子。如何勿思。

贈士孫文始

王仲宣

天降喪亂。靡國不夷。我暨我友。自彼京師。宗守盪失。越用遁違。遷于荆楚。在漳之湄。在漳之湄。亦克宴處。和通簞墳。比德車輔。既度禮義。卒獲笑語。庶茲永日。無讐厥緒。雖曰無讐。時不我已。同心離事。乃有逝止。橫此大江。淹彼南汜。我思弗及。載坐載起。惟彼南汜。君子居之。悠悠我心。薄言慕慕。



之人亦有言。靡詰不思。矧伊孀婉。胡不悽而。晨風夕逝。託與之期。瞻仰王室。慨其永歎。良人在外。誰佐天官。四國方阻。俾爾歸藩。爾之歸藩。作式下國。無曰蠻裔。不虔汝德。慎爾所主。率由嘉則。龍雖勿用。志亦靡忒。悠悠澹澹。鬱彼唐林。雖則同域。邈其迥深。白駒遠志。古人所箴。允矣君子。不遐厥心。既往既來。無密爾音。

贈文叔良

王仲宣

翩翩者鴻。率彼江濱。君子于征。爰聘西鄰。臨此洪渚。伊思梁岷。爾行孔邈。如何勿勤。君子敬始。慎爾所主。謀言必賢。錯說申輔。延陵有作。喬臍是與。先民遺跡。來世之矩。既慎爾主。亦迪知幾。探情以華。親著知微。視明聽聰。靡事不惟。董褐荷名。胡寧不師。衆不可蓋。無尚我言。梧宮致辯。齊楚構患。成功有要。在衆思歡。人之多忌。掩之實難。瞻彼黑水。滔滔其流。江漢有卷。允來厥休。二邦若否。職汝之由。緬彼行人。鮮克弗留。尚哉君子。異于他仇。人誰不勤。無厚我憂。惟詩作贈。敢詠在舟。

贈五官中郎將四首

劉公幹

昔我從元后。整駕至南鄉。過彼豐沛都。與君共翱翔。四節相推斥。季冬風且涼。衆賓會廣座。明鏡耀炎光。清歌製妙聲。萬舞在中堂。金罍含甘醴。羽觴行無方。長夜忘歸來。聊且爲大康。四牡向路馳。歡悅誠未央。

余嬰沈痼疾。竄身清漳濱。自夏涉玄冬。彌曠十餘旬。常恐遊岱宗。不復見故人。所親一何篤。步趾慰我身。清談同日夕。情眇敘憂勤。便復爲別辭。游車歸西鄰。素葉隨風起。廣路揚埃塵。逝者如流水。哀此遂離分。追問何時會。要我以陽春。望慕結不解。貽爾新詩文。勉哉脩令德。北面自寵珍。秋日多悲懷。感慨以長歎。終夜不遑寐。敘意於濡翰。明鏡曜閨中。清風淒已寒。白露塗前庭。應門

重其關。四節相推斥。歲月忽欲殫。壯士遠出征。戎事將獨難。涕泣灑衣裳。能不懷所歡。涼風吹沙礫。霜氣何皚皚。明月照緹幕。華燈散炎輝。賦詩連篇章。極夜不知歸。君侯多壯思。文雅縱橫飛。小臣信頑魯。俛俛安能追。

贈徐幹

劉公幹

誰謂相去遠。隔此西掖垣。拘限清切禁。中情無由宣。思子沈心曲。長歎不能言。起坐失次第。一日三四遷。步出北寺門。遙望西苑園。細柳夾道生。方塘含清源。輕葉隨風轉。飛鳥何翩翩。乖人易感動。涕下與衿連。仰視白日光。噉噉高且懸。兼燭八紘內。物類無頗偏。我獨抱深感。不得與比焉。

贈從弟三首

劉公幹

汎汎東流水。磷磷水中石。蘋藻生其涯。華葉紛擾溺。采之薦宗廟。可以羞嘉客。豈無園中葵。懿此出深澤。亭亭山上松。瑟瑟谷中風。風聲一何盛。松枝一何勁。冰霜正慘悽。終歲常端正。豈不羅凝寒。松柏有本性。鳳凰集南嶽。徘徊孤竹根。於心有不厭。奮翅凌紫氛。豈不常勤苦。羞與黃雀羣。何時當來儀。將須聖明君。

贈徐幹

曹子建

驚風飄白日。忽然歸西山。圓景光未滿。衆星粲以繁。志士營世業。小人亦不閑。聊且夜行游。游彼雙闕間。文昌鬱雲興。迎風高中天。春鳩鳴飛棟。流焱激樞軒。顧念蓬室士。貧賤誠足憐。微藿弗充



虛皮褐猶不全。恍慨有悲心。興文自成篇。實棄怨何人。和氏有其德。彈冠俟知己。知己誰不然。良田無晚歲。膏澤多豐年。亮懷瑛璠美。積久德逾宣。親交義在敦。申章復何言。

贈丁儀

曹子建

初秋涼氣發。庭樹微銷落。凝霜依玉除。清風飄飛閣。朝雲不歸山。霖雨成川澤。黍稷委疇隴。農夫安所獲。在貴多忘賤。為恩誰能博。狐白足禦冬。焉念無衣客。思慕延陵子。寶劍非所惜。子其寧爾心。親交義不薄。

贈王粲

曹子建

端坐苦愁思。攬衣起西游。樹木發春華。清池激長流。中有孤鴛鴦。哀鳴求匹儔。我願執此鳥。惜哉無輕舟。欲歸忘故道。願望但懷愁。悲風鳴我側。義和逝不留。重陰潤萬物。何懼澤不周。誰令君多念。自使懷百憂。

又贈丁儀王粲

曹子建

從軍度函谷。驅馬過西京。山岑高無極。涇渭揚濁清。壯哉帝王居。佳麗殊百城。員闕出浮雲。承露槩泰清。皇佐揚天惠。四海無交兵。權家雖愛勝。全國為令名。君子在末位。不能歌德聲。丁生怨在朝。王子歡自營。歡怨非貞則。中和誠可經。

贈白馬王彪

曹子建

謁帝承明廬。逝將歸舊疆。清晨發皇邑。日夕過首陽。伊洛廣且深。欲濟川無梁。汎舟越洪濤。怨彼

東路長。顧瞻戀城闕。引領情內傷。其一太谷何寥廓。山樹鬱蒼蒼。霖雨泥我塗。流潦浩縱橫。中塗絕無軌。改轍登高岡。脩坂造雲日。我馬玄以黃。其二玄黃猶能進。我思鬱以紆。鬱紆將難進。親愛在離居。本圖相與偕。中更不克俱。鳴臯鳴衡。豺狼當路衢。蒼蠅間白黑。讒巧令親疎。欲還絕無蹊。攬轡止踟躕。其三踟躕亦何留。相思無終極。秋風發微涼。寒蟬鳴我側。原野何蕭條。白日忽西匿。歸鳥赴喬林。翩翩厲羽翼。孤獸走索羣。銜草不遑食。感物傷我懷。撫心長太息。其四太息將何為。天命與我違。奈何念同生。一往形不歸。孤魂翔故域。靈柩寄京師。存者忽復過。亡沒身自衰。人生處一世。去若朝露晞。年在桑榆間。影響不能追。自顧非金石。咄嗟令心悲。其五心悲動我神。棄置莫復陳。丈夫志四海。萬里猶比隣。恩愛苟不虧。在遠分日親。何必同衾幃。然後展殷勤。憂思成疾疢。無乃兒女仁。倉卒骨肉情。能不懷苦辛。其六苦辛何慮思。天命信可疑。虛無求列仙。松子久吾欺。變故在須臾。百年誰能持。離別永無會。執手將何時。王其愛玉體。俱享黃髮期。收淚卽長路。援筆從此辭。其七

贈丁翼

曹子建

嘉賓填城闕。豐膳出中厨。吾與二三子。曲宴此城隅。秦箏發西氣。齊瑟揚東謳。肴來不虛歸。觴至反無餘。我豈狎異人。朋友與我俱。大國多良材。譬海出明珠。君子義休偕。小人德無儲。積善有餘慶。榮枯立可須。滔蕩固大節。時俗多所拘。君子通大道。無願為世儒。

贈秀才入軍五首

嵇叔夜

良馬既閑。麗服有暉。左攬繁弱。右接忘歸。風馳電逝。躡景追飛。凌厲中原。顧盼生姿。攜我好仇。載我輕車。南凌長阜。北厲清渠。仰落驚鴻。俯引淵魚。盤于游田。其樂只且。



輕車迅邁。息彼長林。春木載榮。布葉垂陰。習習谷風。吹我素琴。咬咬黃鳥。顧疇弄音。感悟馳情。思我所欽。心之憂矣。永嘯長吟。浩浩洪流。帶我邦畿。萋萋綠林。奮榮揚暉。魚龍濺灑。山鳥羣飛。駕言出遊。日夕忘歸。思我良朋。如渴如飢。願言不獲。愴矣其悲。息徒蘭圃。秣馬華山。流磻平臯。垂綸長川。目送歸鴻。手揮五絃。俯仰自得。游心太玄。嘉彼釣叟。得魚忘筌。郢人逝矣。誰與盡言。閑夜肅清。朗月照軒。微風動袿。組帳高褰。旨酒盈樽。莫與交歡。鳴琴在御。誰與鼓彈。仰慕同趣。其馨若蘭。佳人不在。能不永歎。

贈山濤

司馬紹統

若若椅桐樹。寄生於南岳。上凌青雲霓。下臨千仞谷。處身孤且危。於何託余足。昔也植朝陽。傾枝俟鸞鷲。今者絕世用。倥偬見迫束。班匠不我顧。牙曠不我錄。焉得成琴瑟。何由揚妙曲。冉冉三光馳。逝者一何速。中夜不能寐。撫劍起躑躅。感彼孔聖歎。哀此年命促。卞和潛幽冥。誰能證奇璞。冀願神龍來。揚光以見燭。

答何劭二首

張茂先

吏道何其迫。窘然坐自拘。纓綬爲徽纆。文憲焉可踰。恬曠苦不足。煩促每有餘。良朋貽新詩。示我以游娛。穆如灑清風。煥若春華敷。自昔同寮案。於今比園廬。衰疾近辱殆。庶幾竝懸輿。散髮重陰下。抱杖臨清渠。屬耳聽鸞鳴。流目翫儻馬。從容養餘日。取樂於桑榆。洪鈞陶萬類。大塊稟羣生。明闇信異姿。靜躁亦殊形。自予及有識。志不在功名。虛恬竊所好。文學

少所經。忝荷既過任。白日已西傾。道長苦智短。責重困才輕。周任有遺規。其言明且清。負乘爲我戒。夕惕坐自驚。是用感嘉貺。寫心出中誠。發篇雖溫麗。無乃違其情。

贈張華

何敬祖

四時更代謝。懸象迭卷舒。暮春忽復來。和風與節俱。俯臨清泉涌。仰觀嘉木敷。周旋我陋圃。西瞻廣武廬。既貴不忘儉。處有能存無。鎮俗在簡約。樹塞焉足摹。在昔同班司。今者竝園墟。私願偕黃髮。逍遙綜琴書。擧爵茂陰下。攜手共躊躇。奚用遺形骸。忘筌在得魚。

贈馮文龍遷斥丘令

陸士衡

於皇聖世。時文惟晉。受命自天。奄有黎獻。闔閭既闢。承華再建。明明在上。有集惟彥。其一奕奕馮生。哲問允迪。天保定子。靡德不鑠。邁心玄曠。矯志崇邈。遵彼承華。其容灼灼。其二嗟我人斯。戢翼江潭。有命集止。翻飛自南。出自幽谷。及爾同林。雙情交映。遺物識心。其三人亦有言。交道實難。有類者弁。千載一彈。今我與子。曠世齊歡。利斷金石。氣惠秋蘭。其四羣黎未綏。帝用勤止。我求明德。肆于百里。僉曰爾諧。俾民是紀。乃眷北徂。對揚帝祉。其五疇昔之游。好合纒緜。借曰未給。亦既三年。居陪華幄。出從朱輪。方驥齊鑣。比迹同塵。其六之子既命。四牡項領。遵塗遠蹈。騰軌高騁。慶雲扶質。清風承景。嗟我懷人。其邁惟永。其七否泰有殊。窮達有違。及子春華。後爾秋暉。逝將去我。陟彼朔陁。非子之念。心孰爲悲。其八

答賈長淵并序

陸士衡

余昔爲太子洗馬。魯公賈長淵以散騎常侍。侍一東宮積年。余出補吳王郎中令。元康六年。入爲



尚書郎魯公贈詩一篇作此詩答之云爾  
伊昔有皇肇濟黎蒸。先天創物。景命是膺。降及羣后。迭毀迭興。邈矣終古。崇替有徵。其一在漢之季。皇綱幅裂。火辰匿暉。金虎曜質。雄臣馳騫。義夫赴節。釋位揮戈。言謀王室。其二王室之亂。靡邦不泯。如彼墜景。曾不可振。乃眷三哲。俾父斯民。啓土雖難。改物承天。其三爰茲有魏。卽宮天邑。吳實龍飛。劉亦岳立。干戈載揚。俎豆載戢。民勞師興。國玩凱入。其四天厭霸德。黃祚告覺。獄訟違魏。謳歌適晉。陳留歸藩。我皇登禪。庸岷稽顙。三江改獻。其五赫矣隆晉。奄宅率土。對揚天人。有秩斯祐。惟公太宰。光翼二祖。誕育洪胃。纂戎于魯。其六東朝既建。淑問峩峩。我求明德。濟同以和。魯公戾止。袞服委蛇。思媚皇儲。高步承華。其七昔我逮茲。時惟下僚。及子棲遲。同林異條。年殊志比。服舛義稠。游跨三春。情固二秋。其八祇承皇命。出納無違。往踐藩朝。來步紫微。升降祕閣。我服載暉。孰云匪懼。仰肅明威。其九分索則易。攜手實難。念昔良游。茲焉永歎。公之云感。貽此音翰。蔚彼高藻。如玉如蘭。其十惟漢有木。曾不踰境。惟南有金。萬邦作詠。民之胥好。狂狷厲聖。儀形在昔。子聞子命。其十一

於承明作與士龍

陸士衡

牽世嬰時網。駕言遠徂征。飲餞豈異族。親戚弟與兄。婉孌居人思。紆鬱游子情。明發遺安寐。寤言涕交纓。分塗長林側。揮袂萬始亭。佇眄要遐景。傾耳玩餘聲。南歸憩永安。北邁頓承明。永安有昨軌。承明子弃予。俯仰悲林薄。慷慨含辛楚。懷往歡絕端。悼來憂成緒。感別慘舒翻。思歸樂遵渚。

贈尚書郎顧彥先二首

陸士衡

大火貞朱光。積陽熙自南。望舒離金虎。屏翳吐重陰。淒風迕時序。苦雨遂成霖。朝游忘輕羽。夕息

憶重衾。感物百憂生。纏繇自相尋。與子隔蕭牆。蕭牆阻且深。形影曠不接。所託聲與音。音聲日夜闊。何用慰吾心。

朝游游會城。夕息旋直廬。迅雷中宵激。驚電光夜舒。玄雲拖朱閣。振風薄綺疏。豐注溢脩雷。潢潦浸階除。停陰結不解。通衢化爲渠。沈稼湮梁穎。流民泝荆徐。眷言懷桑梓。無乃將爲魚。

贈顧交趾公眞

陸士衡

顧侯體明德。清風肅已邁。發迹翼藩后。改授撫南裔。伐鼓五嶺表。揚旌萬里外。遠績不辭小。立德不在大。高山安足凌。巨海猶縈帶。惆悵瞻飛駕。引領望歸旆。

贈從兄車騎

陸士衡

孤獸思故藪。離鳥悲舊林。翩翩游宦子。辛苦誰爲心。髣髴谷水陽。婉孌岷山陰。營魄懷茲土。精爽若飛沈。寤寐靡安豫。願言思所欽。感彼歸塗艱。使我怨慕深。安得忘歸草。言樹背與襟。斯言豈虛作。思鳥有悲音。

答張士然

陸士衡

絜身躋祕閣。祕閣峻且玄。終朝理文案。薄暮不遑眠。駕言巡明祀。致敬在祈年。逍遙春王園。躑躅千畝田。迴渠繞曲陌。通波扶直阡。嘉穀垂重穎。芳樹發華顛。余固水鄉士。摠轡臨清淵。戚戚多遠念。行行遂成篇。

爲顧彥先贈婦二首

陸士衡



辭家遠行游。悠悠三千里。京洛多風塵。素衣化爲緇。脩身悼憂苦。感念同懷子。隆思亂心曲。沈歎滯不起。歡沈難剋興。心亂誰爲理。願假歸鴻翼。翻飛游江汜。

贈馮文巖

陸士衡

昔與二三子。游息承華南。拊翼同枝條。翻飛各異尋。苟無凌風翮。徘徊守故林。慷慨誰爲感。願言懷所欽。發軔清洛汭。驅馬大河陰。佇立望朔塗。悠悠迴且深。分索古所悲。志士多苦心。悲情臨川結。苦言隨風吟。愧無雜佩贈。良訊代兼金。夫子茂遠猷。款誠寄惠音。

贈弟士龍

陸士衡

行矣怨路長。怒焉傷別促。指途悲有餘。臨觴歡不足。我若西流水。子爲東峙岳。慷慨逝言感。徘徊居情育。安得攜手俱。契闊成駢服。

爲賈謐作贈陸機

潘安仁

肇自初創。二儀烟燼。粵有生民。伏羲始君。結繩闡化。八象成文。芒芒九有。區域以分。其一神農更王。軒轅承紀。畫野離疆。爰封衆子。夏殷既襲。宗周繼祀。縣縣瓜瓞。六國互峙。其二彊秦兼并。吞滅四隅。子嬰面櫬。漢祖膺圖。靈獻微弱。在涅則渝。三雄鼎足。孫啓南吳。其三南吳伊何。僭號稱王。大晉統天。仁風遐揚。僞孫銜璧。奉土歸疆。婉婉長離。凌江而翔。其四長離云誰。咨爾陸生。鶴鳴九臯。猶載厥聲。沉迺海隅。播名上京。爰應旌招。撫翼宰庭。其五儲皇之選。實簡惟良。英英朱鸞。來自南

岡。曜藻崇正。玄冕丹裳。如彼蘭蕙。載採其芳。其六藩岳作鎮。輔我京室。旋反桑梓。帝弟作弼。或云國宦。清塗攸失。吾子洗然。恬淡自逸。其七廊廟惟清。俊又是延。擢應嘉舉。自國而遷。齊轡羣龍。光讚納言。優游省闈。珥筆華軒。其八昔余與子。繾綣東朝。雖禮以賓。情同友僚。嬉娛絲竹。撫鞞舞韶。脩日朗月。攜手逍遙。其九自我離羣。二周于今。雖簡其面。分著情深。子其超矣。實慰我心。發言爲詩。俟望好音。其十欲崇其高。必重其層。立德之柄。莫匪安恆。在南稱甘。度北則橙。崇子鋒穎。不頹不崩。其十一

贈陸機出爲吳王郎中令

潘正叔

東南之美。曩惟延州。顯允陸生。於今妙儔。振鱗南海。濯翼清流。婆娑翰林。容與墳丘。其一玉以瑜潤。隋以光融。乃漸上京。羽儀儲宮。玩爾清藻。味爾芳風。泳之彌廣。挹之彌冲。其二崑山何有。有瑤有珉。及爾同僚。具惟近臣。予涉素秋。子登青春。愧無老成。厠彼日新。其三祁祁大邦。惟桑惟梓。穆穆伊人。南國之紀。帝曰爾諧。惟王卿士。俯僂從命。奚恤奚喜。其四我車旣巾。我馬旣秣。星陳夙駕。載脂載轄。婉變二宮。徘徊殿闈。醪澄莫饗。孰慰饑渴。其五昔子忝私。貽我蕙蘭。今子徂東。何以贈旃。寸晷惟寶。豈無瓊璫。彼美陸生。可與晤言。其六

贈河陽

潘正叔

虛生化單父。子奇泣東阿。桐鄉建遺烈。武城播絃歌。逸驥騰夷路。潛龍躍洪波。弱冠步鼎鉉。旣立宰三河。流聲馥秋蘭。擣藻豔春華。徒美天姿茂。豈謂人爵多。

贈侍御史王元貺

潘正叔



崑山積瓊玉。廣廈構衆材。游鱗萃靈沼。撫翼希天階。膏蘭孰爲消。濟治由賢能。王侯厭崇禮。廻迹清憲臺。樓屈固小往。龍翔迺大來。協心毗聖世。畢力讚康哉。

文選卷十一終

文選卷十三

詩 丁 贈答二 行旅上

贈何劭王濟 并序

傅長虞

朗陵公何敬祖。咸之從內兄。國子祭酒王武子。咸從姑之外孫也。竝以明德見重於世。咸親之重之。情猶同生。義則師友。何公既登侍中。武子俄而亦作。二賢相得甚歡。咸亦慶之。然自恨闇劣。雖願其繾綣而從之。末由。歷試無效。且有家艱。心存目替。賦詩申懷。以貽之云爾。  
日光太清。列宿曜紫。微赫赫大晉朝。明明闡皇闈。吾兄既鳳翔。王子亦龍飛。雙鸞游蘭渚。二離揚清暉。攜手升玉階。竝坐侍丹帷。金璫綴惠文。煌煌發令姿。斯榮非攸庶。繾綣情所希。豈不企高蹤。麟趾邈難追。臨川靡芳餌。何爲守空坻。槁葉待風飄。逝將與君違。違君能無戀。尸素當言歸。歸身蓬華廬。樂道以忘飢。進則無云補。退則恤其私。但願隆弘美。王度日清夷。

答 傅 咸

郭 泰 機

皎皎白素絲。織爲寒女衣。寒女雖妙巧。不得秉杼機。天寒知運速。況復鴈南飛。衣工秉刀尺。棄我忽若遺。人不取諸身。世事焉所希。況復已朝餐。曷由知我飢。

爲顧彥先贈婦二首

陸 士 龍



悠悠君行邁。莞莞妾獨止。山河安可踰。永路隔萬里。京室多妖冶。粲粲都人子。雅步擢纖腰。巧笑發皓齒。佳麗良可美。衰賤焉足紀。遠蒙眷顧言。銜恩非望始。浮海難爲水。游林難爲觀。容色貴及時。朝華忌日晏。皎皎彼姝子。灼灼懷春粲。西城善雅舞。摠章饒清彈。鳴簧發丹脣。朱紘繞素腕。輕裾猶電揮。雙袂如霧散。華容溢藻幄。哀響入雲漢。知音世所希。非君誰能讚。棄置北辰星。問此玄龍煥。時暮復何言。華落理必賤。

答兄機

陸士龍

悠遠塗可極。別促怨會長。銜思戀行邁。興言在臨觴。南津有絕濟。北渚無河梁。神往同逝感。形留悲參商。衡軌若殊迹。牽牛非服箱。

答張士然

陸士龍

行邁越長川。飄飄冒風塵。通波激枉渚。悲風薄丘榛。脩路無窮迹。并邑自相循。百城各異俗。千室非良隣。歡舊難假合。風土豈虛親。感念桑梓域。髣髴眼中人。靡靡日夜遠。眷眷懷苦辛。

答盧諶并序

劉越石

現頓首。捐書及詩。備辛酸之苦言。暢經通之遠旨。執玩反覆。不能釋手。慨然以悲。歡然以喜。昔在少壯。未嘗檢括。遠慕老莊之齊物。近嘉阮生之放曠。怪厚薄何從而生。哀樂何由而至。自頃輻張。困於逆亂。國破家亡。親友彫殘。塊然獨坐。則哀憤兩集。負杖行吟。則百憂俱至。時復相與舉觴對膝。破涕爲笑。排終身之積慘。求數刻之暫歡。譬由疾疢彌年。而欲一丸銷之。其可得乎。夫才生於世。世實須才。和氏之璧。焉得獨曜於郢握。夜光之珠。何得專玩於隨掌。天下之寶。固當與天下共。

之。但分析之日。不能不悵恨爾。然後知聃周之爲虛誕。嗣宗之爲妄作也。昔騷驥倚轡於吳阪。鳴於良樂。知與不知也。百里奚愚於虞。而智於秦。遇與不遇也。今君遇之矣。曷之而已。不復屬意於文。二十餘年矣。久廢則無次。想必欲其一反。故稱指送一篇。適足以彰來詩之益美耳。現頓首頓首。

厄運初遘。陽爻在六。乾象棟傾。坤儀舟覆。橫厲糾紛。羣妖競逐。火燎神州。洪流華域。彼黍離離。彼稷育育。哀我皇晉。痛在心目。其一天地無心。萬物同塗。禍淫莫驗。福善則虛。逆有全邑。義無完都。英藥夏落。毒卉冬敷。如彼龜玉。韞積毀諸。芻狗之談。其最得乎。其二咨余軟弱。弗克負荷。愆釁仍彰。榮寵屢加。威之不建。禍延凶播。忠隕于國。孝愆于家。斯罪之積。如彼山河。斯釁之深。終莫能磨。其三郁穆舊姻。嬾婉新婚。不慮其敗。唯義是敦。裹糧攜弱。匍匐星奔。未輟爾駕。已隳我門。二族偕覆。三孽竝根。長慙舊孤。永負冤魂。其四亭亭孤幹。獨生無伴。綠葉繁縟。柔條脩罕。朝採爾實。夕捋爾竿。竿翠豐尋。逸珠盈椀。寔消我憂。憂急用緩。逝將去矣。庭虛情滿。其五虛滿伊何。蘭桂移植。茂彼春林。瘁此秋棘。有鳥翻飛。不遑休息。匪桐不棲。匪竹不食。永戢東羽。翰撫西翼。我之敬之。廢歡輟職。其六音以賞奏。味以殊珍。文以明言。言以暢神。之子之往。四美不臻。澄醪覆觴。絲竹生塵。素卷莫啓。幄無談賓。既孤我德。又闕我鄰。其七光光段生。出幽遷喬。資忠履信。武烈文昭。旌弓駢駢。輿馬翹翹。乃奮長塵。是轡是鑣。何以贈子。竭心公朝。何以敘懷。引領長謠。其八

重贈盧諶

劉越石

答贈詩

握中有懸璧。本自荆山璆。惟彼太公望。昔在渭濱叟。鄧生何感激。千里來相求。白登幸曲逆。鴻門賴留侯。重耳任五賢。小白相射鉤。苟能隆二伯。安問黨與讐。中夜撫枕歎。想與數子游。吾衰久矣夫。何其不夢周。誰云聖達節。知命故不憂。宣尼悲獲麟。西狩涕孔丘。功業未及建。夕陽忽西流。時



哉不我與去乎若雲浮朱實隕勁風繁英落素秋狹路傾華蓋駭駟摧雙轡何意百鍊剛化爲繞指柔

贈劉琨并書

盧子諒

故吏從事中郎盧諒死罪死罪諒稟性短弱當世罕任因其自然用安靜退在木闕不材之資處鴈乏善鳴之分卷異遽子愚殊寤生匠者時呵不免饜賓嘗自思惟因緣運會得蒙接事自奉清塵于今五稔諒明之效不著候人之譏已彰大雅含弘量苞山藪加以待接彌優款眷逾昵與運籌之謀則謙私之歡綢繆之旨有同骨肉其爲知己古人罔喻昔聶政殉嚴遂之願荆軻慕燕丹之義意氣之間糜軀不悔雖微達節謂之可庶然苟曰有情孰能不懷故委身之日夷險已之事與願違當忝外役遂去左右收迹府朝蓋本同末異楊朱與哀始素終玄墨翟垂涕分乖之際咸可歎慨致感之途或迫于茲亦奚必臨路而後長號觀絲而後歔歔哉是以仰惟先情俯覽今遇感存念亡觸物增眷易曰書不盡言言不盡意然則書非盡言之器言非盡意之具矣況言有不得至於盡意書有不得至於盡言耶不勝猥瀆謹貢詩一篇抑不足以揄揚弘美亦以攄其所抱而已若公肆大惠遂其厚恩錫以咳唾之音慰其違離之意則所謂成池酬於北里夜光報於魚目諒之願也非所敢望也諒死罪死罪

濬哲惟皇紹熙有晉振厥弛維光闡遠韻有來斯雍至止伊順三台摛朗四岳增峻其一伊陟佐商山甫翼周弘濟艱難對揚王休苟非異德曠世同流加其忠貞宣其徽猷其二伊諒陋宗昔邁嘉惠申以婚姻著以累世義等休戚好同興廢孰云匪諧如樂之契其三王室喪師私門播遷望公歸之視險忽艱茲願不遂中路阻顛仰悲先意俯思身愆其四大鈞載運良辰遂往瞻彼日月迅過俯仰感今惟昔口存心想借曰如昨忽爲疇曩其五疇曩伊何逝者彌疎溫溫恭人慎終如

初覽彼遺音恤此窮孤譬彼樛木蔓葛以敷其六妙哉蔓葛得託樛木葉不雲布華不星燭承俸卞和質非荆璞眷同尤良用乏驥驟其七承亦既篤眷亦既親飾獎駑猥方駕駿珍詞諧靡成良謨莫陳無覬狐趙有與五臣其八五臣爰與契闊百罹身經險阻足蹈幽遐義由恩深分隨昵加綢繆委心自同匪他其九昔在暇日妙尋通理尤彼意氣狹是節士情以體生感以情起趣舍同要窮達斯已其十由余片言秦人是憚日碑效忠飛聲有漢桓桓撫軍古賢作冠來牧幽都濟厥途炭其十一塗炭既濟寇挫民阜謬其疲隸授之朝右任大下欣施厚實祇高明敢忘所守其十二相彼反哺尚在翔禽孰是人斯而忍斯心每憑山海庶覲高深遐眺存亡緬成飛沈其十三長徽已纓逝將徒舉收跡西踐銜哀東顧曷云塗遼曾不咫尺豈不夙夜謂行多露其十四縣縣女蘿施于松標稟澤洪幹晞陽豐條根淺難固莖弱易彫操彼織質承此衝飈其十五織質寔微衝飈斯值誰謂言精致在賞意不見得魚亦忘厥餌遺其形骸寄之深識其十六先民頤意潛山隱几仰熙丹崖俯深綠水無求於和自附衆美慷慨遐蹤有愧高旨其十七爰造異論肝膽楚越惟同大觀萬塗一轍死生既齊榮辱奚別處其玄根廓焉靡結其十八福爲禍始禍作福階天地盈虛寒暑周迴夫差不祀覺在勝齊句踐作伯祚自會稽其十九邈矣達度唯道是杖形有未泰神無不暢如川之流如淵之量上弘棟隆下塞民望其二十

贈崔溫

盧子諒

逍遙步城隅暇日聊游豫北眺沙漠垂南望舊京路平陸引長流岡巒挺茂樹中原厲迅飈山阿起雲霧游子恆悲懷舉目增永慕良儔不獲偕舒情將焉訴遠念賢士風遂存往古務朔鄙多俠氣豈唯地所固李牧鎮邊城荒夷懷南懼趙奢正疆場秦人折北慮羈旅及寬政委質與時遇恨以驚蹇姿徒煩非子御亦既弛負擔忝位宰黔庶苟云免罪戾何暇收民譽倪寬以殿黜終乃最



衆賦何武不赫赫遺愛常在去古人非所希短弱自有素何以敷斯辭惟以二子故

答魏子悌

盧子諒

崇臺非一幹珍裘非一腋多士成大業羣賢濟弘績遇蒙時來會聊齊朝彥跡顧此腹背羽愧彼排虛翮寄身蔭四岳託好憑三益傾蓋雖終朝大分邁疇昔在危每同險處安不異易俱涉晉昌艱共更飛狐厄恩由契闊生義隨周旋積豈謂鄉曲譽謬充本州役乖離令我感悲欣使情惕理以精神通匪曰形骸隔妙詩申篤好清義貫幽蹟恨無隨侯珠以酬荆文璧

答靈運

謝宣遠

夕霽風氣涼閑房有餘清開軒滅華燭月露皓已盈獨夜無物役寢者亦云寧忽獲愁霖唱懷勞奏所誠歎彼行旅艱深茲眷言情伊余雖寡慰殷憂暫爲輕牽率酬嘉藻長揖愧吾生

於安城答靈運

謝宣遠

條繁林彌蔚波清源逾濬華宗誕吾秀之子紹前胤綢繆結風徽烟燼吐芳訊鴻漸隨事變靈臺與年峻其一華萼相光飾嚶鳴悅同響親子敦余賢賢吾爾賞比景後鮮輝方年一日長萎葉愛榮條涸流好河廣其二殉業謝成操復禮愧貧樂幸會果代耕符守江南曲履運傷荏苒遵塗歎緬邈布懷存所欽我勞一何篤其三肇允雖同規翻飛各異槩迢遞封畿外窈窕承明內尋塗塗既睽卽理理已對絲路有恆悲矧迺在吾愛其四跬行安步武鍛翻周數仞豈不識高遠遠方往有吝歲寒霜雪嚴過半路逾峻量已畏友朋勇退不敢進行矣勵令猷寫誠酬來訊其五

西陵遇風獻康樂

謝惠連

我行指孟春春仲尚未發趣途遠有期念離情無歇成裝候良辰漾舟陶嘉月瞻塗意少悰還顧情多闕其一哲兄感化別相送越桐林飲饒野亭館分袂澄湖陰悽悽留子言眷眷浮客心廻塘隱鱸棹遠望絕形音其二靡靡卽長路戚戚抱遙悲悲遙但自弭路長當語誰行行道轉遠去去情彌遲昨發浦陽汭今宿浙江湄其三屯雲蔽曾嶺驚風涌飛流零雨潤墳澤落雪灑林丘浮氛晦崖巘積素惑原疇曲汜薄停旅通川絕行舟其四臨津不得濟佇楫阻風波蕭條洲渚際氣色少諧和西瞻與游歎東睇起悽歌積憤成疢痍無萱將如何其五

還舊園作見顏范二中書

謝靈運

辭滿豈多秩謝病不待年偶與張邴合久欲還東山聖靈昔廻眷微尚不及宣何意衝飈激烈火縱炎煙焚玉發岷峯餘燎遂見遷投沙理既迫如叩願亦愆長與歡愛別永絕平生緣浮舟千仞壑摠轡萬尋巔流沫不足險石林豈爲艱閩中安可處日夜念歸旋事蹟兩如直心慚三避賢託身青雲上栖巖挹飛泉盛明盪氛昏貞休康屯遘殊方成成貸微物豫采甄感深操不固質弱易板纏曾是反昔園語往實款然曩基卽先築故池不更穿果木有舊行壤石無遠延雖非休憩地聊取永日閑衛生自有經息陰謝所牽夫子照情素探懷授往篇

登臨海嶠初發疆中作與從弟惠連可見羊何共和之

謝靈運

杪秋尋遠山山遠行不近與子別山阿含酸赴修吟中流袂就判欲去情不忍願望脰未悃汀曲



舟已隱。隱汀絕望。舟驚棹逐。驚流欲抑。一生歡并。奔千里游。日落當棲薄。繫纜臨江樓。豈惟夕情  
斂。憶爾共淹留。淹留昔時歡。復增今日歎。茲情已分慮。況乃協悲端。秋泉鳴北澗。哀猿響南巒。戚  
戚新別心。悽悽久念攢。攢念攻別心。旦發青谿陰。暝投剡中宿。明登天姥岑。高高入雲霓。還期那  
可尋。儻遇浮丘公。長絕子微音。

酬從弟惠連

謝靈運

寢瘵謝人徒。滅迹入雲峯。巖壑寓耳目。歡愛隔音容。永絕賞心望。長懷莫與同。末路值令弟。開顏  
披心胷。其一心胷既云披。意得咸在斯。凌澗尋我室。散帙問所知。夕慮曉月流。朝忌曠日馳。悟對  
無厭歇。聚散成分離。其二分離別西川。迴景歸東山。別時悲已甚。別後情更延。傾想遲嘉音。果枉  
濟江篇。辛勤風波事。款曲洲渚言。其三洲渚既淹時。風波子行遲。務協華京想。詎存空谷期。猶復  
惠來章。祇足攬余思。黨若果歸言。共陶暮春時。其四暮春雖未交。仲春善遊遨。山桃發紅萼。野蕨  
漸紫苞。嚶鳴已悅豫。幽居猶鬱陶。夢寐佇歸舟。釋我吝與勞。其五

贈王太常

顏延年

玉水記方流。璇源載圓折。蓄寶每希聲。雖祕猶彰徹。聆龍際九淵。聞鳳窺丹穴。歷聽豈多士。唯然  
觀時哲。舒文廣國華。敷言遠朝列。德輝灼邦懋。芳風被鄉壘。側同幽人居。郊扉常晝閉。林閭時晏  
開。亟迴長者轍。庭昏見野陰。山明望松雪。靜惟澹羣化。徂生入窮節。豫往誠歡歇。悲來非樂闕。屬  
美謝繁翰。遙懷具短札。

夏夜呈從兄散騎車長沙

顏延年

炎天方埃鬱。暑晏闕塵紛。獨靜闕偶坐。臨堂對星分。側聽風薄木。遙睇月開雲。夜蟬當夏急。陰蟲  
先秋聞。歲候初過半。荃蕙豈久芬。屏居側物變。慕類抱情殷。九逝非空忘。七襄無成文。

直東宮答鄭尚書

顏延年

皇居體環極。設險祇天工。兩闈阻通軌。對禁限清風。跋子旅東館。徒歌屬南塘。寢興鬱無已。起觀  
辰漢中。流雲藹青闕。皓月鑒丹宮。踟躕清防密。徙倚恆漏窮。君子吐芳訊。感物惻余衷。惜無丘園  
秀。景行彼高松。知言有誠貫。美價難克充。何以銘嘉貺。言樹絲與桐。

和謝監靈運

顏延年

弱植慕端操。窘步懼先迷。寡立非擇方。刻意藉窮棲。伊昔邁多幸。秉筆侍兩闈。雖慙丹牖施。未謂  
玄素睽。徒遭良時諒。王道奄昏霾。人神幽明絕。朋好雲雨乖。弔屈汀洲浦。謁帝蒼山蹊。倚巖聽緒  
風。攀林結留萋。跋子問衡嶠。曷月瞻秦稽。皇聖昭天德。豐澤振沈泥。惜無雀雉化。何用充海淮。去  
國還故里。幽門樹蓬藜。采茨葺昔宇。翦棘開舊畦。物謝時既晏。年往志不偕。親仁敷情昵。興玩究  
辭悽。芬馥歇蘭若。清越奪琳珪。盡言非報章。聊用布所懷。

答顏延年

王僧達

長卿冠華陽。仲連擅海陰。珪璋既文府。精理亦道心。君子聳高駕。塵軌實爲林。崇情符遠迹。清氣  
溢素襟。結游略年義。篤顧棄浮沈。寒榮共偃曝。春醞時獻樹。聿來歲序暄。輕雲出東岑。麥蘆多秀  
色。楊園流好音。歡此乘日暇。忽忘逝景侵。幽衷何用慰。翰墨久謠吟。棲鳳難爲條。淑貺非所臨。誦  
以永周旋。匣以代兼金。



郡內高齋閑坐答呂法曹

謝玄暉

結構何迢遞。曠望極高深。窗中列遠岫。庭際俯喬林。日出衆鳥散。山暝孤猿吟。已有池上酌。復此風中琴。非君子無度。孰爲勞寸心。惠而能好我。問以瑤華音。若遺金門步。見就玉山岑。

在郡臥病呈沈尚書

謝玄暉

淮陽股肱守。高臥猶在茲。況復南山曲。何異幽棲時。連陰盛農節。簞笠聚東菑。高閣常晝掩。荒階少諍辭。珍簟清夏室。輕扇動涼颺。嘉魴聊可薦。綠蟻方獨持。夏李沈朱實。秋藕折輕絲。良辰竟何許。夙昔夢佳期。坐嘯徒可積。爲邦歲已暮。絃歌終莫取。撫机令自嗤。

暫使下都夜發新林至京邑贈西府同僚

謝玄暉

大江流日夜。客心悲未央。徒念關山近。終知返路長。秋河曙耿耿。寒渚夜蒼蒼。引領見京室。宮雉正相望。金波麗鳩鵲。玉繩低建章。驅車鼎門外。思見昭丘陽。馳暉不可接。何況隔兩鄉。風雲有鳥路。江漢限無梁。常恐鷹隼擊。時菊委嚴霜。寄言屬羅者。寥廓已高翔。

酬王晉安

謝玄暉

稍稍枝早勁。塗塗露晚晞。南中榮橘柚。寧知鴻鴈飛。拂霧朝青閣。日旰坐彤闈。悵望一塗阻。參差百慮依。春草秋更綠。公子未西歸。誰能久京洛。緇塵染素衣。

奉答內兄希叔

陸韓卿

嘉惠承帝子。躡履奉王孫。屬叨金馬署。又點銅龍門。出入平津邸。一見孟嘗尊。歸來翳桑柘。朝夕異涼溫。其一殂落固云是。寂農終如斯。杜門清三徑。坐檻臨曲池。鳧鶴嘯儔侶。荷芰始參差。雖無田田葉。及爾汎漣漪。其二春華與秋實。庶子及家臣。王門所以貴。自古多俊民。離宮收杞梓。華屋富徐陳。平旦上林苑。日入伊水濱。其三書記既翩翩。賦歌能妙絕。相如惡溫麗。子雲慙筆札。駿足思長阪。柴車畏危轍。愧茲山陽讌。空此河陽別。其四平原十日飲。中散千里遊。渤海方淫滯。宣城誰獻酬。屏居南山下。臨此歲方秋。惜哉時不與。日暮無輕舟。其五

贈張徐州謨

范彥龍

田家樵採去。薄暮方來歸。還聞稚子說。有客款柴扉。僕從皆珠玳。裘馬悉輕肥。軒蓋照墟落。傳瑞生光輝。疑是徐方牧。既是復疑非。思舊昔言有。此道今已微。物情棄疵賤。何獨顧衡闈。恨不具雞黍。得與故人揮。懷情徒草草。淚下空霏霏。寄書雲間鴈。爲我西北飛。

古意贈王中書

范彥龍

攝官青瑣闥。遙望鳳皇池。誰云相去遠。脈脈阻光儀。岱山饒靈異。沂水富英奇。逸翮陵北海。搏飛出南皮。遭逢聖明后。來棲桐樹枝。竹花何莫莫。桐葉何離離。可棲復可食。此外亦何爲。豈知鷓鴣者。一粒有餘貲。

贈郭桐廬出谿口見候余既未至郭仍進村維舟久之



朝發富春渚。蓄意忍相思。派令行春返。冠蓋溢川坻。望久方來萃。悲歡不自持。滄江路窮此。湍險方自茲。疊嶂易成響。重以夜猿悲。客心幸自弭。中道遇心期。親好自斯絕。孤游從此辭。

郭生方至

任彥昇

河陽縣作二首

潘安仁

微身輕蟬翼。弱冠忝嘉招。在疚妨賢路。再升上宰朝。猥荷公叔舉。連陪王寮。長嘯歸東山。擁耒耨時苗。幽谷茂纖葛。峻巖敷榮條。落英隕林趾。飛莖秀陵喬。卑高亦何常。升降在一朝。徒恨良時泰。小人道遂消。譬如野田蓬。翰流隨風飄。昔倦都邑游。今掌河朔僑。登城眷南顧。凱風揚微綃。洪流何浩蕩。脩芒鬱岩峩。誰謂晉京遠。室邇身實遼。誰謂邑宰輕。令名惠不徠。人生天地間。百年孰能要。頽如稿石火。譬若截道颺。齊都無遺聲。桐鄉有餘謠。福謙在純約。害盈由矜驕。雖無君人德。視民庶不忒。日夕陰雲起。登城望洪河。川氣冒山嶺。驚湍激巖阿。歸鴈映蘭時。游魚動圓波。鳴蟬厲寒音。時菊耀秋華。引領望京室。南路在伐柯。大厦無覲崇。芒鬱嗟峨。揔摠都邑人。擾擾俗化訛。依水類浮萍。寄松似懸蘿。朱博糾舒慢。楚風被琅邪。曲蓬何以直。託身依叢麻。黔黎竟何常。政成在民和。位同單父邑。愧無子賤歌。豈敢陋微官。但恐忝所荷。

在懷縣作二首

潘安仁

南陸迎修景。朱明送末垂。初伏啓新節。隆暑方赫羲。朝想慶雲興。夕遲白日移。揮汗辭中宇。登城臨清池。涼飈自遠集。輕襟隨風吹。靈圃耀華果。通衢列高椅。瓜瓞蔓長苞。薑芋紛廣畦。稻栽肅仟仟。黍苗何離離。虛薄乏時用。位微名日卑。驅役宰兩邑。政績竟無施。自我違京輦。四載迄于斯。器

非廊廟姿。屢出固其宜。徒懷越鳥志。眷戀想南枝。

春秋代遷逝。四運紛可喜。寵辱易不驚。戀本難為思。我來冰未泮。時暑忽隆熾。感此還期淹。歎彼年往駛。登城望郊甸。游日歷朝寺。小國寡民務。終日寂無事。白水過庭激。綠槐夾門植。信美非吾土。祇攪懷歸志。眷然願鞏洛。山川邈離異。願言旋舊鄉。畏此簡書忌。祇奉社稷守。恪居處職司。

迎大駕

潘正叔

南山鬱岑峯。洛川迅且急。青松蔭修嶺。綠蘂被廣隰。朝日順長塗。夕暮無所集。歸雲乘幘浮。淺風尋帷入。道逢深識士。舉手對吾揖。世故尚未夷。峭函方峻澁。狐狸夾兩轅。豺狼當路立。翔鳳嬰籠檻。騏驥見維繫。俎豆昔常聞。軍旅素未習。且少停君駕。徐待干戈戢。

赴洛詩二首

陸士衡

希世無高符。營道無烈心。靖端肅有命。假檝越江潭。親友贈予邁。揮淚廣川陰。撫膺解攜手。永歎結遺音。無迹有所匿。寂漠聲必沈。肆目眇不及。緬然若雙潛。南望泣玄渚。北邁涉長林。谷風拂修薄。油雲翳高岑。疊疊孤獸騁。嚶嚶思鳥吟。感物戀堂室。離思一何深。佇立愴我歎。寤寐涕盈衿。惜無懷歸志。辛苦誰為心。

羈旅遠游宦。託身承華側。撫劍遵銅輦。振纓盡祗肅。歲月一何易。寒暑忽已革。載離多悲心。感物情悽惻。慷慨遺安愈。永歎廢餐食。思樂樂難誘。日歸歸未克。憂苦欲何為。纏緜曾與臆。仰瞻陵霄鳥。羨爾歸飛翼。

赴洛道中作二首

陸士衡



摠轡登長路。嗚咽辭密親。借問子何之。世網嬰我身。永歎遵北渚。遺思結南津。行行遂已遠。野途曠無人。山澤紛紆餘。林薄杳阡眠。虎嘯深谷底。雞鳴高樹巔。哀風中夜流。孤獸更我前。悲情觸物感。沈思鬱纏綿。佇立望故鄉。顧影悽自憐。遠游越山川。山川修且廣。振策陟崇丘。案轡遵平莽。夕息抱影寐。朝徂銜思往。頓轡倚嵩巖。側聽悲風響。清露墜素輝。明月一何朗。撫几不能寐。振衣獨長想。

吳王郎中時從梁陳作

陸士衡

在昔蒙嘉運。矯迹入崇賢。假翼鳴鳳條。濯足升龍淵。玄冕無醜士。治服使我妍。輕劍拂鞞厲。長纓麗且鮮。誰謂伏事淺。契闊踰三年。薄言肅後命。改服就藩臣。夙駕尋清軌。遠游越梁陳。感物多遠念。慷慨懷古人。

始作鎮軍參軍經曲阿作

陶淵明

弱齡寄事外。委懷在琴書。被褐欣自得。屢空常晏如。時來苟宜會。宛轡憩通衢。投策命晨旅。暫與園田疎。眇眇孤舟逝。緜緜歸思紆。我行豈不遙。登降千里餘。目倦修塗異。心念山澤居。望雲慙高鳥。臨水愧遊魚。真想初在衿。誰謂形迹拘。聊且憑化遷。終反班生廬。

辛丑歲七月赴假還江陵夜行塗口作陶淵明

閑居三十載。遂與塵事冥。詩書敦宿好。林園無世情。如何舍此去。遙遙至西荆。叩棧親月船。臨流別友生。涼風起將夕。夜景湛虛明。昭昭天宇闊。皛皛川上平。懷役不遑寐。中宵尙孤征。商歌非吾事。依依在耦耕。投冠旋舊墟。不為好爵榮。養真衡茅下。庶以善自名。

永初三年七月十六日之郡初發都謝靈運

述職期闕暑。理棹變金素。秋岸澄夕陰。火旻團朝露。辛苦誰為情。遊子值頽暮。愛似莊念昔。久敬會存故。如何懷土心。持此謝遠度。李牧愧長袖。郗克慙躡步。良時不見遺。醜狀不成惡。曰余亦支離。依方早有慕。生幸休明世。親蒙英達顧。空班趙氏璧。徒乖魏王瓠。從來漸二紀。始得傍歸路。將窮山海迹。永絕賞心悟。

過始寧墅

謝靈運

束髮懷耿介。逐物遂推遷。遠志似如昨。二紀及茲年。緇磷謝清曠。疲薈慙貞堅。拙疾相倚薄。還得靜者便。剖竹守滄海。枉帆過舊山。山行窮登頓。水涉盡洄沿。巖峭嶺稠疊。洲縈渚連綿。白雲抱幽石。綠篠媚清漣。蒼宇臨迴江。築觀基曾巔。揮手告鄉曲。三載期歸旋。且為樹粉檟。無令孤願言。

富春渚

謝靈運

宵濟漁浦潭。旦及富春郭。定山緬雲霧。赤亭無淹薄。溯流觸驚急。臨圻阻參錯。亮乏伯昏分。險過呂梁壑。洊至宜便習。兼山貴止託。平生協幽期。淪躋困微弱。久露千祿請。始果遠遊諾。宿心漸申寫。萬事俱零落。懷抱既昭曠。外物徒龍蠖。

七里瀨

謝靈運

羈心積秋晨。晨積展遊眺。孤客傷逝湍。徒旅苦奔峭。石淺水潺湲。日落山照曜。荒林紛沃若。哀禽相叫嘯。遭物悼遷斥。存期得要妙。既秉上皇心。豈屑末代諂。目觀嚴子瀨。想屬任公鈞。誰謂古今



殊異代可同調。

登江中孤嶼

謝靈運

江南倦歷覽。江北曠周旋。懷雜道轉迴。尋異景不延。亂流趨正絕。孤嶼媚中川。雲日相輝映。空水共澄鮮。表靈物莫賞。蘊真誰爲傳。想像崑山姿。緬邈區中緣。始信安期術。得盡養生年。

初去郡

謝靈運

彭薛裁知恥。貢公未遺榮。或可優貪競。豈足稱達生。伊予秉微尚。拙訥謝浮名。廬園當栖巖。卑位代躬耕。顧己雖自許。心迹猶未并。無庸妨周任。有疾像長卿。畢娶類尚子。薄游似邴生。恭承古人意。促裝返柴荆。牽絲及元興。解龜在景平。負心二十載。於今廢將迎。理棹過還期。遵渚驚修坰。遡谿終水涉。登嶺始山行。野曠沙岸淨。天高秋月明。憇石挹飛泉。攀林零落英。戰勝臞者肥。止鑿流歸停。卽是羲唐化。獲我擊壤聲。

初發石首城

謝靈運

白珪尙可磨。斯言易爲緇。雖抱中孚爻。猶勞貝錦詩。寸心若不亮。微命察如絲。日月垂光景。成貸遂兼茲。出宿薄京畿。晨裝搏曾颺。重經平生別。再與朋知辭。故山日已遠。風波豈還時。迢迢萬里帆。茫茫終何之。游當羅浮行。息必廬霍期。越海陵三山。游湘歷九嶷。欽聖若旦暮。懷賢亦悽其。皎明發心不爲歲寒欺。

道路憶山中

謝靈運

采菱調易急。江南歌不緩。楚人心昔絕。越客腸今斷。斷絕雖殊念。俱爲歸慮款。存鄉爾思積。憶山我憤懣。追尋栖息時。偃臥任縱誕。得性非外求。自己爲誰纂。不怨秋夕長。恆苦夏日短。濯流激浮湍。息陰倚密竿。懷故叵新歡。含悲忘春暝。悽悽明月吹。惻惻廣陵散。殷勤訴危柱。慷慨命促管。

入彭蠡湖口作

謝靈運

客游倦水宿。風潮難具論。洲島驟迴合。圻岸屢崩奔。乘月聽哀狖。浥露馥芳蓀。春晚綠野秀。巖高白雲屯。千念集日夜。萬感盈朝昏。攀崖照石鏡。牽葉入松門。三江事多往。九派理空存。靈物豈珍怪。異人祕精魂。金膏滅明光。水碧綴流溫。徒作千里曲。絃絕念彌敦。

入華子崗是麻源第三谷

謝靈運

南州實炎德。桂樹陵寒山。銅陵映碧澗。石磴瀉紅泉。旣枉隱淪客。亦棲肥遁賢。險徑無測度。天路非術阡。遂登羣峯首。邈若升雲煙。羽人絕髣髴。丹丘徒空筌。圖牒復摩滅。碑版誰聞傳。莫辨百世後。安知千載前。且申獨往意。乘月弄潺湲。恆充俄頃用。豈爲古今然。

文選卷十三終



文選卷十四

詩 戊行旅下 軍戎 郊廟 樂府 挽歌 雜歌

北使洛

顏延年

改服飭徒旅。首路踰險巖。振楫發吳洲。秣馬陵楚山。塗出梁宋郊。道由周鄭間。前登陽城路。日夕望三川。在昔輟期運。經始闢聖賢。伊瀨絕津濟。臺館無尺椽。宮陛多巢穴。城闕生雲煙。王猷升八表。嗟行方暮年。陰風振涼野。飛雲翳窮天。臨塗未及引。置酒慘無言。隱憫徒御悲。威遲良馬煩。遊役去芳時。歸來屢徂魯。蓬心既已矣。飛薄殊亦然。

還至梁城作

顏延年

眇默軌路長。憔悴征戍勤。昔邁先徂師。今來後歸軍。振策瞻東路。傾側不及羣。息徒顧將夕。極望梁陳分。故國多喬木。空城凝寒雲。丘隴填郭郭。銘誌滅無文。木石局幽闔。黍苗延高墳。惟彼雍門子。吁嗟孟嘗君。愚賤同埋滅。尊貴誰獨聞。曷爲久游客。憂念坐自殷。

始安郡還都與張湘州登巴陵城樓作 顏延年

江漢分楚望。衡巫奠南服。三湘淪洞庭。七澤藹荆牧。經塗延舊軌。登闔訪川陸。水國周地險。河山信重複。却倚雲夢林。前瞻京臺囿。清秀霽岳陽。曾暉薄瀾澳。悽矣自遠風。傷哉千里目。萬古陳往

還百代勞起伏。存沒竟何人。炯介在明淑。請從上世人。歸來薺桑竹。

還都道中作

鮑明遠

昨夜宿南陵。今旦入蘆洲。客行惜日月。崩波不可留。侵星赴早路。畢景逐前儔。鱗鱗夕雲起。獵獵晚風遒。騰沙鬱黃霧。翻浪揚白鷗。登艫眺淮甸。掩泣望荆流。絕目盡平原。時見遠煙浮。倏悲坐還合。俄思甚兼秋。未嘗違戶庭。安能千里游。誰令乏古節。貽此越鄉憂。

之宣城出新林浦向版橋

謝玄暉

江路西南永。歸流東北鶩。天際識歸舟。雲中辨江樹。旅思倦搖搖。孤游昔已屢。既懽懷祿情。復協滄洲趣。羈塵自茲隔。賞心於此遇。雖無玄豹姿。終隱南山霧。

敬亭山

謝玄暉

茲山互百里。合沓與雲齊。隱淪既已託。靈異居然棲。上干蔽白日。下屬帶迴谿。交藤荒且蔓。樛枝聳復低。獨鶴方朝唳。饑鶻此夜啼。溼雲已漫漫。多雨亦凄凄。我行雖紆組。兼得尋幽蹊。綠源殊未極。歸徑宵如迷。要欲追奇趣。卽此陵丹梯。皇恩竟已矣。茲理庶無睽。

休沐重還道中

謝玄暉

薄游第從告。思閑願罷歸。還叩歌賦似。休汝車騎非。灞池不可別。伊川難重違。汀葭稍靡靡。江萑復依依。田鶴遠相叫。沙鷁忽爭飛。雲端楚山見。林表吳岫微。試與征徒望。鄉淚盡霑衣。賴此盈罇酌。含景望芳菲。問我勞何事。霑沐仰清徽。志狹輕軒冕。恩甚戀重闈。歲華春有酒。初服偃郊扉。



晚登三山還望京邑

謝玄暉

灞浹望長安。河陽視京縣。白日麗飛甍。參差皆可見。餘霞散成綺。澄江靜如練。喧鳥覆春洲。雜英

京路夜發

謝玄暉

擾擾整夜裝。肅肅戒徂兩。曉星正寥落。晨光復泱泱。猶霑餘露團。稍見朝霞上。故鄉邈已復。山川

望荆山

江文通

奉義至江漢。始知楚塞長。南關繞桐栢。西岳出魯陽。寒郊無留影。秋日懸清光。悲風繞重林。雲霞

旦發漁浦潭

丘希範

漁潭霧未開。赤亭風已颺。權歌發中流。鳴鞞響沓障。村童忽相聚。野老時一望。詭怪石異象。嶄絕

早發定山

沈休文

夙齡愛遠壑。晚泄見奇山。標峯綵虹外。置嶺白雲間。傾壁忽斜豎。絕頂復孤圓。歸海流漫漫。出浦

水濺濺。野棠開未落。山櫻發欲然。忘歸屬蘭杜。懷祿寄芳荃。眷言採三秀。徘徊望九仙。

新安江水至清淺深見底。貽京邑游好。沈休文

眷言訪舟客。茲川信可珍。洞澈隨深淺。皎鏡無冬春。千仞寫喬樹。百丈見游鱗。滄浪有時濁。清濟

從軍詩五首

王仲宣

從軍有苦樂。但問所從誰。所從神且武。焉得久勞師。相公征關右。赫怒震天威。一舉滅孺虜。再舉

涼風厲秋節。司典告詳刑。我君順時發。桓桓東南征。汎舟蓋長川。陳卒被隰坰。征夫懷親戚。誰能



舉勳籌策運帷幄。一由我聖君。恨我無時謀。譬諸具官臣。鞠躬中堅內。微畫無所陳。許歷爲完士。一言猶敗秦。我有素餐責。誠愧伐檀人。雖無鉛刀用。庶幾奮薄身。悠悠涉荒路。靡靡我心愁。四望無煙火。但見林與丘。城郭生榛棘。蹊徑無所由。菑蒲竟廣澤。葭葦夾長流。日夕涼風發。翩翩漂吾舟。寒蟬在樹鳴。鶴鵠摩天游。客子多悲傷。淚下不可收。朝入譙郡界。曠然消人憂。雞鳴達四境。黍稷盈原疇。館宅充鄴里。士女滿莊廬。自非聖賢國。誰能享斯休。詩人美樂土。雖客猶願留。

宋郊祀歌二首

顏延年

寅威寶命。嚴恭帝祖。炳海表岱。系唐胄楚。靈監睿文。民屬睿武。奄受敷錫。宅中拓宇。互地稱皇。罄天作主。月竊來賓。日際奉土。開元首正。禮交樂舉。六典聯事。九官列序。有牲在滌。有絜在俎。以薦王衷。以答神祐。維聖饗帝。維孝饗親。皇乎備矣。有事上春。禮行宗祀。敬達郊禋。金枝中樹。廣樂四陳。陟配在京。降德在民。奔精昭夜。高燎煬晨。陰明浮燦。沈滢深淪。告成大報。受釐元神。月御案節。星驅扶輪。遙輿遠駕。曜曜振振。

樂府四首

古辭

飲馬長城窟行

青青河畔草。絲絲思遠道。遠道不可思。夙昔夢見之。夢見在我傍。忽覺在他鄉。他鄉各異縣。展轉不可見。枯桑知天風。海水知天寒。入門各自媚。誰肯相爲言。客從遠方來。遺我雙鯉魚。呼兒烹鯉魚。中有尺素書。長跪讀素書。書中竟何如。上有加餐食。下有長相憶。

君子行

君子防未然。不處嫌疑間。瓜田不納履。李下不正冠。嫂叔不親授。長幼不比肩。勞謙得其柄。和光甚獨難。周公下白屋。吐哺不及餐。一沐三握髮。後世稱聖賢。

傷歌行

昭昭素明月。暉光燭我牀。憂人不能寐。耿耿夜何長。微風吹闥闥。羅帷自飄颻。攬衣曳長帶。屣履下高堂。東安所之。徘徊以彷徨。春鳥翻南飛。翩翩獨翱翔。悲聲命儔匹。哀鳴傷我腸。感物懷所思。泣涕忽霑裳。佇立吐高吟。舒憤訴穹蒼。

長歌行

青青園中葵。朝露待日晞。陽春布德澤。萬物生光輝。常恐秋節至。焜黃華葉衰。百川東到海。何時復西歸。少壯不努力。老大徒傷悲。

怨歌行

班婕妤好

新裂齊紈素。鮮潔如霜雪。裁成合歡扇。團團似明月。出入君懷袖。動搖微風發。常恐秋節至。涼颺奪炎熱。弃捐篋笥中。恩情中道絕。

樂府二一首

魏武帝

短歌行

對酒當歌。人生幾何。譬如朝露。去日苦多。慨當以慷。憂思難忘。何以解憂。唯有杜康。青青子衿。悠悠我心。但爲君故。沈吟至今。呦呦鹿鳴。食野之苹。我有嘉賓。鼓瑟吹笙。明明如月。何時可掇。憂從



中來不可斷絕。越陌度阡。枉用相存。契闊談讌。心念舊恩。月明星希。烏鵲南飛。繞樹三匝。何枝可  
依。山不厭高。海不厭深。周公吐哺。天下歸心。

苦寒行

北上太行山。艱哉何巍巍。羊腸阪詰屈。車輪爲之摧。樹木何蕭索。北風聲正悲。熊羆對我蹲。虎豹  
夾路啼。谿谷少人民。雪落何霏霏。延頸長歎息。遠行多所懷。我心何怫鬱。思欲一東歸。水深橋梁  
絕。中道正徘徊。迷惑失故路。薄暮無宿栖。行行日已遠。人馬同時饑。擔囊行取薪。斧冰持作糜。悲  
彼東山詩。悠悠使我哀。

樂府二一首

魏文帝

善哉行

上山采薇。薄暮苦饑。谿谷多風。霜露沾衣。野雉羣雌。猴猿相追。還望故鄉。鬱何壘壘。高山有崖。林  
木有枝。憂來無方。人莫之知。人生如寄。多憂何爲。今我不樂。日月如馳。湯湯川流。中有行舟。隨波  
轉薄。有似客遊。策我良馬。被我輕裘。載馳載驅。聊以忘憂。

燕歌行

秋風蕭瑟。天氣涼。草木搖落。露爲霜。羣鸞辭歸。鴈南翔。念君客遊。思斷腸。慊慊思歸戀。故鄉何爲  
淹留。寄他方。賤妾擎擎。守空房。憂來思君不敢忘。不覺淚下霑衣裳。援琴鳴絃。發清商。短歌微吟  
不能長。明月皎皎照我牀。星漢西流。夜未央。牽牛織女遙相望。爾獨何辜。恨河梁。

樂府詩四首

曹子建

琴瑟引

置酒高殿上。親友從我遊。中厨辦豐膳。烹羊宰肥牛。秦箏何慷慨。齊瑟和且柔。陽阿奏奇舞。京洛  
出名謳。樂飲過三爵。緩帶傾庶羞。主稱千金壽。賓奉萬年酬。久要不可忘。薄終義所尤。謙謙君子  
德。磬折欲何求。驚風飄白日。光景馳西流。盛時不可再。百年忽我遒。生在華屋處。零落歸山丘。先  
民誰不死。知命復何憂。

名都篇

名都多妖女。京洛出少年。寶劍直千金。被服麗且鮮。鬪雞東郊道。走馬長楸間。馳騁未能半。雙兔  
過我前。攬弓捷鳴鏑。長驅上南山。左挽因右發。一縱兩禽連。餘巧未及展。仰手接飛鸞。觀者咸稱  
善。衆工歸我妍。歸來宴平樂。美酒斗十千。膾鯉膾胎鰕。炮鼈炙熊蹯。鳴鶴儔。匹侶列坐竟長筵。連  
翩擊鞠壤。巧捷惟萬端。白日西南馳。光景不可攀。雲散還城邑。清晨復來還。

美女篇

美女妖且閑。采桑岐路間。柔條紛冉冉。葉落何翩翩。攘袖見素手。皓腕約金環。頭上金爵釵。腰佩  
翠琅玕。明珠交玉體。珊瑚間木難。羅衣何飄颻。輕裾隨風還。顧盼遺光彩。長嘯氣若蘭。行徒用息  
駕。休者以忘餐。借問女安居。乃在城南端。青樓臨大路。高門結重關。容華耀朝日。誰不希令顏。媒  
氏何所營。玉帛不時安。佳人慕高義。求賢良獨難。衆人徒嗷嗷。安知彼所觀。盛年處房室。中夜起  
長歎。



白馬篇

白馬飾金羈。連翩西北馳。借問誰家子。幽并遊俠兒。少小去鄉邑。揚聲沙漠垂。宿昔乘良弓。楛矢何參差。控弦破左的。右發摧月支。仰手接飛猱。俯身散馬蹄。狡捷過猴猿。勇剽若豹螭。邊城多警急。虜騎數遷移。羽檄從北來。厲馬登高隄。長驅蹈匈奴。左顧陵鮮卑。弃身鋒刃端。性命安可懷。父母且不顧。何言子與妻。名編壯士籍。不得中顧私。捐軀赴國難。視死忽如歸。

王明君辭 并序

石季倫

王明君者。本是王昭君。以觸文帝諱。改之。匈奴盛請婚於漢。元帝以後宮良家子昭君配焉。昔公主嫁烏孫。令琵琶馬上作樂。以慰其道路之思。其送明君。亦必爾也。其造新曲。多哀怨之聲。故敍之於紙云爾。

我本漢家子。將適單于庭。辭訣未及終。前驅已抗旌。僕御涕流離。轅馬悲且鳴。哀鬱傷五內。泣淚霑珠纓。行行日已遠。遂造匈奴城。延我於穹廬。加我闕氏名。殊類非所安。雖貴非所榮。父子見陵辱。對之慙且驚。殺身良不易。默默以苟生。苟生亦何聊。積思常憤盈。願假飛鴻翼。乘之以遐征。飛鴻不我顧。佇立以屏營。昔爲匣中玉。今爲糞上英。朝華不足歡。甘與秋草并。傳語後世人。遠嫁難爲情。

樂府詩十七首

陸士衡

猛虎行

渴不飲盜泉水。熱不息惡木陰。惡木豈無枝。志士多苦心。整駕肅時命。杖策將遠尋。饑食猛虎窟。寒栖野雀林。日歸功未建。時往歲載陰。崇雲臨岸駭。鳴條隨風吟。靜言幽谷底。長嘯高山岑。急絃無懦響。亮節難爲音。人生誠未易。曷云開此衿。眷我耿介懷。俯仰愧古今。

君子行

天道夷且簡。人道嶮而難。休咎相乘躡。翻覆若波瀾。去疾苦不遠。疑似實生患。近火固宜熱。履冰豈惡寒。撥蜂滅天道。拾塵惑孔顏。逐臣尙何有。弃友焉足歎。福鍾恆有兆。禍集非無端。天損未易辭。人益猶可懼。朗鑒豈遠假。取之在傾冠。近情苦自信。君子防未然。

從軍行

苦哉遠征人。飄飄窮四遐。南陟五嶺巔。北戍長城阿。深谷邈無底。崇山鬱嵯峨。奮臂攀喬木。振迹涉流沙。隆暑固已慘。涼風嚴且苛。夏條焦漢。寒冰結衝波。胡馬如雲屯。越旗亦星羅。飛鋒無絕影。鳴鏑自相和。朝食不免胄。夕息常負戈。苦哉遠征人。撫心悲如何。

豫章行

汎舟清山渚。遙望高山陰。川陸殊途軌。懿親將遠尋。三荆歡同株。四鳥悲異林。樂會良自古。悼別豈獨今。寄世將幾何。日昃無停陰。前路既已多。後塗隨年侵。促促薄暮景。躑躅鮮克禁。曷爲復以茲。曾是懷苦心。遠節嬰物淺。近情能不深。行矣保嘉福。景絕繼以音。

苦寒行



北游幽朔城。涼野多嶮難。俯入穹谷底。仰陟高山盤。凝冰結重澗。積雪被長巒。陰雲巖側。悲風鳴樹端。不覩白日景。但聞寒鳥喧。猛虎憑林嘯。玄猿臨岸歎。夕宿喬木下。慘愴恆鮮歡。渴飲堅冰漿。饑待零露餐。離思固已久。寤寐莫與言。劇哉行役人。慊慊恆苦寒。

飲馬長城窟行

驅馬陟陰山。山高馬不前。往問陰山候。勁虜在燕然。戎車無停軌。旌旆屢徂遷。仰憑積雪巖。俯涉堅冰川。冬來秋未反。去家邈以懸。獫狁亮未夷。征人豈徒旋。末德爭先鳴。凶器無兩全。師克薄賞行。軍沒微軀捐。將遵甘陳迹。收功單于旃。振旅勞歸士。受爵稟街傳。

門有車馬客行

門有車馬客。駕言發故鄉。念君久不歸。濡跡涉江湖。投袂赴門塗。攬衣不及裳。撫膺攜客泣。掩淚敘溫涼。借問邦族間。惻愴論存亡。親友多零落。舊齒皆凋喪。市朝互遷易。城闕或丘荒。墳壟日月多。松柏鬱芒芒。天道信崇替。人生安得長。慷慨惟平生。俛仰獨悲傷。

君子有所思行

命駕登北山。延佇望城郭。塵里一何盛。街巷紛漠漠。甲第崇高闈。洞房結阿閣。曲池何湛湛。清川帶華薄。邃宇列綺窻。蘭室接羅幕。淑貌色斯升。哀音承顏作。人生誠行邁。容華隨年落。善哉膏粱士。營生與且博。宴安消靈根。醜毒不可恪。無以肉食資。取笑葵與藿。

齊謳行

營丘負海曲。沃野爽且平。洪川控河濟。崇山入高冥。東被姑尤側。南界聊攝城。海物錯萬類。陸產尚千名。孟諸吞楚夢。百二倖秦京。惟師恢東表。桓后定周傾。天道有迭代。人道無久盈。鄙哉牛山歎。未及至人情。爽鳩苟已徂。吾子安得停。行行將復去。長存非所營。

日出東南隅行

或曰羅敷豔歌

扶桑升朝暉。照此高臺端。高臺多妖麗。潘房出清顏。淑貌耀皎日。惠心清且閑。美目揚玉澤。蛾眉象翠翰。鮮膚一何潤。秀色若可餐。窈窕多容儀。婉媚巧笑言。暮春春服成。粲粲綺與紈。金雀垂藻翹。瓊珮結瑤璠。方駕揚清塵。濯足洛水瀾。藹藹風雲會。佳人一何繁。南崖充羅幕。北渚盈軒軒。清川含藻景。高崖被華丹。馥馥芳袖揮。泠泠纖指彈。悲歌吐清響。雅舞播幽蘭。丹脣含九秋。妍迹陵七盤。赴曲迅驚鴻。蹈節如集鸞。綺態隨顏變。沈姿無乏源。俯仰紛阿那。顧步咸可憐。遺芳結飛颺。浮景映清湍。冶容不足詠。春游良可歎。

長安有狹邪行

伊洛有岐路。岐路交朱輪。輕蓋承華景。騰步躡飛塵。鳴玉豈樸儒。憑軾皆俊民。烈心厲勁秋。麗服鮮芳春。余本倦游客。豪彥多舊親。傾蓋承芳訊。欲鳴當及晨。守一不足矜。岐路良可遵。規行無曠迹。矩步豈逮人。投足緒已爾。四時不必循。將遂殊塗軌。要子同歸津。

前緩聲歌



游仙聚靈族。高會曾城阿。長風萬里舉。慶雲鬱嵯峨。虛妃興洛浦。王韓起太華。北徵瑤臺女。南要湘川娥。肅肅霄駕動。翩翩翠蓋羅。羽旗棲瓊鬢。玉衡吐鳴和。太容揮高紘。洪崖發清歌。獻酬既已周。輕舉乘紫霞。摠轡扶桑枝。濯足湯谷波。清輝溢天門。垂慶惠皇家。

長歌行

逝矣經天日。悲哉帶地川。寸陰無停晷。尺波豈徒旋。年往迅勁矢。時來亮急弦。遠期鮮克及。盈數固希全。容華夙夜零。體澤坐自捐。茲物苟難停。吾壽安得延。俛仰逝將過。倏忽幾何間。慷慨亦焉訴。天道良自然。但恨功名薄。竹帛無所宣。迨及歲未暮。長歌承我閑。

吳趨行

楚妃且勿歎。齊娥且莫謳。四坐竝清聽。聽我歌吳趨。吳趨自有始。請從昌門起。昌門何嵯峨。飛閣跨通波。重巒承游極。回軒啓曲阿。藹藹慶雲被。泠泠祥風過。山澤多藏育。土風清且嘉。泰伯導仁風。仲雍揚其波。穆穆延陵子。灼灼光諸華。王迹隕陽九。帝功興四遐。大皇自富春。矯手頓世羅。邦彥應運興。祭若春林葩。屬城咸有士。吳邑最爲多。八族未足侈。四姓實名家。文德熙淳懿。武功侔山河。禮讓何濟濟。流化自滂沱。淑美難窮紀。商榷爲此歌。

塘上行

江籬生幽渚。微芳不足宣。被蒙風雲會。移居華池邊。發藻玉臺下。垂影滄浪泉。沾潤既已渥。結根與且堅。四節逝不處。華繁難久鮮。淑氣與時殞。餘芳隨風捐。天道有遷易。人理無常全。男儻智傾愚。女愛衰避妍。不惜微軀退。但懼蒼蠅前。願君廣末光。照妾薄暮年。

悲哉行

游客芳春林。春芳傷客心。和風飛清響。鮮雲垂薄陰。蕙草饒淑氣。時鳥多好音。翩翩鳴鳩羽。啾啾倉庚音。幽蘭盈通谷。長秀被高岑。女蘿亦有託。蔓葛亦有尋。傷哉遊客士。憂思一何深。目感隨氣草。耳悲詠時禽。寤寐多遠念。緬然若飛沈。願託歸風響。寄言遺所欽。

短歌行

置酒高堂。悲歌臨觴。人壽幾何。逝如朝霜。時無重至。華不再陽。蘋以春暉。蘭以秋芳。來日苦短。去日苦長。今我不樂。蟋蟀在房。樂以會興。悲以別章。豈曰無感。憂爲子忘。我酒既旨。我看既滅。短歌有詠。長夜無荒。

樂府詩

會吟行

六引緩清唱。三調佇繁音。列筵皆靜寂。咸共聆會吟。會吟自有初。請從文命敷。敷績壺冀始。刊木至江汜。列宿炳天文。負海橫地理。連峯競千仞。背流各百里。滂池溉粳稻。輕雲曖松杞。兩京愧佳麗。三都豈能似。層臺指中天。高墉積崇雉。飛燕躍廣途。鷁首戲清沚。肆呈窈窕容。路曜便娟子。自來彌年代。賢達不可紀。勾踐善廢興。越叟識行止。范蠡出江湖。梅福入城市。東方就旅逸。梁鴻去桑梓。牽綴書土風。辭殫意未已。

謝靈運



樂府詩八首

鮑明遠

東武吟

主人且勿諠。賤子歌一言。僕本寒鄉士。出身蒙漢恩。始隨張校尉。占募到河源。後逐李輕車。追虜窮塞垣。密塗互萬里。寧歲猶七奔。肌力盡鞍甲。心思歷涼溫。將軍既下世。部曲亦罕存。時事一朝異。孤績誰復論。少壯辭家去。窮老還入門。腰鎌刈葵藿。倚杖收雞豚。昔如韝上鷹。今似檻中猿。徒結千載恨。空負百年怨。弃席思君幄。疲馬戀君軒。願垂晉主惠。不愧田子魂。

出自薊北門行

羽檄起邊亭。烽火入咸陽。徵騎屯廣武。分兵救朔方。嚴秋筋竿勁。虜陣精且彊。天子按劍怒。使者遙相望。鴈行緣石徑。魚貫度飛梁。簫鼓流漢思。旌甲被胡霜。疾風衝塞起。沙礫自飄揚。馬毛縮如蝟。角弓不可張。時危見臣節。世亂識忠良。投軀報明主。身死爲國殤。

結客少年場行

驄馬金絡頭。錦帶佩吳鉤。失意杯酒間。白刃起相讐。追兵一旦至。負劍遠行遊。去鄉三十載。復得還舊丘。升高臨四關。表裏望皇州。九塗平若水。雙闕似雲浮。扶宮羅將相。夾道列王侯。日中市朝滿。車馬若川流。擊鐘陳鼎食。方駕自相求。今我獨何爲。拍壤懷百憂。

東門行

傷禽惡弦驚。倦客惡離聲。離聲斷客情。賓御皆涕零。涕零心斷絕。將去復還訣。一息不相知。何況異鄉別。遙遙征駕遠。杳杳落日晚。居人掩閨臥。行子夜中飯。野風吹秋木。行子心腸斷。食梅常苦酸。衣葛常苦寒。絲竹徒滿坐。憂人不解顏。長歌欲自慰。彌起長恨端。

苦熱行

赤阪橫西阻。火山赫南威。身熱頭且痛。鳥墮魂來歸。湯泉發雲潭。焦煙起石圻。日月有恆昏。雨露未常晞。丹蛇踰百尺。玄蜂盈十圍。含沙射流影。吹蠱痛行暉。障氣晝熏體。茵露夜沾衣。饑餒莫下食。晨禽不敢飛。毒涇尚多死。渡瀘寧具腓。生軀蹈死地。昌志登禍機。戈船榮既薄。伏波賞亦微。爵輕君尚惜。士重安可希。

白頭吟

直如朱絲繩。清如玉壺冰。何慙宿昔意。猜恨坐相仍。人情賤恩舊。世議逐衰興。毫髮一爲瑕。丘山不可勝。食苗實碩鼠。玷白信蒼蠅。鳧鶴遠成美。薪芻前見陵。申黜褒女進。班去趙姬昇。周王日淪惑。漢帝益嗟稱。心賞猶難恃。貌恭豈易憑。古來共如此。非君獨撫膺。

放歌行

蓼蟲避葵藿。習苦不言非。小人自齷齪。安知曠士懷。雞鳴洛城裏。禁門平旦開。冠蓋縱橫至。車騎四方來。素帶曳長飈。華纓結遠埃。日中安能止。鐘鳴猶未歸。夷世不可逢。賢君信愛才。明慮自天斷。不受外嫌猜。一言分珪爵。片善辭草萊。豈伊白璧賜。將起黃金臺。今君有何疾。臨路獨遲迴。



升天行

家世宅關輔。勝帶官王城。備聞十帝事。委曲兩都情。倦見物興衰。驟視俗屯平。翩翻類迴掌。恍惚似朝榮。窮塗悔短計。晚志重長生。從師入遠岳。結友事仙靈。五圖發金記。九籥隱丹經。風餐委松宿。雲臥恣天行。冠霞登綵閣。解玉飲椒庭。豐游越萬里。近別數千齡。鳳臺無還駕。簫管有遺聲。何時與爾曹。啄腐共吞腥。

鼓吹曲

謝玄暉

江南佳麗地。金陵帝王州。逶迤帶淶水。迢遞起朱樓。飛甍夾馳道。垂楊蔭御溝。凝笳翼高蓋。疊鼓送華輜。獻納雲臺表。功名良可收。

挽歌詩

繆熙伯

生時游國都。死沒奔中野。朝發高堂上。暮宿黃泉下。白日入虞淵。懸車息駟馬。造化雖神明。安能復存我。形容稍歇滅。齒髮行當墮。自古皆有然。誰能離此者。

挽歌詩三首

陸士衡

卜擇考休貞。嘉命咸在茲。夙駕警徒御。結轡頓重基。龍輅被廣柳。前驅矯輕旗。殯宮何嘈嘈。哀響沸中闈。中闈且勿謹。聽我薤露詩。死生各異倫。祖載當有時。舍爵兩楹位。啓殯進靈輜。飲餞觴莫舉。出宿歸無期。帷衽曠遺影。棟宇與子辭。周親咸奔湊。友朋自遠來。翼翼飛輕軒。駸駸策素騏。按轡遵長薄。送子長夜臺。呼子子不聞。泣子子不知。歎息重欄側。念我疇昔時。三秋猶足收。萬世安

可思。殉沒身易亡。殺子非所能。含言言哽咽。揮涕涕流離。

流離親友思。惆悵神不泰。素驂佇輻軒。玄駟驚飛蓋。哀鳴與殯宮。迴遲悲野外。魂輿寂無響。但見冠與帶。備物象平生。長旌誰為旆。悲風徽行軌。傾雲結流藹。振策指靈丘。駕言從此逝。

重阜何崔嵬。玄廬竄其間。旁薄立四極。穹隆放蒼天。側聽陰溝涌。臥觀天井懸。廣宵何寥廓。大暮安可晨。人往有反歲。我行無歸年。昔居四民宅。今託萬鬼隣。昔為七尺軀。今成灰與塵。金玉素所佩。鴻毛今不振。豐肌饜螻蟻。妍骸永夷泯。壽堂延螭魅。虛無自相賓。螻蟻爾何怨。螭魅我何親。拊心痛荼毒。永歎莫為陳。

挽歌詩

陶淵明

荒草何茫茫。白楊亦蕭蕭。嚴霜九月中。送我出遠郊。四面無人居。高墳正嵯峨。馬為仰天鳴。風為自蕭條。幽室一已閉。千年不復朝。千年不復朝。賢達無奈何。向來相送人。各已歸其家。親戚或餘悲。他人亦已歌。死去何所道。託體同山阿。

雜歌

荆軻歌并序

燕太子丹使荆軻刺秦王。丹祖送於易水上。高漸離擊筑。荆軻歌。宋如意和之。曰：風蕭蕭兮易水寒。壯士一去兮不復還。

漢高祖歌并序

高祖還過沛。留置酒沛宮。悉召故人父老子弟佐酒。發沛中兒得百二十人。教之歌。酒酣。上擊筑



自歌曰。  
大風起兮雲飛揚。威加海內兮歸故鄉。安得猛士兮守四方。

扶風歌

劉越石

朝發廣莫門。暮宿丹水山。左手彎繁弱。右手揮龍淵。顧瞻望宮闕。俯仰御飛軒。據鞍長歎息。淚下如流泉。繫馬長松下。發鞍高岳頭。烈烈悲風起。泠泠澗水流。揮手長相謝。哽咽不能言。浮雲爲我結。歸鳥爲我旋。去家日已遠。安知存與亡。慷慨窮林中。抱膝獨摧藏。麋鹿遊我前。猿猴戲我側。資糧既乏盡。薇蕨安可食。攬轡命徒侶。吟嘯絕巖中。君子道微矣。夫子故有窮。惟昔李騫期。寄在匈奴庭。忠信反獲罪。漢武不見明。我欲競此曲。此曲悲且長。弃置勿重陳。重陳令心傷。

中山王孺子妾歌

陸韓卿

如姬寢臥內。班婕坐同車。洪波陪飲帳。林光宴秦餘。歲暮寒飈及。秋水落芙蓉。子瑕矯後駕。安陵泣前魚。賤妾終已矣。君子定焉如。

文選卷十四終

文選卷十五

詩已雜詩

古詩十九首

行行重行行。與君生別離。相去萬餘里。各在天一涯。道路阻且長。會面安可知。胡馬依北風。越鳥巢南枝。相去日已遠。衣帶日已緩。浮雲蔽白日。游子不顧返。思君令人老。歲月忽已晚。棄捐勿復道。努力加餐飯。青青河畔草。鬱鬱園中柳。盈盈樓上女。皎皎當窗牖。娥娥紅粉粧。織織出素手。昔爲倡家女。今爲蕩子婦。蕩子行不歸。空牀難獨守。青青陵上柏。磊磊澗中石。人生天地間。忽如遠行客。斗酒相娛樂。聊厚不爲薄。驅車駕馬。游戲宛與洛。洛中何鬱鬱。冠帶自相索。長衢羅夾巷。王侯多第宅。兩宮遙相望。雙闕百餘尺。極宴娛心意。戚戚何所迫。今日良宴會。歡樂難具陳。彈箏奮逸響。新聲妙入神。令德唱高言。誠曲聽其真。齊心同所願。含意俱未申。人生寄一世。奄忽若飈塵。何不策高足。先據要路津。無爲守窮賤。轍軻長苦辛。西北有高樓。上與浮雲齊。交疏結綺窗。阿閣三重階。上有絃歌聲。音響一何悲。誰能爲此曲。無乃杞梁妻。清商隨風發。中曲正徘徊。一彈再三歎。慷慨有餘哀。不惜歌者苦。但傷知音稀。願爲雙鳴鶴。奮翅起高飛。涉江采芙蓉。蘭澤多芳草。采之欲遺誰。所思在遠道。還顧望舊鄉。長路漫浩浩。同心而離居。憂傷以終老。明月皎夜光。促織鳴東壁。玉衡指孟冬。衆星何歷歷。白露霑野草。時節忽復易。秋蟬鳴樹間。玄鳥逝安適。昔我同門友。高舉振六翮。不念攜手好。棄我如遺跡。南箕北有斗。牽牛不負軛。良無磐石固。虛名復何益。冉冉孤生



竹結根泰山阿。與君爲新婚。兔絲附女蘿。兔絲生有時。夫婦會有宜。千里遠結婚。悠悠隔山陂。思君令人老。軒車來何遲。傷彼蕙蘭花。含英揚光輝。過時而不采。將隨秋草萎。君亮執高節。賤妾亦何爲。庭中有奇樹。綠葉發華滋。攀條折其榮。將以遺所思。馨香盈懷袖。路遠莫致之。此物何足貴。但感別經時。迢迢牽牛星。皎皎河漢女。織纖擢素手。札札弄機杼。終日不成章。泣涕零如雨。河漢清且淺。相去復幾許。盈盈一水間。脈脈不得語。迴車駕言邁。悠悠涉長道。四顧何茫茫。東風搖百草。所遇無故物。焉得不速老。盛衰各有時。立身苦不早。人生非金石。豈能長壽考。奄忽隨物化。榮名以爲寶。東城高且長。委迤自相屬。迴風動地起。秋草萋已綠。四時更變化。歲暮一何速。晨風懷苦心。蟋蟀傷局促。蕩滌放情志。何爲自結束。燕趙多佳人。美者顏如玉。被服羅裳衣。當戶理清曲。音響一何悲。絃急知柱促。馳情整巾帶。沈吟聊躑躅。思爲雙飛燕。銜泥巢君屋。驅車上東門。遙望郭北墓。白楊何蕭蕭。松柏夾廣路。下有陳死人。杳杳卽長暮。潛寐黃泉下。千載永不寤。浩浩陰陽移。年命如朝露。人生忽如寄。壽無金石固。萬歲更相送。聖賢莫能度。服食求神仙。多爲藥所誤。不如飲美酒。被服紈與素。去者日以疎。生者日以親。出郭門直視。但見丘與墳。古墓犁爲田。松柏摧爲薪。白楊多悲風。蕭蕭愁殺人。思還故里閭。欲歸道無因。生年不滿百。常懷千歲憂。晝短苦夜長。何不秉燭遊。爲樂當及時。何能待來茲。愚者愛惜費。但爲後世嗤。仙人王子喬。難可與等期。凜凜歲云暮。螻蛄夕鳴悲。涼風率已厲。游子寒無衣。錦衾遺洛浦。同袍與我違。獨宿累長夜。夢想見容輝。良人惟古懼。枉駕惠前綏。願得常巧笑。攜手同車歸。既來不須臾。又不處重闈。亮無晨風翼。焉能凌風飛。眈眈以適意。引領遙相睇。徒倚懷感傷。垂涕霑雙扉。孟冬寒氣至。北風何慘慄。愁多知夜長。仰觀衆星列。三五明月滿。四五蟾兔缺。客從遠方來。遺我一書札。上言長相思。下言久離別。置書懷袖中。三歲字不滅。一心抱區區。懼君不識察。客從遠方來。遺我一端綺。相去萬餘里。故人心尙爾。文綵雙鴛鴦。裁爲合歡被。著以長相思。緣以結不解。以膠投漆中。誰能別離此。明月何皎皎。照我羅牀

帷。憂愁不能寐。攬衣起徘徊。客行雖云樂。不如早旋歸。出戶獨彷徨。愁思當告誰。引領還入房。淚下霑裳衣。

與蘇武詩二首

李少卿

良時不再至。離別在須臾。屏營衢路側。執手野踟躕。仰視浮雲馳。奄忽互相踰。風波一失所。各在天一隅。長當從此別。且復立斯須。欲因晨風發。送子以賤軀。嘉會難再遇。三載爲千秋。臨河濯長纓。念子悵悠悠。遠望悲風至。對酒不能酬。行人懷往路。何以慰我愁。獨有盈觴酒。與子結綢繆。攜手上河梁。游子暮何之。徘徊蹊路側。悵悵不能辭。行人難久留。各言長相思。安知非日月。苒苒望自有時。努力崇明德。皓首以爲期。

詩四首

蘇子卿

骨肉緣枝葉。結交亦相因。四海皆兄弟。誰爲行路人。況我連枝樹。與子同一身。昔爲鴛鴦鳥。今爲參與辰。昔者常相近。邈若胡與秦。惟念當離別。恩情日以新。鹿鳴思野草。可以喻嘉賓。我有一樽酒。欲以贈遠人。願子留斟酌。敘此平生親。黃鵠一遠別。千里顧徘徊。胡馬失其羣。思心常依依。何況雙飛龍。羽翼臨當乖。幸有絃歌曲。可以喻中懷。請爲游子吟。泠泠一何悲。絲竹厲清聲。慷慨有餘哀。長歌正激烈。中心愴以摧。欲展清商曲。念子不能歸。俛仰內傷心。淚下不可揮。願爲雙黃鵠。送子俱遠飛。結髮爲夫妻。恩愛兩不疑。歡娛在今夕。嬾婉及良時。征夫懷往路。起視夜何其。參辰皆已沒。去去從此辭。行役在戰場。相見未有期。握手一長歎。淚爲生別滋。努力愛春花。莫忘歡樂時。生當復來



歸死當長相思。  
燭燭晨明月。馥馥我蘭芳。芬馨良夜發。隨風聞我堂。征夫懷遠路。游子戀故鄉。寒冬十二月。晨起踐嚴霜。俯觀江漢流。仰視浮雲翔。良友遠離別。各在天一方。山海隔中州。相去悠且長。嘉會難兩遇。歡樂殊未央。願君崇令德。隨時愛景光。

四愁詩四首 并序

張子平

張衡不樂久處機密。陽嘉中。出為河間相。時國王驕奢不遵法度。又多豪右并兼之家。衡下車治威嚴。能內察屬縣。姦猾行巧劫。皆密知名。下吏收捕。盡服擒。諸豪俠游客。悉惶懼。逃出境。郡中大治。爭訟息。獄無繫囚。時天下漸弊。鬱鬱不得志。為四愁詩。屈原以美人為君子。以珍寶為仁義。以水深雪雰為小人。思以道術相報貽於時君。而懼讒邪不得以通。其辭曰。  
一思曰。我所思兮在太山。欲往從之梁父艱。側身東望涕霑翰。美人贈我金錯刀。何以報之英瓊瑤。路遠莫致倚道遙。何為懷憂心煩勞。  
二思曰。我所思兮在桂林。欲往從之湘水深。側身南望涕霑襟。美人贈我金琅玕。何以報之雙玉盤。路遠莫致倚惆悵。何為懷憂心煩傷。  
三思曰。我所思兮在漢陽。欲往從之隴阪長。側身西望涕霑裳。美人贈我貂襜褕。何以報之明月珠。路遠莫致倚踟躕。何為懷憂心煩紆。  
四思曰。我所思兮在鴈門。欲往從之雪紛紛。側身北望涕霑巾。美人贈我錦繡段。何以報之青玉案。路遠莫致倚增歎。何為懷憂心煩惋。

雜詩

王仲宣

日暮游西園。冀寫憂思情。曲池揚素波。列樹敷丹榮。上有特栖鳥。懷春向我鳴。褰袵欲從之。路險不得征。徘徊不能去。佇立望爾形。風飈揚塵起。白日忽已冥。迴身入空房。託夢通精誠。人欲天不違。何懼不合并。

雜詩

劉公幹

職事煩填委。文墨紛消散。馳翰未暇食。日昃不知晏。沈迷簿領書。回回自昏亂。釋此出西城。登高且游觀。方塘含白水。中有鳧與鴈。安得肅肅羽。從爾浮波瀾。

雜詩 二一首

魏文帝

漫漫秋夜長。烈烈北風涼。展轉不能寐。披衣起彷徨。彷徨忽已久。白露霑我裳。俯視清水波。仰看明月光。天漢迴西流。三五正從橫。草蟲鳴何悲。孤鴈獨南翔。鬱鬱多悲思。緜緜思故鄉。願飛安得翼。欲濟河無梁。向風長歎息。斷絕我中腸。  
西北有浮雲。亭亭如車蓋。惜哉時不遇。適與飄風會。吹我東南行。行行至吳會。吳會非我鄉。安能久留滯。棄置勿復陳。客子常畏人。

朔風詩

曹子建

仰彼朔風。用懷魏都。願聘代馬。倏忽北徂。凱風永至。思彼蠻方。願隨越鳥。翾飛南翔。四氣代謝。懸景運周。別如俯仰。脫若三秋。昔我初遷。朱華未希。今我旋止。素雪云飛。俯降千仞。仰登天阻。風飄蓬飛。載離寒著。千仞易陟。天阻可越。昔我同袍。今永乖別。子好芳草。豈忘爾貽。繁華將茂。秋霜悴之。君不垂眷。豈云其誠。秋蘭可喻。桂樹冬榮。絃歌蕩思。誰與銷憂。臨川暮思。何為泛舟。豈無和樂。



游非我鄰。誰忘泛舟。愧無榜人。

雜詩六首

曹子建

高臺多悲風。朝日照北林。之子在萬里。江湖迥且深。方舟安可極。離思故難任。孤鴈飛南遊。過庭長哀吟。翹思慕遠人。願欲託遺音。形影忽不見。翩翩傷我心。轉蓬離本根。飄颻隨長風。何意迴飈舉。吹我入雲中。高高上無極。天路安可窮。類此游客子。捐軀遠從戎。毛褐不掩形。薇蕘常不充。去去莫復道。沈憂令人老。西北有織婦。綺縠何繽紛。明晨秉機杼。日昃不成文。太息終長夜。悲嘯入青雲。妾身守空閨。良人行從軍。自期三年歸。今已歷九春。飛鳥繞樹翔。嗷嗷鳴索羣。願爲南流景。馳光見我君。南國有佳人。容華若桃李。朝游江北岸。夕宿瀟湘沚。時俗薄朱顏。誰爲發皓齒。俛仰歲將暮。榮耀難久恃。

僕夫早嚴駕。吾將遠行游。遠游欲何之。吳國爲我仇。將騁萬里塗。東路安足由。江介多悲風。淮泗馳急流。願欲一輕濟。惜哉無方舟。閑居非吾志。甘心赴國憂。飛觀百餘尺。臨牖御楹軒。遠望周千里。朝夕見平原。烈士多悲心。小人媮自閑。國讎亮不塞。甘心思喪元。拊劍西南望。思欲赴泰山。絃急悲聲發。聆我慷慨言。

情詩

曹子建

微陰翳陽景。清風飄我衣。游魚潛綠水。翔鳥薄天飛。眇眇客行士。遙役不得歸。始出嚴霜結。今來白露晞。游子歎黍離。處者歌式微。慷慨對嘉賓。悽愴內傷悲。

雜詩

嵇叔夜

微風清扇。雲氣四除。皎皎亮月。麗于高隅。與命公子。攜手同車。龍驥翼翼。揚鑣踟躕。肅肅宵征。造我友廬。光燈吐輝。華幔長舒。鸞觴酌醴。神鼎烹魚。絃超子野。歎過縣駒。流詠太素。俯讚玄虛。孰克英賢。與爾剖符。

雜詩

傅休奕

志士惜日短。愁人知夜長。攝衣步前庭。仰觀南鴈翔。玄景隨形運。流響歸空房。清風何飄颻。微月出西方。繁星依青天。列宿自成行。蟬鳴高樹間。野鳥號東廂。織雲時髣髴。溼露霑我裳。良時無停景。北斗忽低昂。常恐寒節至。凝氣結爲霜。落葉隨風摧。一絕如流光。

雜詩

張茂先

暑度隨天運。四時互相承。東壁正昏中。固陰寒節升。繁霜降當夕。悲風中夜興。朱火青無光。蘭膏坐自凝。重衾無暖氣。挾纈如懷冰。伏枕終遙昔。寤言莫予應。永思慮崇替。慨然獨撫膺。

情詩一首

張茂先

清風動帷簾。晨月照幽房。佳人處遐遠。蘭室無容光。襟懷擁虛景。輕衾覆空牀。居歡愒夜促。在感怨宵長。拊枕獨嘯歎。感慨心內傷。游目四野外。逍遙獨延佇。蘭蕙緣清渠。繁華蔭綠渚。佳人不在茲。取此欲誰與。巢居知風寒。穴處識陰雨。不會遠別離。安知慕儔侶。



園葵詩

種葵北園中。葵生鬱萋萋。朝榮東北傾。夕穎西南晞。零露垂鮮澤。朗月耀其輝。時逝柔風戢。歲暮商焱飛。曾雲無溫液。嚴霜有凝威。幸蒙高墉德。玄景蔭素蕤。豐條竝春盛。落葉後秋衰。慶彼晚彫福。忘此孤生悲。

陸士衡

思友人詩

密雲翳陽景。霖潦淹庭除。嚴霜彫翠草。寒風振纖枯。凜凜天氣清。落落卉木疎。感時歌蟋蟀。思賢詠白駒。情隨玄陰滯。心與迴飄俱。思心何所懷。懷我歐陽子。精義測神奧。清機發妙理。自我別句朔。微言絕于耳。褰裳不足難。清揚未可俟。延首出階檐。佇立增想似。

曹顏遠

感舊詩

富貴他人合。貧賤親戚離。廉蔣門易軌。田竇相奪移。晨風集茂林。棲鳥去枯枝。今我唯困蒙。郡士所背馳。鄉人敦懿義。濟濟蔭光儀。對賓頌有客。舉觴詠露斯。臨樂何所歎。素絲與路歧。

曹顏遠

雜詩

秋風乘夕起。明月照高樹。閑房來清氣。廣庭發暉素。靜寂愴然歎。惆悵出游顧。仰視垣上草。俯察階下露。心虛體自輕。飄飄若仙步。瞻彼陵上栢。想與神人遇。道深難可期。精微非所慕。勤思終遙夕。永言寫情慮。

何敬祖

雜詩

王正長

朔風動秋草。邊馬有歸心。胡寧久分析。靡靡忽至今。王事離我志。殊隔過商參。昔往鶴鷓鳴。今來蟋蟀吟。人情懷舊鄉。客鳥思故林。師涓久不奏。誰能宣我心。

雜詩

棗道彥

吳寇未殄滅。亂象侵邊疆。天子命上宰。作蕃于漢陽。開國建元士。玉帛聘賢良。子非荆山璞。謬登和氏場。羊質服虎文。燕翼假鳳翔。既懼非所任。怨彼南路長。千里既悠邈。路次限關梁。僕夫罷遠涉。車馬困山岡。深谷下無底。高巖暨穹蒼。豐草停滋潤。霧露沾衣裳。玄林結陰氣。不風自寒涼。顧瞻情感切。惻愴心哀傷。土生則懸弧。有事在四方。安得恆逍遙。端坐守閨房。引義割外情。內感實難忘。

雜詩

左太沖

秋風何冽冽。白露爲朝霜。柔條且夕勁。綠葉日夜黃。明月出雲崖。皛皛流素光。披軒臨前庭。嗷嗷晨鴈翔。高志局四海。塊然守空堂。壯齒不恆居。歲暮常慨慷。

雜詩

張季鷹

暮春和氣應。白日照園林。青條若摠翠。黃華如散金。嘉卉亮有觀。顧此難久耽。延頸無良塗。頓足託幽深。榮與壯俱去。賤與老相尋。歡樂不照顏。慘愴發謳吟。謳吟何嗟及。古人可慰心。

雜詩十首

張景陽

秋夜涼風起。清氣蕩暄濁。蜻蛚吟階下。飛蛾拂明燭。君子從遠役。佳人守孤獨。離居幾何時。鑽燧



忽改木房。櫛無行跡。庭草萋以綠。青苔依空牆。蜘蛛網四屋。感物多所懷。沈憂結心曲。大火流坤維。白日馳西陸。浮陽映翠林。迴爨扇綠竹。飛雨灑朝蘭。輕露栖叢菊。龍蟄暄氣凝。天高萬物肅。弱條不重結。芳蕤豈再馥。人生瀛海內。忽如鳥過目。川上之歎逝。前脩以自勗。金風扇素節。丹霞啓陰期。騰雲似涌煙。密雨如散絲。寒花發黃采。秋草含綠滋。閑居玩萬物。離羣戀所思。案無蕭氏牘。庭無貢公棊。高尚遺王侯。道積自成基。至人不嬰物。餘風足染時。朝霞迎白日。丹氣臨陽谷。翳翳結繁雲。森森散雨足。輕風摧勁草。凝霜竦高木。密葉日夜疎。叢林森如束。疇昔歎時遲。晚節悲年促。歲暮懷百憂。將從季主卜。昔我資章甫。聊以適諸越。行行入幽荒。歐駱從祝髮。窮年非所用。此貨將安設。飯甌夸瓊璠。魚目笑明月。不見郢中歌。能否居然別。陽春無和者。巴人皆下節。流俗多昏迷。此理誰能察。朝登魯陽關。狹路峭且深。流澗萬餘丈。圍木數千尋。咆虎響窮山。鳴鶴聒空林。淒風爲我嘯。百籟坐自吟。感物多思情。在險易常心。竭來戒不虞。挺轡越飛岑。王陽驅九折。周文走岑峯。經阻貴勿遲。此理著來今。

此鄉非吾地。此郭非吾城。羈旅無定心。翩翩如懸旌。出覩軍馬陣。入聞鞞鼓聲。常懼羽檄飛。神武一朝征。長鋏鳴鞘中。烽火列邊亭。捨我衡門衣。更被縵胡纓。疇昔懷微志。帷幕竊所經。何必操干戈。堂上有奇兵。折衝樽俎間。制勝在兩楹。巧遲不足稱。拙速乃垂名。述職投邊城。羈束戎旅間。下車如昨日。望舒四五圓。借問此何時。胡蝶飛南園。流波戀舊浦。行雲思故山。閩越衣文蛇。胡馬願度燕。土風安所習。由來有固然。結宇窮岡曲。耦耕幽藪陰。荒庭寂以閑。幽岫峭且深。淒風起東谷。有淪興南岑。雖無箕畢期。膚寸自成霖。澤雉登壟雉。寒猿擁條吟。磵壑無人跡。荒楚鬱蕭森。投耒循岸垂。時聞樵采音。重基可擬志。迴淵可比心。養真尚無爲。道勝貴陸沈。游思竹素園。寄辭翰墨林。

黑蜺躍重淵。商羊舞野庭。飛廉應南箕。豐隆迎號屏。雲根臨八極。雨足灑四溟。霖瀝過二旬。散漫亞九齡。階下伏泉涌。堂上水衣生。洪潦浩方割。人懷昏墊情。沈液漱陳根。綠葉腐秋莖。里無曲突煙。路無行輪聲。環堵自頽毀。垣閭不隱形。尺燼重尋桂。紅粒貴瑤瓊。君子守固窮。在約不爽貞。雖祭田方贈。慙爲溝壑名。取志於陵子。比足黔婁生。

時興詩

盧子諒

臺壘圓象運。悠悠方儀廓。忽忽歲云暮。游原采蕭藿。北踰芒與河。南臨伊與洛。凝霜霑蔓草。悲風振林薄。撼撼芳葉零。榮榮芬華落。下泉激冽清。曠野增遼索。登高眺遐荒。極望無崖嶠。形變隨時化。神感因物作。澹乎至人心。恬然存玄漠。

雜詩一首

陶淵明

結廬在人境。而無車馬喧。問君何能爾。心遠地自偏。采菊東籬下。悠然望南山。山氣日夕佳。飛鳥相與還。此還有真意。欲辯已忘言。秋菊有佳色。裛露掇其英。泛此忘憂物。遠我達世情。一觴雖獨進。盃盡壺自傾。日入羣動息。歸鳥趨林鳴。嘯傲東軒下。聊復得此生。

詠貧士

陶淵明

萬族各有託。孤雲獨無依。曖曖虛中滅。何時見餘輝。朝霞開宿霧。衆鳥相與飛。遲遲出林翮。未夕復來歸。量力守故轍。豈不寒與饑。知音苟不存。已矣何所悲。



讀山海經

陶淵明

孟夏草木長。繞屋樹扶疎。衆鳥欣有託。吾亦愛吾廬。既耕亦已種。且還讀我書。窮巷隔深轍。頗迴故人車。歡言酌春酒。摘我園中蔬。微雨從東來。好風與之俱。泛覽周王傳。流觀山海圖。俛仰終宇宙。不樂復何如。

七月七日夜詠牛女

謝惠連

落日隱欄楹。升月照簾櫳。團團滿葉露。析析振條風。蹀足循廣除。瞬目矚曾穹。雲漢有靈匹。彌年闕相從。遐川阻昵愛。脩渚曠清容。弄杼不成藻。聳轡驚前蹤。昔離秋已兩。今聚夕無雙。傾河易迴斡。款情難久悰。沃若靈駕旋。寂寥雲幄空。留情顧華寢。遙心逐奔龍。沈吟爲爾感。情深意彌重。

擣衣

謝惠連

衡紀無淹度。晷運倏如催。白露滋園菊。秋風落庭槐。蕭蕭莎雞羽。烈烈寒螿啼。夕陰結空幕。霄月皓中閨。美人戒裳服。端飾相招攜。簪玉出北房。鳴金步南階。欄高砧響發。楹長杵聲哀。微芳起兩袖。輕汗染雙題。紈素旣已成。君子行未歸。裁用笥中刀。縫爲萬里衣。盈篋自余手。幽絨候君開。腰帶准疇昔。不知今是非。

南樓中望所遲客

謝靈運

杳杳日西頽。漫漫長路迫。登樓爲誰思。臨江遲來客。與我別所期。期在三五夕。圓景早已滿。佳人殊未適。卽事怨睽攜。感物方悽戚。孟夏非長夜。晦明如歲隔。瑤華未堪折。蘭若已屢摘。路阻莫贈

問云何慰離析。搔首訪行人。引領冀良覲。

田南樹園激流植援

謝靈運

樵隱俱在山。由來事不同。不同非一事。養痾亦園中。園中屏氛雜。清曠招遠風。卜室倚北阜。啓扉面南江。激澗代汲井。插槿當列壙。羣木旣羅戶。衆山亦當窻。靡迤趨下田。迢遞瞰高峯。寡欲不期勞。卽事罕入功。唯開蔣生徑。永懷求羊蹤。賞心不可忘。妙善冀能同。

齋中讀書

謝靈運

昔余游京華。未嘗廢丘壑。矧乃歸山川。心跡雙寂寞。虛館絕諍訟。空庭來鳥雀。臥疾豐暇豫。翰墨時間作。懷抱觀古今。寢食展戲謔。旣笑沮溺苦。又哂子雲閣。執戟亦以疲。耕稼豈云樂。萬事難並歡。達生幸可託。

石門新營所住四面高山迴溪石瀨茂林脩竹

謝靈運

躋險築幽居。披雲臥石門。苔滑誰能步。葛弱豈可捫。嫋嫋秋風過。萋萋春草繁。美人游不還。佳期何由敦。芳塵凝瑤席。清醑滿金罇。洞庭空波瀾。桂枝徒攀翻。結念屬霄漢。孤景莫與諼。俯濯石下潭。仰看條上猿。早聞夕飈急。晚見朝日曛。崖傾光難留。林深響易奔。感往慮有復。理來情無存。庶特乘日用。得以慰營魂。匪爲衆人說。冀與智者論。

雜詩一首

王景玄



思婦臨高臺。長想憑華軒。弄絃不成曲。哀歌送苦言。箕箒留江介。良人處鴈門。詎憶無衣苦。但知狐白溫。日暗牛羊下。野雀滿空園。孟冬寒風起。東壁正中昏。朱火獨照人。抱景自愁怨。誰知心曲亂。所思不可論。

數詩

鮑明遠

一身仕關西。家族滿山東。二年從車駕。齋祭甘泉宮。三朝國慶畢。休沐還舊邦。四牡曜長路。輕蓋若飛鴻。五侯相餞送。高會集新豐。六樂陳廣坐。組帳揚春風。七盤起長袖。庭下列歌鐘。八珍盈彫俎。綺肴紛錯重。九族共瞻遲。賓友仰徽容。十載學無就。善宦一朝通。

翫月城西門廨中

鮑明遠

始出西南樓。纖纖如玉鉤。未映東北墀。娟娟似娥眉。蛾眉蔽珠櫳。玉鉤隔瑣窻。三五二八時。千里與君同。夜移衡漢落。徘徊帷戶中。歸華先委露。別葉早辭風。客游厭苦辛。仕子倦飄塵。休澣自公日。宴慰及私辰。蜀琴抽白雪。郢曲發陽春。看乾酒未缺。金臺啓夕淪。迴軒駐輕蓋。留酌待情人。

始出尚書省

謝玄暉

惟昔逢休明。十載朝雲陛。既通金閨籍。復酌瓊筵醴。宸景厭照臨。昏風淪繼體。紛虹亂朝日。濁河穢清濟。防口猶寬政。餐茶更如薺。英袞暢人謀。文明固天啓。青精翼紫軟。黃旗映朱邸。還覩司隸章。復見東都禮。中區咸已泰。輕生諒昭洒。趨事辭宮闕。載筆陪旌棨。邑里向疏蕪。寒流自清泚。衰柳尚沈沈。凝露方泥泥。零落悲友朋。歡虞讎兄弟。既秉丹石心。寧流素絲涕。乘此終蕭散。垂竿深澗底。

直中書省

謝玄暉

紫殿肅陰陰。彤庭赫弘敞。風動萬年枝。日華承露掌。玲瓏結綺錢。深沈映朱網。紅藥當階翻。蒼苔依砌上。茲言翔鳳池。鳴珮多清響。信美非吾室。中園思偃仰。朋情以鬱陶。春物方駘蕩。安得凌風翰。聊恣山泉賞。

觀朝雨

謝玄暉

朔風吹飛雨。蕭條江上來。既灑百常觀。復集九成臺。空濛如薄霧。散漫似輕埃。平明振衣坐。重門猶未開。耳目暫無擾。懷古信悠哉。戢翼希驥首。乘流畏曝鰓。動息無兼遂。歧路多徘徊。方同戰勝者。去翦北山萊。

郡內登望

謝玄暉

借問下車日。匪直望舒圓。寒城一以眺。平楚正蒼然。山積陵陽阻。溪流春穀泉。威紆距遙甸。嶮嶂帶遠天。切切陰風暮。桑柘起寒煙。悵望心已極。恓怛魂屢遷。結髮倦爲旅。平生早事邊。誰規鼎食盛。寧要狐白鮮。方奔汝南諾。言稅遼東田。

和伏武昌登孫權故城

謝玄暉

炎靈遺劔璽。當塗駭龍戰。聖期缺中壤。霸功興禹縣。鵠起登吳山。鳳翔陵楚甸。衿帶窮巖險。帷帟盡謀選。北拒溺驂鑣。西龜收組練。江海既無波。俯仰流英盼。裘冕類禋郊。卜揆崇離殿。鈞臺臨講閣。樊山開廣讌。文物共歲蕪。聲明且葱蒨。三光厭分景。書軌欲同薦。參差世祀忽。寂寞市朝變。舞



館識餘基。歌梁想遺轉。故林衰木平。荒池秋草徧。雄圖悵若茲。茂宰深遐睇。幽客滯江臯。從賞垂纓弁。清卮阻獻酬。良書限聞見。幸籍芳音多。承風采餘絢。于役儻有期。鄂渚同游衍。

和王著作八公山詩

謝玄暉

二別阻漢城。雙嶂望河澳。茲嶺復嶺。分區奠淮服。東限琅邪臺。西距孟諸陸。阡眠起雜樹。檀欒蔭脩竹。日隱澗疑空。雲聚岫如複。出沒眺樓雉。遠近送春日。戎州昔亂華。素景淪伊穀。阨危賴宗袞。微管寄明牧。長蛇固能翦。奔鯨自此曝。道峻芳塵流。業遙年運倏。平生仰令圖。吁嗟命不淑。浩蕩別親知。連翩戒征軸。再遠館娃宮。兩去河陽谷。風煙四時犯。霜雨朝夜沐。春秀良已凋。秋場庶能築。

和徐都曹

謝玄暉

宛洛佳遊。春色滿皇州。結軫青郊路。迴瞰蒼江流。日華川上動。風光草際浮。桃李成蹊徑。桑榆陰道周。東都已倣載。言歸望綠疇。

和王主簿怨情

謝玄暉

掖庭聘絕國。長門失歡宴。相逢詠離燕。辭寵悲班扇。花叢亂數蝶。風簾入雙燕。徒使春帶暍。坐惜紅裝變。平生一顧重。宿昔千金賤。故人心尚爾。故人心不見。

和謝宣城

沈休文

王喬飛鳧舄。東方金馬門。從宦非宦侶。避世非避喧。揆余發皇鑒。短翮屢飛翻。晨趨游建禮。晚沐臥郊園。賓至下塵榻。憂來命綠罇。昔賢倅時雨。今守馥蘭蓀。神交疲夢寐。路遠隔思存。牽拙謬東

汜。浮情及西崑。顧循良菲薄。何以儷瓊璫。將隨渤澥去。刷羽汎清源。

應王中丞思遠詠月

沈休文

月華臨靜夜。夜靜滅氛埃。方暉竟戶入。圓影隙中來。高樓切思婦。西園游上才。網軒映珠綴。應門照綠苔。洞房殊未曉。清光信悠哉。

冬節後至丞相第詣世子車中作

沈休文

廉公失權勢。門館有虛盈。貴賤猶如此。況乃曲池平。高車塵未滅。珠履故餘聲。賓階綠錢滿。客位紫苔生。誰當九原上。鬱鬱望佳城。

學省愁臥

沈休文

秋風吹廣陌。蕭瑟入南闌。愁人掩軒臥。高窗時動扉。虛館清陰滿。神宇曖微微。網蟲垂戶織。夕鳥傍欄飛。纓珮空爲忝。江海事多違。山中有桂樹。歲暮可言歸。

詠湖中鴈

沈休文

白水滿春塘。旅鴈每迴翔。嗷流牽弱藻。斂翮帶餘霜。羣浮動輕浪。單汎逐孤光。懸飛竟不下。亂起未成行。刷羽同搖漾。一舉還故鄉。

三月三日率爾成篇

沈休文

麗日屬元巳。年芳具在斯。開花已匝樹。流嚶復滿枝。洛陽繁華子。長安輕薄兒。東出千金堰。西臨



鴈驚波。游絲映空轉。高楊拂地垂。綠幘文照曜。紫燕光陸離。清晨戲伊水。薄暮宿蘭池。象筵鳴寶瑟。金瓶汎羽卮。寧憶春蠶起。日暮桑欲萎。長袂屢以拂。彫胡方自炊。愛而不可見。宿昔減容儀。且當忘情去。歎息獨何爲。

雜擬上

擬古詩十二首

陸士衡

擬行行重行行

悠悠行邁遠。戚戚憂思深。此思亦何思。思君徽與音。音徽日夜離。緬邈若飛沈。王鮪懷河岫。晨風思北林。遊子眇天末。遠期不可尋。驚飈蹇反信。歸雲難寄音。佇立想萬里。沈憂萃我心。攬衣有餘帶。循形不盈衿。去去遺情累。安處撫清琴。

擬今日良宴會

閑夜命懽友。置酒迎風館。齊僮梁甫吟。秦娥張女彈。哀音繞棟宇。遺響入雲漢。四坐咸同志。羽觴不可算。高譚一何綺。蔚若朝霞爛。人生無幾何。爲樂常苦晏。譬彼伺晨鳥。揚聲當及旦。曷爲恆憂苦。守此貧與賤。

擬迢迢牽牛星

昭昭清漢暉。粲粲光天步。牽牛西北迴。織女東南顧。華容一何冶。揮手如振素。怨彼河無梁。悲此

年歲暮。跋彼無良緣。睨焉不得度。引領望大川。雙涕如霑露。

擬涉江采芙蓉

上山采瓊蘂。穹谷饒芳蘭。采采不盈掬。悠悠懷所歡。故鄉一何曠。山川阻且難。沈思鍾萬里。躑躅獨吟歎。

擬青青河畔草

靡靡江蘼草。熠熠生河側。皎皎彼姝女。阿那當軒織。粲粲妖容姿。灼灼美顏色。良人遊不歸。偏棲獨隻翼。空房來悲風。中夜起歎息。

擬明月何皎皎

安寢北堂上。明月入我牖。照之有餘暉。攬之不盈手。涼風繞曲房。寒蟬鳴高柳。踟躕感節物。我行永已久。遊宦會無成。離思難常守。

擬蘭若生朝陽

嘉樹生朝陽。凝霜封其條。執心守時信。歲寒終不彫。美人何其曠。灼灼在雲霄。隆想彌年月。長嘯入飛飈。引領望天末。譬彼向陽翹。

擬青青陵上栢

冉冉高陵蘋。習習隨風翰。人生當幾時。譬彼濁水瀾。戚戚多滯念。置酒宴所歡。方駕振飛轡。遠遊



入長安名都一何綺。城闕鬱盤桓。飛閣縷虹帶。曾臺冒雲冠。高門羅北闕。甲第椒與蘭。俠客控經景。都人驂玉軒。遨遊放情願。慷慨爲誰歎。

擬東城一何高

西山何其峻。曾曲鬱崔嵬。零露彌天墜。蕙葉憑林衰。寒暑相因襲。時逝忽如頽。三閭結飛鸞。大壑嗟落暉。曷爲牽世務。中心若有違。京洛多妖麗。玉顏倅瓊蕤。閑夜撫鳴琴。惠音清且悲。長歌赴促節。哀響逐高徽。一唱萬夫歎。再唱梁塵飛。思爲河曲鳥。雙遊豐水湄。

擬西北有高樓

高樓一何峻。迢迢峻而安。綺窗出塵冥。飛陛躡雲端。佳人撫琴瑟。纖手清且閑。芳氣隨風結。哀響馥若蘭。玉容誰得顧。傾城在一彈。佇立望日昃。躑躅再三歎。不怨佇立久。但願歌者歡。思駕歸鴻羽。比翼雙飛翰。

擬庭中有奇樹

歡友蘭時往。迢迢匿音徽。虞淵引絕景。四節逝若飛。芳草久已茂。佳人竟不歸。躑躅遵林渚。惠風入我懷。感物戀所歡。采此欲貽誰。

擬明月皎夜光

歲暮涼風發。昊天肅明明。招搖西北指。天漢東南傾。朗月照閑房。蟋蟀吟戶庭。翩翩歸鴈集。嘒嘒寒蟬鳴。疇昔同宴友。翰飛辰高冥。服美改聲聽。居愉遺舊情。織女無機杼。大梁不架楹。

擬四愁詩

張孟陽

我所思兮在營州。欲往從之。路阻脩。登崖遠望涕泗流。我之懷矣。心傷憂。佳人遺我綠綺琴。何以贈之。雙南金。願因流波超重深。終然莫致增永吟。

擬古詩

陶淵明

日暮天無雲。春風扇微和。佳人美清夜。達曙酣且歌。歌竟長歎息。持此感人多。明明雲間月。灼灼葉中花。豈無一時好。不久當如何。

擬魏太子鄴中集八首并序

謝靈運

建安末。余時在鄴宮。朝遊夕讌。究歡愉之極。天下良辰美景賞心樂事。四者難并。今昆弟友朋。二三諸彥。共盡之矣。古來此娛。書籍未見。何者。楚襄王時。有宋玉。唐景梁孝王時。有鄒枚。嚴馬。遊者美矣。而其主不文。漢武帝時。徐樂諸才。備應對之能。而雄猜多忌。豈獲晤言之適。不誣。方將庶必賢於今日。爾歲月如流。零落將盡。撰文懷人。感往增愴。其辭曰。

魏太子

百川赴巨海。衆星環北辰。照灼爛霄漢。遙裔起長津。天地中橫潰。家王極生民。區宇既滌蕩。羣英必來臻。忝此欽賢性。由來常懷仁。況值衆君子。傾心隆日新。論物靡浮說。析理實敷陳。羅縷豈闕辭。竊窕究天人。澄觴滿金罍。連榻設華茵。急絃動飛聽。清歌拂梁塵。何言相遇易。此歡信可珍。



王 粲

家本秦川。貴公子孫。遭亂流寓。自傷情多。

幽厲昔崩亂。桓靈今板蕩。伊洛既燎煙。函崤沒無像。整裝辭秦川。秣馬赴楚壤。沮漳自可美。客心非外獎。常歎詩人言。式微何由往。上宰奉皇靈。侯伯咸宗長。雲騎亂漢南。宛郢皆掃盪。排霧屬盛明。披雲對清朗。慶泰欲重疊。公子特先賞。不謂息肩願。一旦值明兩。竝載遊鄴京。方舟汎河廣。綢繆清讌娛。寂寥梁棟響。既作長夜飲。豈顧乘日養。

陳 琳

袁本初書記之士。故述喪亂事多。

皇漢逢屯遭。天下遭氛慝。董氏淪關西。袁家擁河北。單民易周章。窘身就羈勒。豈意事乖己。永懷戀故國。相公實勤王。信能定螫賊。復覩東都輝。重見漢朝則。餘生幸已多。矧迺值明德。愛客不告疲。飲讌遺景刻。夜聽極星爛。朝遊窮曠黑。哀哇動梁埃。急觴盪幽默。且盡一日娛。莫知古來惑。

徐 幹

少無宦情。有箕穎之心。事故仕世。多素辭。

伊昔家臨淄。提攜弄齊瑟。置酒飲膠東。淹留憩高密。此歡謂可終。外物始難畢。搖蕩箕濮情。窮年迫憂慄。末塗幸休明。棲集建薄質。已免負薪苦。仍游椒蘭室。清論事究萬。美話信非一。行觴奏悲歌。永夜繫白日。華屋非蓬居。時髦豈余匹。中飲願昔心。悵焉若有失。

劉 楨

卓犖偏人。而文最有氣。所得頗經奇。

貧居晏里閭。少小長東平。河兗當衝要。淪飄薄許京。廣川無逆流。招納廁羣英。北渡黎陽津。南登紀郢城。既覽古今事。頗識治亂情。歡友相解達。敷奏究平生。矧荷明哲顧。知深覺命輕。朝遊牛羊下。暮坐括揭鳴。終歲非一日。傳厄弄新聲。辰事既難諧。歡願如今并。唯羨肅肅翰。繽紛戾高冥。

應 瑒

汝穎之士。流離世故。頗有飄薄之歎。

嗷嗷雲中鴈。舉翮自委羽。求涼弱水涓。違寒長沙渚。顧我梁川時。緩步集穎許。一旦逢世難。淪薄恆羈旅。天下昔未定。託身早得所。官度厠一卒。烏林預艱阻。晚節值衆賢。會同庇天宇。列坐蔭華棖。金樽盈清醕。始奏延露曲。繼以闌夕語。調笑輒酬答。嘲諢無慙沮。傾軀無遺慮。在心良已敘。

阮 瑀

管書記之任。故有優渥之言。

河洲多沙塵。風悲黃雲起。金羈相馳逐。聯翩何窮已。慶雲惠優渥。微薄攀多士。念昔渤海時。南皮戲清泚。今復河曲游。鳴篋汎蘭汜。躡步陵丹梯。竝坐侍君子。妍談既愉心。哀弄信睦耳。傾醕係芳醕。酌言豈終始。自從食萍來。唯見今日美。

平原侯植



公子不及世事。但美遨遊。然頗有憂生之嗟。  
朝遊登鳳閣。日暮集華沼。傾柯引弱枝。攀條摘蕙草。徒倚窮騁望。目極盡所討。西顧太行山。北眺邯鄲道。平衢脩且直。白楊信裊裊。副君命飲宴。歡娛寫懷抱。良遊匪晝夜。豈云晚與早。衆賓悉精妙。清辭灑蘭藻。哀音下迴鶻。餘哇徹清昊。中山不知醉。飲德方覺飽。願以黃髮期。養生念將老。

文選卷十五終

文選卷十六

詩 庚雜擬下

傲曹子建樂府白馬篇

袁陽源

劍騎何翩翩。長安五陵間。秦地天下樞。八方湊才賢。荆魏多壯士。宛洛富少年。意氣深自負。肯事郡邑權。籍籍關外來。車徒傾國鄜。五侯競書幣。羣公亟爲言。義分明於霜。信行直如弦。交歡池陽下。留宴汾陰西。一朝許人諾。何能坐相捐。影節去函谷。投珮出甘泉。嗟此務遠圖。心爲四海懸。但榮身意遂。豈校耳目前。俠烈良有聞。古來共知然。

傲 古

袁陽源

諱此倦遊士。本家自遼東。昔隸李將軍。十載事西戎。結車高闕下。極望見雲中。四面各千里。從橫起巖風。寒燠豈如節。霜雨多異同。夕寐北河陰。夢還甘泉宮。勤役未云已。壯年徒爲空。廼知古時人。所以悲轉蓬。

擬古 二 一首

劉休立

擬行行重行行

眇眇陵長道。遙遙行遠之。回車背京里。揮手從此辭。堂上流塵生。庭中綠草滋。寒蟬翔水曲。秋兔



依山基。芳年有華月。佳人無還期。日夕涼風起。對酒長相思。悲發江南調。憂委子衿詩。臥覺明燈晦。坐見輕紈縑。淚容不可飾。幽鏡難復治。願垂薄暮景。照妾桑榆時。

擬明月何皎皎

落宿半遙城。浮雲藹層闕。玉宇來清風。羅帳延秋月。結思想伊人。沈憂懷明發。誰為客行久。屢見流芳歇。河廣川無梁。山高路難越。

和琅邪王依古

王僧達

少年好馳俠。旅宦遊關源。既踐終古跡。聊訊興亡言。隆周為藪澤。皇漢成山樊。久沒離宮地。安識壽陵園。仲秋邊風起。孤蓬卷霜根。白日無精景。黃沙千里昏。顯軌莫殊轍。幽塗豈異魂。聖賢良已矣。抱命復何怨。

擬古三首

鮑明遠

幽并重騎射。少年好馳逐。氈帶佩雙鞬。象弧插彫服。獸肥春草短。飛輕越平陸。朝遊鴈門上。暮還樓煩宿。石梁有餘勁。驚雀無全目。漢虜方未和。邊城屢翻覆。留我一白羽。將以分虎竹。魯客事楚王。懷金襲丹素。既荷主人恩。又蒙令尹顧。日晏罷朝歸。輿馬塞衢路。宗黨生光華。賓僕遠傾慕。富貴人所欲。道得亦何懼。南國有儒生。迷方獨淪誤。伐木清江湄。設罝守麋兔。十五諷詩書。篇翰靡不通。弱冠參多士。飛步遊秦宮。側觀君子論。預見古人風。兩說窮舌端。五車摧筆鋒。羞當白璧賦。恥受聊城功。晚節從世務。乘障遠和戎。解佩襲犀渠。卷裘奉盧弓。始願力不及。安知今所終。

學劉公幹體

鮑明遠

胡風吹朔雪。千里度龍山。集君瑤臺裏。飛舞兩楹前。茲辰自為美。當避豔陽年。豔陽桃李節。皎潔不成妍。

代君子有所思

鮑明遠

西出登雀臺。東下望雲闕。層閣肅天居。馳道直如髮。繡蓋結飛霞。璇題納行月。築山擬蓬壺。穿池類溟渤。選色遍齊代。微聲匝邛越。陳鐘陪夕譙。笙歌待明發。年貌不可還。身意會盈歇。蟻壤漏山阿。絲淚毀金骨。器惡含滿歆。物忌厚生沒。智哉衆多士。服理辨昭昧。

傲古

范彥龍

寒沙四面平。飛雪千里驚。風斷陰山樹。霧失交河城。朝驅左賢陣。夜薄休屠營。昔事前軍幕。今逐嫖姚兵。失道刑既重。遲留法未輕。所賴今天子。漢道日休明。

雜體詩三十首并序

江文通

夫楚謠漢風。既非一骨。魏製晉造。固亦二體。譬猶藍朱成彩。雜錯之變無窮。宮商為音。靡曼之態不極。故蛾眉詎同貌。而俱動於魄。芳草寧共氣。而皆悅於魂。不其然歟。至於世之諸賢。各滯所迷。莫不論甘而忌辛。好丹而非素。豈所謂通方廣恕。好遠兼愛者哉。及公幹仲宣之論家。有曲直安仁。士衡之評人。立矯抗。況復殊於此者乎。又貴遠賤近。人之常情。重耳輕目。俗之恆蔽。是以邯鄲託曲於李奇。士季假論於嗣宗。此其效也。然五言之興。諒非復古。但關西鄴下。既已罕同。河外江



南頗為異法。故玄黃經緯之辨。金碧沈浮之殊。僕以為亦合其美。竝善而已。今作三十首詩。數其文體。雖不足品藻淵流。庶亦無乖商榷云爾。

古離別

遠與君別者。乃至鴈門關。黃雲蔽千里。遊子何時還。送君如昨日。簷前露已團。不惜蕙草晚。所悲道里寒。君在天一涯。妾身長別離。願一見顏色。不異瓊樹枝。兔絲及水萍。所寄終不移。

李都尉從軍陵

樽酒送征人。踟躕在親宴。日暮浮雲滋。握手淚如霰。悠悠清川水。嘉魴得所薦。而我在萬里。結髮不相見。袖中有短書。願寄雙飛鸞。

班婕妤詠

紈扇如圓月。出自機中素。畫作秦王女。乘鸞向煙霧。彩色世所重。雖新不代故。竊愁涼風至。吹我玉階樹。君子恩未畢。零落在中路。

魏文帝遊宴曹丕

置酒坐飛閣。逍遙臨華池。神飈自遠至。左右芙蓉披。綠竹夾清水。秋蘭被幽崖。月出照園中。冠珮相追隨。客從南楚來。為我吹參差。淵魚猶伏浦。聽者未云疲。高文一何綺。小儒安足為。肅肅廣殿陰。雀聲愁北林。衆賓還城邑。何以慰吾心。

陳思王贈曹植

君王禮英賢。不慊千金璧。雙闕指馳道。朱宮羅第宅。從容冰井臺。清池映華薄。涼風盪芳氣。碧樹先秋落。朝與佳人期。日夕望青閣。寒裳摘明珠。徒倚拾蕙若。眷我二三子。辭義麗金牖。延陵輕寶劍。季布重然諾。處富不忘貧。有道在葵藿。

劉文學感禎

蒼蒼山中桂。團團霜露色。霜露一何緊。桂枝生自直。橘柚在南國。因君為羽翼。謬蒙聖王私。託身文墨職。丹彩既已過。敢不自彫飾。華月照方池。列坐金殿側。微臣固受賜。鴻恩良未測。

王侍中懷粲

伊昔值世亂。秣馬辭帝京。既傷蔓草別。方知秋杜情。嶠函復丘墟。冀闕緬縱橫。倚棹汎涇渭。日暮山河清。蟋蟀依桑野。嚴風吹枯莖。鶴鷗在幽草。客子淚已零。去鄉二十載。幸遭天下平。賢主降嘉賞。金貂服玄纓。侍宴出河曲。飛蓋遊鄴城。朝露竟幾何。忽如水上萍。君子篤惠義。柯葉終不傾。福履既所綏。千載垂令名。

嵇中散言康

曰余不師訓。潛志去世塵。遠想出宏域。高步超常倫。靈鳳振羽儀。戢景西海濱。朝食琅玕實。夕飲玉池津。處順故無累。養德乃入神。曠哉宇宙惠。雲羅更四陳。哲人貴識義。大雅明庇身。莊生悟無為。老氏守其真。天下皆得一。名實久相賓。咸池饗爰居。鍾鼓或愁辛。柳惠善直道。孫登庶知人。寫



懷良未遠。感贈以書紳。

阮步兵懷籍

青島海上遊。鶯斯蒿下飛。沈浮不相宜。羽翼各有歸。飄飄可終年。沈澆安是非。朝雲乘變化。光耀世所希。精衛銜木石。誰能測幽微。

張司空情離華

秋月映簾櫳。懸光入丹墀。佳人撫鳴琴。清夜守空帷。蘭庭少行迹。玉臺生網絲。庭樹發紅彩。閨草含碧滋。延佇整綾綺。萬里贈所思。願垂湛露惠。信我皎日期。

潘黃門述岳

青春速天機。素秋馳白日。美人歸重泉。悽愴無終畢。殯宮已肅清。松柏轉蕭瑟。俯仰未能弔。尋念非但一。撫衿悼寂寞。恍然若有失。明月入綺窗。髮鬢想蕙質。銷憂非萱草。永懷寄夢寐。夢寐復冥冥。何由覩爾形。我慙北海術。爾無帝女靈。駕言出遠山。徘徊泣松銘。雨絕無還雲。花落豈留英。日月方代序。寢興何時平。

陸平原羈機

儲后降嘉命。恩紀被微身。明發眷桑梓。永歎懷密親。流念辭南澨。銜怨別西津。馳馬遵淮泗。旦夕見梁陳。服義追上列。矯迹厠宮臣。朱轂咸髦士。長纓皆俊人。契闊承華內。綢繆踰歲年。日暮聊摠駕。逍遙觀洛川。徂沒多拱木。宿草陵寒煙。遊子易感懷。躑躅還自憐。願言寄三鳥。離思非徒然。

左記室史思

韓公淪賈藥。梅生隱市門。百年信荏苒。何用苦心魂。當學衛霍將。建功在河源。珪組賢君昉。青紫明主恩。終軍才始達。賈誼位方尊。金張服貂冕。許史乘華軒。王侯貴片議。公卿重一言。太平多歡娛。飛蓋東都門。顧念張仲蔚。蓬蒿滿中園。

張黃門雨苦協

丹霞蔽陽景。綠泉涌陰渚。水鶴巢層臺。山雲潤柱礎。有矣興春節。愁霖貫秋序。變燮涼葉奪。戾戾颺風舉。高談玩四時。索居慕儔侶。青苔日夜黃。芳蕤成宿楚。歲暮百慮交。無以慰延佇。

劉太尉傷瓊

皇晉邁陽九。天下橫氛霧。秦趙值薄蝕。幽并逢虎據。伊余荷寵靈。感激徇馳騫。雖無六奇術。冀與張韓遇。寧戚扣角歌。桓公遭乃舉。苟息冒險難。實以忠貞故。空令日月逝。愧無古人度。飲馬出城濠。北望沙漠路。千里何蕭條。白日隱寒樹。投袂既憤懣。撫枕懷百慮。功名惜未立。玄髮已改素。時哉苟有會。治亂惟冥數。

盧郎中交謹

大廈須異材。廊廟非庸器。英俊著世功。多士濟斯位。眷顧成綢繆。迺與時髦匹。姻媾久不虛。契闊豈但一。逢厄既已同。處危非所恤。常慕先達槩。觀古論得失。馬服為趙將。疆場得清謐。信陵佩魏印。秦兵不敢出。慨無幄中策。徒慙素絲質。羈旅去舊鄉。感遇喻琴瑟。自顧非杞梓。勉力在無逸。更



以畏友朋。濫吹乖名實。

郭弘農仙遊

崦山多靈草。海濱饒奇石。偃蹇尋青雲。隱淪駐精魄。道人讀丹經。方士鍊玉液。朱霞入窗牖。曜靈照空隙。傲睨摘木芝。陵波采水碧。眇然萬里遊。矯掌望煙客。永得安期術。豈愁濛汜迫。

張廷尉述雜綽

太素既已分。吹萬著形兆。寂動苟有源。因謂殤子夭。道喪涉千載。津梁誰能了。思乘扶搖翰。卓然陵風矯。靜觀尺椽義。理足未嘗少。問問秋月明。憑軒詠堯老。浪迹無蚩妍。然後君子道。領略歸一致。南山有綺皓。交臂久變化。傳火乃薪草。疊疊玄思清。曾中去機巧。物我俱忘懷。可以狎鷗鳥。

許徵君自序詢

張子闇內機。單生蔽外像。一時排冥筮。冷然空中賞。遣此弱喪情。資神任獨往。采藥白雲隈。聊以肆所養。丹葩曜芳蕤。綠竹陰閑敞。茗茗寄意勝。不覺陵虛上。曲樞激鮮飈。石室有幽響。去矣從所欲。得失非外獎。至哉操斤客。重明固已朗。五難既灑落。超迹絕塵網。

段東陽興仲文

晨遊任所萃。悠悠蘊真趣。雲天亦遼亮。時與賞心遇。青松挺秀蔓。惠色出喬樹。極眺清波深。緬映石壁素。瑩情無餘滓。拂衣釋塵務。求仁既自我。玄風豈外慕。直置忘所幸。蕭散得遺慮。

謝僕射覽混

信矣勞物化。憂衿未能整。薄言遵郊衢。摠轡出臺省。淒淒節序高。寥寥心悟永。時菊曜巖阿。雲霞冠秋嶺。眷然惜良辰。徘徊踐落景。卷舒雖萬緒。動復歸有靜。曾是迫桑榆。歲暮從所秉。舟壑不可攀。忘懷寄匠郢。

陶徵君居潛

種苗在東臯。苗生滿阡陌。雖有荷鋤倦。濁酒聊自適。日暮巾柴車。路闢光已夕。歸人望煙火。稚子候檐隙。問君亦何爲。百年會有役。但願桑麻成。蠶月得紡績。素心正如此。開逕望三益。

謝臨川山遊靈運

江海經邇迴。山嶠備盈缺。靈境信淹留。賞心非徒設。平明登雲峯。杳與廬霍絕。碧障長周流。金潭恆澄澈。桐林帶晨霞。石壁映初晰。乳竇既滴瀝。丹井復寥泝。岳嶠轉奇秀。岑峯還相蔽。赤玉隱瑤溪。雲錦被沙汭。夜聞猩猩啼。朝見鼯鼠逝。南中氣候暖。朱華凌白雪。幸遊建德鄉。觀奇經禹穴。身名竟誰辨。圖史終磨滅。且泛桂水潮。映月游海滄。攝生貴處順。將爲智者說。

顏特進宴延之

太微凝帝宇。瑤光正神縣。揆日祭書史。相都麗聞見。列漢構仙宮。開天製寶殿。桂棟留夏飈。蘭櫞停冬霰。青林結冥濛。丹巘被葱蒨。山雲備卿靄。池卉具靈變。重陽集清氛。下輦降玄宴。鴛鴦望分寰。隧。矚目盡都甸。氣生川岳陰。煙滅淮海見。中坐溢朱組。步欄筵瓊弁。禮登佇睿情。樂閱延皇眄。測



恩躋踰逸。汎牒情浮賤。榮重餽兼金。巡華過盈瑱。敢飾與人詠。方慙綠水薦。

謝法曹別惠連

昨發赤亭渚。今宿浦陽汭。方作雲峯異。豈伊千里別。芳塵未歇席。涔淚猶在袂。停臚望極浦。弭棹阻風雪。風雪既經時。夜永起懷思。汎濫北湖游。茗亭南樓期。點翰詠新賞。開袞瑩所疑。摘芳愛氣馥。拾藥憐色滋。色滋畏沃若。人事亦銷鑠。子衿怨勿往。谷風謂輕薄。共乘延州信。無慙仲路諾。靈芝望三秀。孤筠情所託。所託已殷勤。祇足攬懷人。今行疇曠外。銜思至海濱。覲子杳未儻。款睇在何辰。雜珮雖可贈。疏華竟無陳。無陳心惰勞。旅人豈遊遨。幸及風雪霽。青春滿江臯。解纜候前侶。還望方鬱陶。煙景若離遠。末響寄瓊瑤。

王微君養微疾

窈窕瀟湘空。翠礪澹無滋。寂歷百草晦。歛吸鷓鴣悲。清陰往來遠。月華散前墀。鍊藥曠虛幌。汎瑟臥遙帷。水碧驗未贖。金膏靈詎縑。北渚有帝子。蕩漾不可期。悵然山中暮。懷痾屬此詩。

袁太尉從駕湖

宮廟禮哀敬。粉邑道嚴玄。恭潔由明祀。肅駕在祈年。詔徒登季月。戒鳳藻行川。雲旆象漢徙。宸網擬星懸。朱權麗寒渚。金鏡映秋山。羽衛藹流景。綵吹震沈淵。辨詩測京國。履籍鑑都壇。萌謠響玉律。邑頌被丹絃。文軫薄桂海。聲教燭冰天。和惠頌上笏。恩渥浹下筵。幸侍觀洛後。豈慕巡河前。服義方無沫。展歌殊未宣。

謝光祿遊郊莊

肅吟出郊際。徒樂逗江陰。翠山方藹藹。青浦正沈沈。涼葉照沙嶼。秋榮冒水潯。風散松架險。雲鬱石道深。靜默鏡縣野。四睇亂曾岑。氣清知鴈引。露華識猿音。雲裝信解鞅。煙駕可辭金。始整丹泉術。終覲紫芳心。行光自容裔。無使弱思侵。

鮑參軍行戎昭

豪士枉尺璧。宵人重恩光。徇義非爲利。執羈輕去鄉。孟冬郊祀月。殺氣起嚴霜。戎馬粟不煖。軍士冰爲漿。晨上城臯坂。磧礫皆羊腸。寒陰籠白日。太谷晦蒼蒼。息徒稅征駕。倚劍臨八荒。鷓鴣不能飛。玄武伏川梁。鍛翻由時至。感物聊自傷。豎儒守一經。未足識行藏。

休上人別怨

西北秋風至。楚客心悠哉。日暮碧雲合。佳人殊未來。露彩方泛豔。月華始徘徊。寶書爲君掩。瑤琴詎能開。相思巫山渚。悵望陽雲臺。膏鑪絕沈燎。綺席生浮埃。桂水日千里。因之平生懷。

騷上

離騷經

屈平

帝高陽之苗裔兮。朕皇考曰伯庸。攝提貞于孟陬兮。惟庚寅吾以降。皇覽揆余于初度兮。肇錫余以嘉名。名余曰正則兮。字余曰靈均。紛吾既有此內美兮。又重之以脩能。扈江離與辟芷兮。紉秋



蘭以爲佩。汨余若將不及兮。恐年歲之不吾與。朝搴阰之木蘭兮。夕攬洲之宿莽。日月忽其不淹兮。春與秋其代序。惟草木之零落兮。恐美人之遲暮。不撫壯而棄穢兮。何不改乎此度也。乘騏驎以馳騁兮。來吾導夫先路。昔三后之純粹兮。固衆芳之所在。雜申椒與菌桂兮。豈維紉夫蕙茝。彼堯舜之耿介兮。既遵道而得路。何桀紂之昌披兮。夫唯捷徑以窘步。惟黨人之偷樂兮。路幽昧以險隘。豈余身之憚殃兮。恐皇輿之敗績。忽奔走以先後兮。及前王之踵武。荃不察余之中情兮。反信讒而齎怒。余固知謇謇之爲患兮。忍而不能舍也。指九天以爲正兮。夫唯靈脩之故也。初既與余成言兮。後悔遜而有佗。余既難離別兮。傷靈脩之數化。余既滋蘭之九畹兮。又樹蕙之百畝。畦菑蕙與揭車兮。雜杜蘅與芳芷。冀枝葉之峻茂兮。願埃時乎吾將刈。雖萎絕其亦何傷兮。哀衆芳之蕪穢。衆皆競進以貪婪兮。憑不厭乎求索。羌內恕己以量人兮。各興心而嫉妬。忽馳騫以追逐兮。非余心之所急。老冉冉其將至兮。恐脩名之不立。朝飲木蘭之墜露兮。夕餐秋菊之落英。苟余情其信姱以練要兮。長顛頤亦何傷。擗木根以結茝兮。貫薜荔之落藥。矯菌桂以紉蕙兮。索胡繩之纏纒。審吾法夫前脩兮。非時俗之所服。雖不周於今之人兮。願依彭咸之遺則。長太息以掩涕兮。哀人生之多艱。余雖好脩姱以鞿羈兮。謇朝諝而夕替。既替余以蕙纒兮。又申之以攬茝。亦余心之所善兮。雖九死其猶未悔。怨靈脩之浩蕩兮。終不察夫人心。衆女嫉余之蛾眉兮。謠諑謂余以善淫。固時俗之工巧兮。偃規矩而改錯。背繩墨以追曲兮。競周容以爲度。忲鬱悒余侘傺兮。吾獨窮困乎此時也。寧溘死以流亡兮。余不忍爲此態也。鸞鳥之不羣兮。自前世而固然。何方圓之能周兮。夫孰異道而相安。屈心而抑志兮。忍尤而攘詬。伏清白以死直兮。固前聖之所厚。悔相道之不察兮。延佇乎吾將反。迴朕車以復路兮。及行迷之未遠。步余馬於蘭皋兮。馳椒丘且焉止息。進不入以離尤兮。退將復脩吾初服。製芰荷以爲衣兮。集芙蓉以爲裳。不吾知其亦已兮。苟余情其信芳。高余冠之岌岌兮。長余佩之陸離。芳與澤其雜糅兮。唯昭質其猶未虧。忽反顧以游目兮。

將往觀乎四荒。佩繽紛其繁飾兮。芳菲菲其彌章。人生各有所樂兮。余獨好脩以爲常。雖體解吾猶未變兮。豈余心之可懲。女嬃之嬋媛兮。申申其詈予。曰鮌婞直以亡身兮。終然天乎羽之野。汝何博謔而好脩兮。紛獨有此姱節。蕝荼蒺以盈室兮。判獨離而不服。衆不可戶說兮。孰云察余之中情。世竝舉而好朋兮。夫何鞿獨而不予聽。依前聖之節中兮。喟憑心而歷茲。濟沅湘以南征兮。就重華而陳詞。啓九辯與九歌兮。夏康娛以自縱。不顧難以圖後兮。五子用失乎家巷。羿淫遊以佚田兮。又好射夫封狐。固亂流其鮮終兮。泥又貪夫厥家。澆身被服疆圉兮。縱欲而不忍。日康娛而自忘兮。厥首用夫顛隕。夏桀之常違兮。乃遂焉而逢殃。后辛之菹醢兮。殷宗用而不長。湯禹嚴而祇敬兮。周論道而莫差。舉賢而授能兮。脩繩墨而不頗。皇天無私阿兮。覽人德焉錯輔。夫維聖哲以茂行兮。苟得用此下土。瞻前而顧後兮。相觀人之計極。夫孰非義而可用兮。孰非善而可服。陋余身而危死兮。覽余初其猶未悔。不量鑿而正枘兮。固前脩以菹醢。曾獻歎余鬱悒兮。哀朕時之不當。覽茹蕙以掩涕兮。霑余襟之浪浪。跪敷衽以陳辭兮。耿吾既得此中正。馳玉虬以乘鸞兮。溢埃風余上征。朝發軔於蒼梧兮。夕余至乎縣圃。欲少留此靈璣兮。日忽忽其將暮。吾令羲和弭節兮。望崦嵫而勿迫。路漫漫其脩遠兮。吾將上下而求索。飲余馬於咸池兮。馳余轡乎扶桑。折若木以拂日兮。聊須臾以相羊。前望舒使先驅兮。後飛廉使奔屬。鸞皇爲余先戒兮。雷師告余以未具。吾令鳳凰飛騰兮。又繼之以日夜。飄風屯其相離兮。帥雲霓而來御。紛總總其離合兮。班陸離其上下。吾令帝閭開關兮。倚闔闔而望予。時曖曖其將罷兮。結幽蘭而延佇。世溷濁而不分兮。好蔽美而嫉妬。朝吾將濟於白水兮。登閭風而馳馬。忽反顧以流涕兮。哀高丘之無女。溘吾遊此春宮兮。折瓊枝以繼佩。及榮華之未落兮。相下女之可貽。吾令豐隆垂雲兮。求虛妃之所在。解佩纒以結言兮。吾令蹇脩以爲理。紛總總其離合兮。忽緯繡其難遷。夕歸次於窮石兮。朝濯髮乎洧槃。保厥美以驕傲兮。日康娛以淫遊。雖信美而無禮兮。來違弃而改求。覽相觀於四極兮。周流乎天余乃下。望